

平成25年度 宇都宮大学 全学FDの日

1. 日 時 平成25年9月27日（金）13時から
2. 場 所 大学会館2階 多目的ホール
（工学部アカデミアホールに映像・音声配信）

3. 日 程

【表彰】

13:00 ベストレクチャー賞表彰及び受賞者による授業実践の紹介

【全学FDシンポジウム】

14:10 挨拶（学長 進村武男）

14:15 講演「アクティブ・ラーニングによる教育の現状と実践的課題」
（関西大学教育推進部教授 三浦真琴 氏）

15:05 質疑応答

15:30 各部局の報告

演題「アクティブ・ラーニング型授業の実践例、その成果と課題」

報告者 基盤教育センター 若園雄志郎 特任准教授

教育学部 南 伸昌 教授

工学部 横田和隆 教授

16:30 講演者・報告者による討論会及び質疑応答

司会 教育学部 酒井一博 教授

（参考：学部等の取組）

10:00～11:30 個別FD活動

国際学部：国際学部 A棟 4階 大会議室

教育学部：教育学部 A棟 2階 大会議室

工 学 部：機械系 7号館 4階 学科会議室

電気系 3号館 2階 322 番教室

化学系 2号館 2階 222 番教室

建設系 10号館 6階 専攻会議室

情報系 3号館 3階 リモートレクチャールーム

農 学 部：峰ヶ丘講堂

基盤教育：大学会館 2階ロビー（11:00～18:00 ポスター設置）

目 次

第10回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿	1
第10回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項	2
講演「アクティブ・ラーニングによる教育の現状と実践的課題」 (関西大学教育推進部教授 三浦真琴 氏)	3
各部局の報告	
基盤教育センター (若園雄志郎 特任准教授)	41
教育学部 (南 伸昌 教授)	44
工学部 (横田和隆 教授)	50

第10回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿

学部等名	授業科目名	担当教員名	備 考
国際学部	Japan's International Relations	清水 奈名子	表彰式(全学FDの日)における発表者
教育学部	工芸理論	松島 さくら子	
	社会教育計画Ⅱ	佐々木 英和	所属:地域連携教育研究センター
	生徒指導・進路指導 (中・高校を中心とする)	澤田 匡人	表彰式(全学FDの日)における発表者
工学部	土木計画学Ⅰ 交通計画 土木計画学Ⅱ	森本 章倫	表彰式(全学FDの日)における発表者
	コンクリート工学Ⅰ	藤原 浩巳	
	設備工学Ⅰ	郡 公子	
農学部	生物化学Ⅰ 生物化学Ⅱ	蕪山 由己人	表彰式(全学FDの日)における発表者
	肥料学 植物栄養学	関本 均	
基盤教育	Integrated English II 34クラス	担当教員チーム 江川 美知子 ベナー バイロン グラント 金子 義隆 五十嵐 香 太田 聡一 立田 夏子 恒安 眞佐 中田 貴眞 藤井 拓哉	所属:基盤教育センター
	新入生セミナー	守友 裕一	表彰式(全学FDの日)における発表者 所属:農学部
	インターネットのしくみ	三原 義樹	所属:総合メディア基盤センター
	中国語基礎Ⅳ	松金 公正	所属:国際学部

第10回 「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項

平成25年5月29日 教育企画会議

本学では、基本的な教育目標として「広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践し、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する。」を掲げている。

この教育目標を達成するための一環として、優れた講義を行っている教員にベストレクチャー賞を授与し、併せて、教員相互の授業改善の意識向上に役立てることを意図している。

なお、ベストレクチャー賞は、優れた授業への取組みであることに鑑み、本学における志願者確保等の観点から、その取組内容を広報活動においても活用することとする。

以下に「第10回宇都宮大学ベストレクチャー賞」の選考について必要事項を定める。

1. 対象は、専任教員が担当する学士課程のすべての授業科目（以下「科目」という。）とし、当該科目を複数で担当している場合は、その代表者とする。
2. ベストレクチャー賞の選考は、平成24年度前期及び後期の「授業評価アンケート」を参考に、教育企画会議において決定する。
 - ①国際学部、教育学部、工学部、農学部の専門教育科目担当者及び基盤教育科目担当者から選出する。候補者数は開講科目数を勘案し、基盤教育4名、国際学部1名、教育学部3名、工学部3名、農学部2名とする。
 - ②「授業評価アンケート」の回答者数が10人以上の科目を対象とする。
 - ③授業評価項目4から9の平均点は、概ね4.0以上とする。
 - ④その他、選考内容・方法は教育企画会議が定める。
3. ベストレクチャー賞受賞者には、「全学FDの日」において学長から表彰状、副賞及び教員研究費10万円を授与する。
4. ベストレクチャー賞受賞者の取組内容については、他の教員の授業改善の意識向上に役立てること、さらには広報活動に活用するため、以下の事項について考慮する。
 - (1) 受賞者は授業に対する心構えや取り組み方などをまとめた資料「授業概要」を作成し、「全学FDの日」において15分程度の発表を行う。
 - (2) 「授業概要」を学内向けHPに公開するとともに、オープンキャンパスの日などに模擬講義を実施する。
 - (3) 受賞者の模擬講義（10分～15分程度）をビデオ収録し、これを蓄積したものを本学HP等に公開する。

アクティブ・ラーニングによる 教育の現状と実践的課題

関西大学 教育推進部・教育開発支援センター

三浦 真琴

Paradigm Shift

1st Research → Teaching

2nd Teaching → Learning
教育の提供 学習の創出

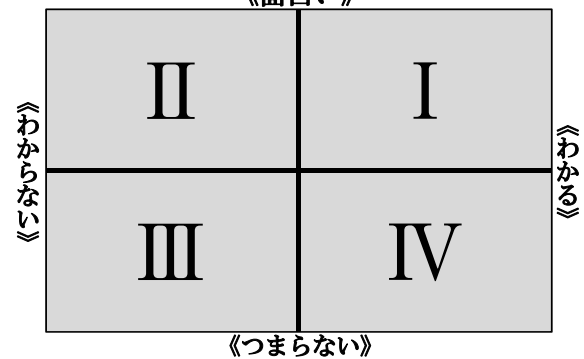
From Teaching to Learning

- ◇ “1st Shift” の反省
教師にとって都合のよいTeaching
- ◇ “How to” からの脱却

cf. 学生消費者主義・アカウントビリティ・Generation X

よい授業とは...

《面白い》



How to Teach からの脱却

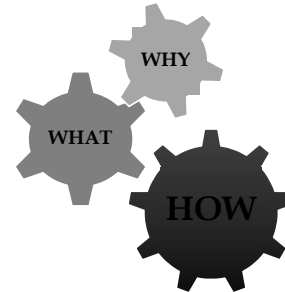
- ◇ “What to Teach” の見直し
- ◇ “What not to Teach” という発想
- ◇ “Why to Teach” という省察

目指す方向は...

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見だしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。〔中央教育審議会、2012〕

Active Learningの 効果的な実践を目指して

はじめになすべきこと



大切なことは...

- ◇ 自分なりの「理由・目的・方法」を編む
- ◇ “My version of the Truth”
- ◇ 一般的な傾向・動向を少し知っておく

多様にして曖昧な定義

- 一種のトートロジー
- 教授モデル
- 教育的活動
- 教授学習戦略
- エトセトラ...

多様にして曖昧な定義

Active Learning

- Concept:
- Background:
- History:
- Utility:
- Method:
- etc.:

⇒ だからこそ “My version” が必要（再度）

A.A.H.E.の「学習」観

学習とは学習者が能動的に意味を探求する営みである。知識を受動的に得るのではなく、それを構築する営みである。その知識は経験によって形作られるものであると同時に、これから先の経験を構築していくもととなるものでもある。

— American Association for Higher Education(AAHE), et. al., 1998

中央教育審議会の定義

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を採り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」

「能動的な学習」に関する日本的な誤解

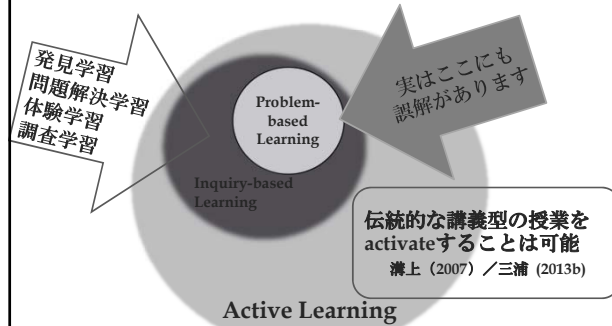


Fig. by Spronken-Smith et.al. (2010)

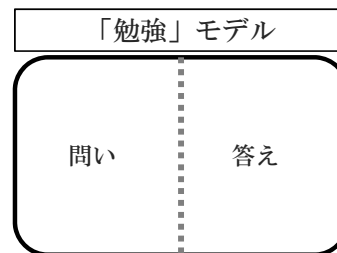
留意すべきことは何か

意味の探求
知識の構築
経験の基盤

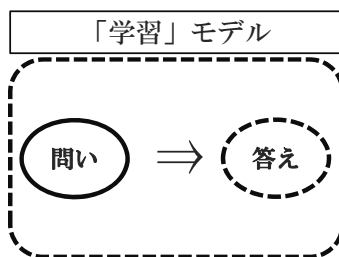
知識獲得過程に
対する深慮遠謀

従来の知識転移型講義に
欠如していたもの・こと

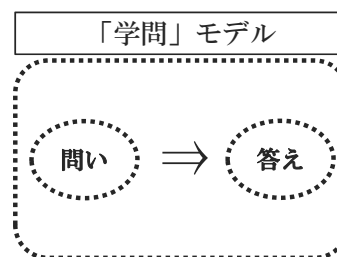
「知識」獲得のモデル ①



「知識」獲得のモデル ②



「知識」獲得のモデル ③



“Problem-based learning
is
a style of active learning.”

Hmelo-Silver, Cindy E. (2004), Barrows, Howard S. (1996)など

Problem- Based Learning

1. Student Centered Learning
2. Learning is done in Small Student Groups
3. Facilitators or Tutors guide the students rather than teach
4. A Problem forms the basis for the organized focus of the group, and stimulates learning
5. The problem is a vehicle for the development of problem solving skills
6. New knowledge is obtained through Self-Directed Learning

Barrows, Howard S. (1996)

PBLに関する誤解と課題

一般に「問題発見・解決学習」と呼ばれるが多くの場合、教員が「課題」を提供し、学生がその課題を「解く」ことが求められる。「問い」を「解く」ための「調査」が主となるため、「IBL」に分類するのが妥当である

「問い」を与えられることに慣れてしまうと「問い」の構造や奥行き、意味や価値について考えることをしなくなる

『学問モデル』としてのPBL

「問い」の発掘・発見

「問い」としての成立可能性
「社会性」・「公共性」 についての熟思三考

「紐帯」「連関」の実感
「限定的枠組みなき実践」

三浦 (2012b)

(参考) 講義とIBLとPBLの違い



「知識」獲得の支援

LA (Learning Assistant)の活用

— 発掘・育成・協働 —

(破廉恥とは思いつつ) 小職の実践の紹介

大人数講義: 『教職概説』 Talk & Chalk & 『広場』

小人数PBL: 『スタディスキルゼミ』 『学問』モデル

『文章力をみがく』 Lifelong writing/ what to

大人数PBL: 『大学教育論』 学問モデル & 学生参画型

汎用性が期待される工夫

Grouping: 『カードの法則』 (小)
『学習スタイルのインベントリー』 (大)

Ice Break: 『ミラーリング』

Communication: 『World Cafe』

大切なことは...

PBLは有効ではあるが万能ではない

全科目において展開する必要はない

初年次学生を対象とするのが望ましい

さらに大切なことは...

“Be patient.”

『学生を信じること』

『教師自らも active になること』

Appendix

関西大学・教育推進部 教育開発支援センター
三浦 真琴

【Paradigm Shift について】

「アメリカの高等教育界にはパラダイムシフトが生起している。新旧のパラダイムを極めて簡潔に描写すると次のようになる。今までアメリカの大学を支配していたのは『大学とは教育を提供するために存在している機関である』という考え方だった。しかし、少しずつではあるが確実にアメリカの大学は新しい考え方に向けて歩みを進めつつある。すなわち『大学とは学習を創出するために存在している機関である。』」

— Robert B. Barr and John Tagg (1995)

【教育パラダイムと学習パラダイムの比較】

大学の使命・目的	教育パラダイム	学習パラダイム
成功の判断基準	教育の提供	学習の創発
教育/学習成果の位置づけ	教育のクオリティ	学習のクオリティ
学習理論	学位は単位(受けた授業数)の関数	学位は知識とスキルの関数
教員の役割	知識取得の外在性/ 教員による伝達	知識創造の内在性/ 学生による構築・獲得
	知識伝達専門家	学習環境のデザイナー

— Robert B. Barr and John Tagg (1995) より作成

【Active Learning の定義について】

『アクティブラーニング』の定義についてはあまねく受け入れられるものはない。そればかりか、学習それ自体が人のなせる他の営みと同様の活動なのであるから、学習という言葉がつけば、それはそもそも能動的なもののだとする立場の人もいる。」

— McManus, M. and Taylor, G., 2009

「アクティブラーニングとは学習者自身が学習に責任を持つことを重視した複数の教授モデルを表す包括的用語 (umbrella term) として用いられている。」

— 根本・鈴木、2008

「Active Learning とは学生をなんらかの作業に参加させ、しかも自身が遂行している作業

の意味や目的について考えるように促す教育的な活動のことである。」

— Bonwell, C.C., and Eison, J.A. 1991

「Active Learning とは、学生を学習のプロセスへと駆り立て、巻き込むための教授学習戦略である。」

— McKeachie, W. J., 1998

「学習とは学習者が能動的に意味を探索する営みである。知識を受動的に得るのではなく、それを構築する営みである。その知識は経験によって形作られるものであると同時に、これから先の経験を構築していくともとなるものである。」

— American Association for Higher Education(AAHE), et. al., 1998

「Active Learning とは、授業者からの一方的な知識の伝達によって引き起こされる受動的な学習に対峙する状態あるいは行為である。それが学習者の能動的な学習を教育目標として取り込んだ授業形態や、そのような授業を実現するための教授法・授業デザインなどの戦略・方略を意味するものとして用いられることもある。具体的には、例えば他の学生との対話や協同作業、あるいは個々の省察を経るなど、知識を獲得するための知的プロセスを体験することによって、自らの経験と実生活とに関連性の深い知識を創造し、構築するための営みのことである。」

— 三浦、2010

【伝統的な授業を activate する】

コメントを書かせる・ディベートをする・レスポンスアライザーの活用・教員からのコメント・他の学生のコメントや質問の明示・オンライン上のリフレクション等 溝上(2007) 毎回の小レポートから 20~30 編をピックアップし、それぞれに教員のコメントを付したものを『広場』として次の授業でフィードバック

【従来の知識転移型講義に欠如していたこと・もの】

Undergraduate courses should

- A1. be *student-centered* and encourage students to "learn to learn."
- A2. provide opportunities to *think critically* and to *analyze and solve problems*.
- A3. assist students in developing skills in gathering and evaluating information.
- A4. provide experience *working cooperatively* in teams and small groups.
- A5. help students acquire *versatile and effective communication skills*.
- A6. offer a *variety of learning experiences*.
- A7. apply technology effectively where it will enhance learning.

(<http://technologysource.org/extra/404/definition/1>)

【従来の知識転移型授業と新しい知識創生型授業の違い】

Pedagogy	Andragogy*
Teaching-centered	Learning-centered
緊張感・距離感	リラックス
競争・権威志向	信頼感・協働
Surface approach	Deep approach
想起レベル・解釈レベルの知識	問題解決レベルの知識

* 【アンドラゴジーの特徴】

- 1.自ら学ぶことに関する計画と評価（への主体的関与）
- 2.学習活動の基盤としての経験の価値（の再認識）
- 3.自らの生活・職業に密接につながるテーマへの関心
- 4.問題中心型

【Grouping のための工夫】

《4桁の数字が記されたカード》

3 3 3 3	2 2 4 4	4 5 4 5	6 6 6 6
荒 ■ 敏太	上 ■ 彩	増井 ■ 美	中島 ■ 奈
4 4 4 4	1 2 3 4	1 1 1 1	7 7 7 7
安藤 ■ 子	大川 ■ 佳	宗 ■ 伸介	■ 田 泰尚
2 2 2 2	5 5 5 5	2 3 4 5	8 8 8 8
市川 ■ 拓	大坂 ■ 萌	■ 木 明寿香	■ 屋 尚之
3 4 5 6	9 9 9 9	6 7 8 9	3 5 7 9
香川 ■ 也	緒方 ■ 穂	山内 ■ 明	上野 ■ 博
1 3 5 7	4 5 6 7	6 6 8 8	4 4 4 4
川村 ■ 彩	亀井 ■ 帆	大 ■ 紗也加	佐治 ■ 人
2 4 6 8	5 6 7 8	4 4 4 5	1 3 1 3
■ 澤 正貴	菊永 ■ 里	吉田 ■	田中 ■ 月
1 1 1 3	2 2 2 6	3 3 3 9	3 4 5 6
■ 久 七海	■ 谷 美菜	米田 ■ 衣	波多江 ■ 介
1 1 2 3	2 2 2 4	1 1 4 4	2 2 3 3
■ 野 善之	■ 西 ■ 絵梨奈	■ 井 絵理佳	平井 ■ 陸
2 2 5 5	5 4 3 2	8 7 6 5	3 1 2 2
■ 田 佳乃	■ 原 史織	安 ■ 時生	■ 田 史織

《学習スタイルのインベントリー》

学習スタイルのインベントリー

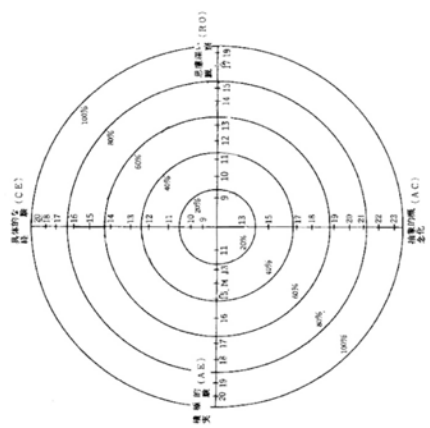
このインベントリーは、あなた自身の学習方法をよりかえって見ることでできるような作成されたものです。あなたの学習方法の特色を最もよく表している単語に最高点、そして最も当てはまらないものに最低点をつけてください。
 正解はありませんから、あなたの学習スタイルの特色を最もよく表す単語を選択するのはなかなか難しいかもしれません。ここに掲げられている単語は、すべて等しく、いわばよい特徴を表しています。このインベントリーの目的は、あなたの学習方法を記述するためのものであり、学習能力を評価しようとするものではありません。

記入法

いかに1つの単語からなる9つのセットが示されています。各セットごとに、あなたの学習スタイルを最もよく表していると思う単語に4、その次に当てはまると思うものに3、その次に2、最も選いと思われものに1をつけてください。なお、同じ順位はつけないで、それぞれの単語に必ず1から4までの数字を記入してください。

- ・ 論理的
- ・ 分析的
- ・ 体系的
- ・ 概念的
- ・ 直感的
- ・ 直線的
- ・ 抽象的
- ・ 具象的
- ・ 現在指向的
- ・ 経路
- ・ 集中的
- ・ 随意的
- ・ 漫散的
- ・ 非体系的
- ・ 非論理的
- ・ 非具象的
- ・ 非現在指向的
- ・ 非経路
- ・ 非集中的

集計用
 CE 234578 RO 136789 AC 136789 AE



- 溝上慎一(2007)「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」『名古屋高等教育研究』第7号、pp.269-287
- 三浦真琴(2010)「Active Learning の理論と実践に関する一考察 LA を活用した授業実践報告(1)」『関西大学高等教育研究』創刊号、pp.25-35
- 三浦真琴(2011a)「Active Learning の理論と実践に関する一考察 LA を活用した授業実践報告(2)」『関西大学高等教育研究』第2号、pp.1-7
- 三浦真琴(2011b)「Solvitur ambulando -『包み込む養成』を実現するために-」『言語聴覚研究』第8巻第1号、日本語聴覚士協会、pp.31-37
- 三浦真琴(2012a)「Active Learning の理論と実践に関する一考察 LA を活用した授業実践報告(3)」『関西大学高等教育研究』第3号、pp.81-88
- 三浦真琴(2012b)「第13章 スタディスキルゼミ(課題探求)」『初年次教育におけるアクティブ・ラーニング型授業デザインブック』関西大学教育推進部 教育開発支援センター、pp.90-107
- 三浦真琴(2013a)「Active Learning の理論と実践に関する一考察 LA を活用した授業実践報告(4)」『関西大学高等教育研究』第4号、pp.29-53
- 三浦真琴(2013b)「三浦流の学生と楽しむ大学教育」『学生と楽しむ大学教育 日本のUDという発想』ナカニシヤ出版(近刊予定)
- R. Spoken-Smith, J. Bullard, W. Ray, C. Roberts, & A. Keiffer, 'Where Might Sand Dunes be on Mars? -Engaging Students through Inquiry-based Learning in Geography'in M. Healey, E. Pawson & M. Solem (eds.), *Active Learning and Student Engagement*, Routledge, 2010
- R. B. Barr & J. Tagg, 'From Teaching to Learning -A New Paradigm for Undergraduate Education', *Change*, 1995
- Hmelo-Silver, Cindy E.(2004) "Problem-Based Learning: What and How Do Students Learn?" *Educational Psychology Review* 16 (3) 235-266
- Barrows, Howard S. (1996) "Problem-based learning in medicine and beyond: A brief overview" . *New Directions for Teaching and Learning* 1996 (68): 3-12

『教職概説』の広場 Part 1

今まで小中高と授業を受けてきて、いろいろな考え方を自分の中で持っていると思っていたけど、モノクロとカラーの違いを一つの観点からしか見つけていなかったことに気づきました。これから教師を目指すと思う自分にとって、一つの方向からしか物事を考えることができないということ、自分が教える立場でしか考えない、自己中心的な教師になっただけでいいから学校というたぐさの考え方を持ったいろんなひとがいるところに身を置こうとするには、もっといろんな方向からの視点で物事を見つめて、考えていくことが必要だと思います。(将士)→今回、わたくしが申し上げたことを「固定観念」あるいは「自己中心的」というタームで括ってしまおうとすることもある種の固定観念のなせるわざだと考えてみると、どうなるでしょうか。ぐるぐる、なにやら無限ループに入っていくような錯覚にとらわれるかもしれませんね。でも、そこからの脱出をはかりましょう。／わたくしは想像力が必要だと考えています。例えば、教師のほとんどは民間企業での就業体験がありません。官公庁での勤務も、自営業の経験もないでしょう。学校以外の社会をあまりよくは知らないと言ってもよいかもしれません。けれどもクラスの生徒の親の多くは教師が経験したことのない世界にいる人々です。経験していないことを補えるのは想像力ですね。もう少し詳しく申し述べると『社会学的想像力 (sociological imagination)』です。興味をお持ちになったのならライト・ミルズの作品を是非お読み下さい。『社会学的想像力』Charles Wright Mills、鈴木広訳、紀伊國屋書店、おすすめの一冊です。

普段から物事を多面的に見ることは大切なことだと考え、自分もそうするように心がけていたけれど、実際はすごく一方的な考え方しかしていないのだと気づきました。これから教育を勉強するにあたって、まず考え方から理想に近づけるように改善していこうと思えました。想像力や思考力といったものをふくらませることが大切だと思いました。(梨世)→まさに、わたくしが上で申し述べたこと一想像力を豊かにすることの大切さ一を再確認されたのですね。すばらしい。／「そうするように心がけて」いても、なかなか心がけようにはいかないのが人の世の常。それは何故なのでしょう。私見ですが、あることを自然にできるようになるためには、不自然なほどの努力が必要なのだろうと考えています。スーパーアスリートたちが、あっと驚くようなブレイクパフォーマンスこともなげに見せ、私運を甦らしてくれるのは、彼ら彼女たちが普段から、それこそ不自然なほどのトレーニングを積み重ねているからなのでしょう。「不自然なほどの努力」、これに挑戦した後は、きっと「自然にできてしまう」習慣が身につくのではないのでしょうか。／「教育を勉強する」というのは、日本語の表現としても、論理としても、自然ではありません。どうしたらよいか、少しずつついでついでで考えていってください。

第一回目の授業を受けて感じたことは、高校までの授業とは全く違って、自分で考える力が求められているんだということでした。例えば高校では、公式や解法などをまず先生が生徒に教え、生徒はその型に当てはめて応用し、問題を解きます。他にも校則があり、染髪、スカート丈、運動などというような、従わ

なければならぬ型があります。しかし、今回の授業で物事の多角的見方があるということを知ってから、先生がどうしてそのような指導をされてきたのかということを考えてみるいい機会にもなりました。今後の授業でも先生が物事の多角的見方を教えて下さるということなので楽しみにしています。(明子)→高校と大学の授業の違いに関するたくさんの考えについては、別のレポートへのコメントにも書きましますので、ここではそれは別のことを綴りましょう。簡潔にまとめたいのは実は難しいのですが、ひとまず、高校での授業は「解き方」を伝授する傾向がきわめて強い、とでも言うておきましょうか。ところが大学にもそのような授業はありません。そのことをわたくしは大学に進学して知りたかったです。あつというまにその期待と真理を探究する知的な旅を体験・体感できると期待して門をくぐったのですが、あつというまにその期待は裏切られました。今でもああの時の感じが忘れられません。その感じがやっぱりあつというまに味わうようなことがあつてはならない、そんな気持ちがわたくしの中にまだ消えずにあります。ずんずんと話が進んでしまっています。お許しください。／校則については、本当に必要なかと思われれるものがあつたり、ここに多面的・多角的な見方をあつてはめと考えようという気持ちにはなかなかなれません。その理由は、校則が教師の都合、学校の都合に基づいて作られている場合が圧倒的に多いから、ということにあります。生徒や保護者の気持ちや立場を十分に斟酌した校則がはたしてどの程度あるのか、知りたいところです。／物事の多角的・多面的な見方が重要であるということはお伝えしますが、見方を教えるつもりは、現時点では持ち合わせていません。そんなことをしても決して「見方」は身につかないと思うからです。自分で試行錯誤し、自分にあったかたちを探すことによつてこそ、そのような「見方」が我がものとなるからです。もちろん、ヒントになるようなことはよほころんでお伝え致します。見逃さないように、聞き逃さないようにしてくださいね。

最初は先生のお名前と、先生がお子線につけたお名前前の由来から授業に入っていたので、教職概説はゆるい授業だと思いました。モノクロ、カラーの良いところ、悪いところを挙げていくというの、さつきのまでの話と同じ様な感じだろうと思っていました。けれど、分け方を考えたとき、先生が「1:14に分ける」とヒントをおっしゃつても、自分では全く分けられませんでした。先生が答えをおっしゃつたときに、とても納得し、自分も固定観念に縛られていたんだという事に気が付きました。今はまだ将来、教職に就くかは分かりませんが、教職に就く、就かないに関係なく、どんな仕事をすることも、仕事においても、多面的に物事を捉えることができるという事はとても重要であると確認することができました。これからは先生の教職概説で学ぶことで、こういった大事なことを知っていくことができたらしめたいです。(香織)→教師を目指す学生のために開講している授業で無駄話を長々とするつもりは…ありません。教師を目指す学生が対象でなくとも同じですけど、授業において、ちょっとした脱線話が多よしいアークセントになることはもちろん知っていますから、無駄話を頭から否定することはしません。いやそれどころか、これを授業で実践することで、その効果を再確認してもらおう、ということがあるかもしれません。今回は意図あつての「名前由来断」でしたが、ねらいを極めて簡潔に要するにウォーミングアップ、暖機運動だとお心得いただければと思います。「ゆるい」か「ゆるくないか」に限らず、単純な二分法から自由になることが多面的に物事を捉えるようになるために必要なのステップです。あなただの「まなび」を築き上げていきますよ。

名前は一生涯もので、すごく大切なものだと思う。今日の先生のお話のように、私も名前前で他の人がなかなかかしない体験をしたことがある。私の名前はひらがなのので、小学校のときは友だちに漢字が書けないうと思われたことや、中学校のときには、先生の子どもにつける名前前でひらがなはどうかという相談を受けたこともあった。最近では名前をほめられることが多く、自分の名前をすごく気に入っている。私も自分の子どもには素敵な体験ができるような、いい名前をつけたいと思う。白黒テレビとカラーテレビの質間で多角的に物事を見るということにつながるとは思わなかった。まだまだ自分は物事を多角的に見られていないので、これからそういう見方をつかり身につけたい。どんなことでも多くの点に気づいて、物事を柔軟に考えられたらいいと思う。(はな) →わたくしはとても素敵な名前だと思います。わたくしの記憶に残っている最初の朝の連続テレビ小説が「おはなはん」でした。大人気の国民的番組でした。幼心にも覚えていて、ハワイ語で「オハナ」と言えば家族のこと。言葉の響きがそのまま家族のあたたかさ、きずなを感じさせますね。そんなことまで思い出してしまいます。ひらがなの「はな」であることがすすき。ひらがなの曲線がやわらかさとぬくもりをあらわしているように感じます。／物事を多角的多面的に見つめるためのヒントは、もう一度戻直してみ、立場の違う人だったらどどのように見るだろうか、という「しかけ」を頭の中に常設しておくことです。常設のための工事にはやや時間がかかるかもしれませんが、ひとたび設置されれば、その後は格別意識しなくても、それができるようになるはずですよ。

はじめに先生の自己紹介と名前のお話を聞いて、ぼくは「人の話を聞く」というチャンネルにすぐに切り替わることができ、そうさせる先生の話し方をすごいと思ったと同時に、話のつかみの大切さも感じました。白黒テレビとカラーテレビの質問では、周りの同年代の学生さんがどのように考えているのかを聞いて、自分の考えたことと比べて、質問の意図にあったように、色々な角度や方面から考えていることがわかり、とても刺激を受けました。この授業を受けて、これからの半年間を視野の広い、想像力豊かな大学生活にしたいと思いました。(廉生) →お褒めに与り、たいそう光栄ですが、あなたの中に“channel for listening”があったこそ、そしてそのチャンネルに切り替えることが上手にできるからこそ話なのだと思います。／数年前までは自分の名前の話はずいぶん、受講生からの質問に答える形で自己紹介をしていました。題して「あなたからの質問で作るみうらまことの自己紹介コーナー」。もちろん、これにも意図がありました。背景には「大学の授業は学生と教師の双方が作るものである」という理念があり、それを短時間で構造的に体験すること、それがねらわれていた。最近を受講生からあまり質問が出なくなると、盛り上がりになりすぎるようになって、「名付けられて、名付けて」の話に変わったところなのです。もちろん、こちらにも意図がありますが、それは文末の編集後記にて。

最初の先生の名前に関するお話は面白かったです。自分も名字が日本全国に私の一族しかいない珍しいものなので、名前には深い関心があります。MONO と COLOR のお話は、私は想像力について答えましたが、他の人の意見を多く聴いて楽しかったです。先生はテレビの視聴者側と制作者側の線引きについて最後にお話をされましたが、言われるまで、その分け方には気づきませんでした。私が思っていたのは、美味しそうに見えるとか、臨場感が感じられるなどの感覚的なものと、情報を理解できるスピードなど、能力的なものにわけける方法だけでした。次からの授業も楽しみます。(彩) →わたくしも苗字にはかなり強い関

心を持っていきます。今までに知った珍しい苗字、ご存知かもしれませんが、ちょっとだけ紹介しておきましょう。「四月一日」「八月一日」「見月里」「小鳥遊」「十」「い」「東西南北」「春夏秋冬」。知り合ったところでは「五大院」(どうやら後醍醐天皇の末裔である可能性大なり、です。わたくし、調べました)、「仕名」(一あなたのお名前はと尋ねられて、「はい、しめいです」とこたえたと、だから、あなたのしめいをおぼえているのです、というようにやりとりを毎回のようにして疲れているとごぼしていただきました。高校のバレー部の後輩です)、いや、こちらは敬奉にいとまがないほどなので、今回はこの辺りでやめておきましょう。

今回の授業で取り上げたモノクロとカラーの adv と disadv、題材からして普段はあまり考えないような内容だったので、とてもおもしろかったです。私も自分なりの答えを考えながら聞いていましたが、この題材から多角的に物事を考えることの重要性を教えられたいと思っています。今まさに先生にだまされたような気分です。しかしだまされたような感覚は残ったと言いましたが、嫌な気分ではありません。これからは先生に良い意味でだまされて、いろいろな考え方に触れたいと思います。月並みなことしか書けませんが、これからはがんばりますので、よろしくお願ひします。(由貴) →ん〜、だますつもりはありませんが、だまされたとお感じになったのなら、どうしましょうか。「きつねにつままれた」という印象とも違うのかしら。おそらく予想だにしていなかった展開に戸惑った、ということなのでしょう。何故、それが想定外の範囲になったのか、ということについて、考えてみましょう。もししたら、(大学の) 授業って、○○○があって、その次に△△△がきて、そして最後には◇◇◇…、というような思い込み、つまり固定観念があったのではないか、そんな風にして自分の中にどのような固定観念が存在するかをちゃんとチェックしておくのは、とても大切な営みです。

私は遅れてしまい途中参加でしたが、先生同じく兄弟で何らかの共通性を名前に持つことは、親近感だったり、一体感がでるので、私の子どもにもそういう名前をつけたいです。私の姉は永遠で、弟は永遠といます。／モノクロとカラーの長所・短所でしたが、私は一方からの見解しかはあげることができず、固定観念は既に分かっていたが、しつかり根付いています。自分が教える立場になった時、生徒には柔軟な発想を要するクイズ(家に本がありませんけど、忘れしました)を出したりして楽しんでもらいたいと思います。時、時に固定観念は必要だと思うので(戦争は悪い、とか)、使い分ける能力がつけばいいなと思います。でも、これは私にとって都合の良いだけであるので、教える立場に立った時、押しつけても駄目かなと思います。短時間で考えるには難しい内容でした！面白かったです。(久遠) →素敵なお名前！三人それぞれで eternal、eternity の響き、輝きあるのはいいなあ。あなたのお名前はわたくしの父親の母校の校歌に登場するので、幼少の頃からこの言葉を知っていました。それを名前に持つ人をわたくしは初めて知りました。／「戦争は悪い」は固定観念ではありませんね。なぜ、これが固定観念とは違うのか、じっくりと考えてみてください。じっくりと考えるためには固定観念とたたかう必要がありますが、是非、チャレンジしてみてください。

次からの授業が楽しみになりました。先生の話が私には大変聞き取りやすく、今回の講義で下さったモノクロとカラーの adv と disadv の問題から何を読み取ってほしいのか、また、物事のどのような捉え方

があるのが、再度、確認できたようにも思います。今回の講義の最後に先生がおっしゃられていたように、これからの私、もしくは私達は、教育をただ受けていた頃とはまた違い、教育者側の視点や第三者の視点から物事や教育について向き合っていく必要があるようになってきているのだと思います。これから先、この講義を受けながら、いろいろな視点から物事を考えられるように、発想の転換がもつと柔軟にできるようになりたいと感じました。(理業) →柔軟な発想は、それを妨げるものが何であるのかが気をつけば、存外、容易にできるようなものなのです。とはいえ、気がつくのはそれが習慣となっていない場合にはそんなに簡単ではないと感じられるでしょうし、そのことに気づく必要性をともすれば日常の営みの中で忘れてしまいがちなので、これを総じて柔軟な発想は難しいと断じてしまうのであります。でもね、必ずできることなのです。／教師を目指す学生さんは教科教育法の授業などで教材研究の重要性を何度も指摘され、実際に教材研究を体験することになります。それはそれでとても大切なことですが、それにひけをとらず大切なことがある、ということ教材研究にかまけてばかりいると、見失ったり忘れたりしてしまいます。そうならないように心がけてください。

枠を取り除いて考えている学生の顔を見ている三浦先生がとても楽しそうに見えました。ネタという用語と語弊が生じますが、生徒が楽しめるような授業を提供するのは教員になる人にとって難しく、楽しいことではないかと、今回の授業を受けて感じました。今期の授業がとても楽しみになる第1回でした。(みなみ) →「生徒」ではなく「学生」ですよ、大学にいるのは、／授業を作る立場の人間がそこに楽しさを見いだすこと、作り出すことができるけれど、それを受け立つ立場の人間が楽しいと思うことは決してないはず。そのように考えているのですが、それがちよこちよこつと顔を出したのでしょうか。／「ネタ」とは同業者間で用いる場合には語弊を生じない言い回しですが、面と向かって言われると、戸惑いますし、場合によっては、一所懸命に考えた工夫をネタ呼びわりするなどと憤慨することもあるかもしれません。せめて「小道具」ぐらいにしてほしいかな。／「難しく、楽しいこと」という表現がとても素敵です。

私は今月に入ってから地元を離れて一人暮らしをはじめました。両親には学費も払ってもらい、生活費の援助をしてもらい、大学を卒業して親孝行をしたいなと思っていました。でも、先生のおっしゃっていた言葉聞いて、私にも親孝行ができていたと思うと、少し安心しました。立派な大人になってもしっかりと両親を喜ばせてあげたいです。固定観念に縛られないようにする、という事に興味を持ちました。一つの物事においても多くの視点からの意見がいき世の中が作られているのだと思うと、やっぱり自分の生きている世界は狭いんだと思いました。一つの視点に縛られるのは面白くないと思います。もし私が教師になれば、難しいことではあると思いますが、たくさん生徒の事を柔軟な思考を持ち、できるだけ理解してあげられるようになりたいです。(蓮子) →「子を持つて知る親の恩」とはいにしえからの言い伝えですが、まさにその通りだと思います。自分が今、こうやって我が子のことを一番に考えている、これと同じ事を自分の親も自分に対してしてくれていたに違いない。そう感じる、思うこと、考えることができるだけでもしあわせなのだとわたくしは思います。ついでながら申し述べさせていただきますが、親孝行は、親の立場からすれば、子どもが生まれたその時(いや生まれる前、例えば名前を考えている時)授業の時に話いたしましたね、それから少しずつ様々なことを吸収して成長していく様子を見ている間に、既に感

じ取っていることなのです。生まれてきてくれてありがとう、健やかに育ってくれてありがとう。これにまさる親孝行はないのです。／わたくしも学生時代は親元を離れて一人暮らしをしていました。当初は下宿に電話を引くこともできず(あの頃は固定電話を設置するのに十数万円の権利金が必要で、それこそ一大事でした)、毎晩のように百円玉を握りしめて公衆電話ボックスに通っていました(そんな情景を思い起こさせる名曲が松山千春の作品なのですが、ご存知ないでしょうねえ…「ふるさと」、名曲です)／「自分の生きていく世界」が「狭い」ということは決してありません。それを「狭い」と感じ(させ)てしまうものは何なのか、そのことをきちんと考えてみましょう。「私的な(個別の)世界など狭いものなのだ」という固定観念から、自由になって羽ばたきましょう。

関西大学に入学してから4日。地方から来た私にとって、三浦先生の授業はとてとても刺激的でした。何故かという、理由は2つあります。一つ目は、親孝行とは私が生まれる前から始まっていたということ。親元を離れて暮らす私にとって、先生のこの言葉とともに親の顔が浮かんできて、涙が出そうになりました。二つ目は、立場が異なるということだけで、視点が180度変わるとのことです。また、モノクロ TV、カラーTVのadv/disadvの意見が出た後で、先生がおっしゃっていた一つの軸に気づくことができなかつた私は、いかに他の人の立場に立つて考えるということや普段からしていないか、ということに気づきました。これからは多面的、多角的に物事を捉える習慣を身につけたいと思います。(重希) →わたくしも親元を離れての学生生活をおくりました。いえ、その前に一年間、親元を離れての予備校生活がありました。離れてしみじみと身にしみる親心。あの頃はよく枕をぬらしたものでした。それがいつのまにか…。水が低きに流れるように、人は悪しきに流れる。そんな言い回しがありますが、悪しきに流れないにしても、大切な何かを次第に忘れてしまう、そんなに珍しいことではないと思います。わたくしは自分の学生時代の反省に基づいて、みなさまにおいて決してそのようなことがないようにとお祈り申し上げます。

今日の授業を聞いて、今までは自分の置かれている立場(今日の授業では視聴者の立場)からしか物事をとらえていないことを痛感しました。まだ社会に出て働いたことのない私は、今までの生活の中で、生徒や消費者、視聴者…など、様々な「立場」を経験してきたけど、一度もその逆の「立場」に立つたことがないということに改めて感じました。逆の立場、他の立場に立つてみることで得られない意見も、これから社会に出るようになっていく、そのためにも今の「立場」がすべてではないこと、周りの意見に耳を貸し、理解することを、この授業を通して頑張っていきたいです。(紗恵) →そうです、その謙虚な心持が大切なことです。謙虚でありながら、けれども決して受け身ではなく、いや、むしろ、真実や真理に対しては積極的である、そんなスタンスやスタイルを身につけることができたらいいですね。

まずはじめに、授業に遅れてしまい、本当にすみませんでした。自己紹介を聞くことができなかつたのが非常に残念です。モノクロテレビ、カラーテレビの良し悪しの議論を受け、自分が一面的にしか物事を考えられていないことを痛感しました。これまで「物事を多面的に見て、考えるように」と指導を受けてきたことは多々あったはずなのに、分かってはいても実行に移せておらず、意識が足りないかと反省しました。自分はどちらかというとマイノリコンドロールを受けやすく、思いこんでしまうと軌道を変更す

るのが難しいタイプだと思っています。教員免許を取得し、教員を目指す者としては、今日おっしゃられた「物事を多面的にとらえる」「固定観念にとらわれない」ことを中心に、柔軟な発想を持って取り組めるように意識していきたいと思っています。また、初めて大学の授業を受け、高校までの“授業”とは全く違うものなんだと驚きました。受け身に徹していたこれまでの体勢を改め、自ら積極的に勉学に励みたいと思いました。これから、どうぞよろしくお願ひ致します。(優子) →「まず」と「はじめに」は、ほぼ同義なので、これを重ねるのはトートロジーとなります。気をつけてください。授業に連れられたのは教室の変更があったから、そのことはわたくしも十分にわかっておりますから、あまり気になさらないように。なせ、教室変更の知らせが授業担当者に届いたのが授業直前だったので、学生にみなさまにおいて、さらにさらに混乱されたことと思います。／大学の授業が果たして高校までの授業と違うのか、これは実は微妙です。高校を卒業するまでに多くは「問いには必ず答え、しかも最適解がある」、そしてその解にいちちはやくたどり着くことが善であり、美である、そのような考え方や姿勢、習慣を作らされてしまったのだからと感じています。しかし、世の中には答えがない問いや、答えが時と場合、あるいは人によって異なったり、変わったりの場合、答えはあるけれど、それが必ずしも最適解ではないケースなど、いくつもバリエーションがあるのが普通です。高校を卒業するまでに身に染みついてしまった思考法、思考習慣では、そのような問いに正しく対応することは難しい。それをいわば「大人用」にリアライズしていくのが大学のつとめの一つだとわたくしは考えているのですが、大学教員の中には、自分の持っている知識を配分すること(多くの場合は断片として)、つまり「知識の転移」こそが大学教育の要諦のだと信じて疑わない人も結構な割合で存在しています。その人々と闘っている暇はないので、わたくしはわたくしの信じているところに忠実であらんとしているだけなのです。それは、知識を得るための知的プロセスを体験すること、体験することに重きを置く、ということですが、端的に申し述べると“active learning”を指している、ということですが。

大学の授業は退屈なものなのか？というイメージでこの講義を受けたのですが、こんなに堅苦しくないのでなんなんだと知れました。教室変更があり、はじめの何分かは聞くことができなかつたことが残念です。先生の息子さん達の名前の話、とてもおもしろかったです。あと、ソニーの入社試験の話もすきです。Googleの入社試験の問題もおもしろかったです。Googleのは自分がこういうのが好きなので、よく自分で調べて楽しんでいました。これからもこの様な講義があるのかと思うととても楽しみです。ですが、この第一回目の授業は“つかみ”の部分というか、「おもしろくはない！生徒がきてくれない！」と思って、すごくおもしろい話をされて、実は2回目からは…というパターンだったたりすることがあったので、不安でもありません。私は大学にとっても期待しています。(裕子) →「大学の授業が退屈である」という情報は何処でどのようにして入手したものでしょう。そのようなイメージはどのようにして形作られたのでしょうか。そのことがとても気になります。／大学には「生徒」はいません。いるのは「学生」です。お間違いないように。／「1回目がおもしろいのに、2回目からはおもしろくもない」という授業が実在することを知らないわけではありませんが、それを「パターン」であるにとらえ、いろいろな授業にそのものさしをあてはめてしまふ、これも固定観念のなせるわざなのだと気づいてください。この先の授業がおもしろいか、おもしろくないか、それは来て、見て、聞けばわかること。そして、授業に自ら積極的に参加

しようとするはさらによくわかることだと思っています。

教員になって子どもたちに教える中で自分自身の想像力の大きさがどれだけ大切かになるかということに改めて気づきました。私はモノクロの良いところについて、白黒だと動いている人物などに視線が向くので、ストーリーに集中しやすく、背景にとらわれないことを頭に浮かべていました。ですが、一番の思考のポイントが「テレビ」というモノを扱った“広える人”と“教わる人”の両方の立場について考えるということに感じました。そして、今回はテレビという一つの例についての講義でしたが、この話から広がる思考の幅広さがいかに重要であるかが、自分の身についたかと思えました。今日のように、何気なく暮らしている自分の生活の周辺にあるどんな小さなことも、深くその根底を知ろうとすれば、これらほとんど想像力が広がっていき、一日一日の積み重ねでたくさん発見できるのだからと楽しみにになりました。いつもと少し違う視点を探したいと思います。(実加) →「何気なく暮らしている自分の生活の周辺にあるどんな小さなこと」にも「何か」を発見しよう、発掘しようとの決意、心より賞賛の拍手を贈りたいと思います。思い改まって太上段に構える必要などない、このことにあなたは正しく気が付いてくださっています。実に頼もしい。そしてその後の「少し違う」というスタンスがとてもいいと思います。そこに「無理」がないからですね。こちらも頼もしいと思いました。

SONY の入社試験のモノクロとカラーの違いから、多角的に物事を見るという考え方を教員に当てはめて考えるということが、とてもおもしろく、話に聞き入ってしまいました。生徒や保護者の立場から教育を考えるというのは、教師としては絶対的に必要であると再認識しました。これから教師を目指す上で、勉強だけでなく、色々な物事を様々な立場から見ようと思います。また、先生もとてもおもしろい方で、この授業に参加して本当によかったと思います。先生から教師を目指す上で的心得を学んでいきたいと思えます。(秀太郎) →「まなぶ」の語源は「まねぶ」。わたくしから「まなぶ」とは、わたくしをまねる、ということですね。それは別の言い方をすればぬすむ、ということにもつながるのだからと思えます。是非、ぬすんで、あなたならではの色づけや盛りつけをしてください。「何を」まねるのか、ぬすむのか、そのことに十分留意して、どうぞ、お見落しのないようにして下さいね。／お節介とは思いつつ、老婆心から一言申し添えておきます。「生徒や保護者の立場から」も教育について考えるというスタンスは大切ですが、それだけでは十分とはいえません。生徒や保護者の立場に思いを寄せるのは、教師でなくてもできることだからです。様々な角度から物事を見つめた上で、他の誰かでは持てないもの、気づかないこと、教師だからこそ持つこと、気づくことができず、それらをつかきと胸に刻み、言動に反映させていくのが大切なことです。楽しみにしていますよ。

教職概説という名前の授業なので、もっと厳しそうな教授が、もっと堅い講義をするものだと思います。教授の自己紹介は聴けませんが、今回のテーマである「多角的・多面的に物事を考える」については、教師に限らず、とても大切な事だと思えました。自分が教師になるとすれば、教師・生徒・保護者といった視点から物事を考えることができるようにならないといけません。そのためには、これからの四年間で何をしなければいけないかを考えさせられました。この教職概説の授業で教員になる

にあたって必要なスキルと人間性を身につけたいと思っています。(昇格) → 「概観」と名乗っているのに「教職概説」をすごく難しいとか、(その担当者も含めて) 堅い(堅苦しい)と感じてしまうのは何故なのでしょう。これは根源的な問いです。どうか、この問いから逃げ出さないようにしてくださいね。決して難問ではありませんから。この科目は、難問ではないのに難問だと人々が勝手に思い込んでしまっている事柄や、そのような姿勢について考えるヒントをみなさまに提供することもねらいのひとつとしてもっています。どうか思う存分、脳を活性化してください。／「教師・生徒・保護者」といった観点から物事を考えることができるようになるのは、実は初歩の初歩、第一歩にすぎません。その先に何が待っているのか、その先で何を展開したいのか、それこそが肝要なのだ、どうか、いつか気づいてくださいね。／さてさて、授業は教材研究を徹底したり、授業に関するスキルを身につけたり、そんなことだけで充実したり、よくなったりするものではありません。その辺りを誤解している人間が結構な割合で存在するので、教育の現場も、養成機関でも、厄介なことがしばしば生じているのですね。教育に必要なことは何か、そのような問いを自分に投げかけられたとしたら、もちろん、こたえます。けれども、その「こたえ」は、誰もが納得できるものであるとは限りません。納得はしても実現は難しいと感じられるものであるかもしれないだろうし、抽象的であるとの非りを免れないものもあるのだらうと思っます、弁えています。けれども、だからといって、その「こたえ」をひっこめる種々の理由はいまのところ見つかりません。そんな秘めたる想いもちょっとだけ込めて、これからの授業に臨んでいくつもりです。おかしいな、わからないなと感じたら、どうぞ忌憚なきご意見、積極的なご質問をお願いいたします。

【編集後記】

にわかには信じがたいかもしれませんが、毎年、新学期が始まるとそわそわしてしまいます。緊張するのです。大学の教壇に立つようになって20年近くが経過しようとしています。こればかりはどうしようもありません。けれども私はこの緊張感を大切にしようと思っています。「緊張する」というのは、自分がこういう風に展開したいと願う「絵」があるけれど、果たして、その「絵」の通りに授業を進めることができるだろうか、そのような不安がある、ということなのです。つまり、「緊張しない」のならば、そこには願う「絵」がないか、もしくは、間違いないか、自分の描いた「絵」をその通りに実現することができるといふ不慮な気持ちが生じているか、いずれかだと思います。学期始めに緊張感を覚えなくなったら、廃業しよう、そのように考えています。そんな緊張感を携えての第一回目。とても短かった第一回目。皆様におかれましては、どのような印象を持ったか、気になるところではございますが、どうぞ、半年間、よろしくおつきあいくださいませよう、お願い申し上げます。▼さてさて、わたくしの自己紹介とSONYのかつての入社試験とが実はつながっていたということにお気づきになりましたか。わたくしの自己紹介は、わたくしの名前、そしてわたくしの息子たちの名前を中心としたものでした。つまり、名を付けられる立場と名を付ける立場、この異なる二つの立場をあなたがお見せしたのです。授業は教師が伝えたい「何か」を、よりよく伝えるために工夫を凝らして実践するものだとなつては心掛けています。ですから、遽然と聞き流してよいことが、そうそう長い時間続くことはありません。どうか、次回からはそん

なことにも気を配って授業に参加していただきたいと望みます。▼15個のコメントをそれぞれ14個と1個からなる2つのグループに分けてあげることができると申し上げました。いや、それは違う、13個と2個ではないか、そのように指摘するレポートが2件ありました。「かくせない」、これは制作者の立場からのコメントではないのか、概ね、そのような主旨のものでした。いいですか、思い出してください。回答者は「かくせない」と発言したわけではありませぬ。発言者の意図をくみ取りながらも、そのまま表記すると長くならないで、それを「かくせない」という言葉で表現することにします、そのようにお断りした上で板書をしました。回答を聞きながら、視聴者の立場とは違うアングルからのものがいくつあるのかは、その都度、カウントしてあります。それが授業者の姿勢です。黒板に書かれた言葉の字面だけを見て、表面的な判断をしないようにしてくださいね。

『教職概説』の広場 2012 Final

政経学部の勇氣ある男子学生の声に導かれて、この「広場」最終版を作成することに致しました。最終版なんだから、全員レポートを掲載し、いつもを上回る分量のコメントをした方がいいのかな、そんなことも考えました。しかし、とても残念なことに、夏休みというのは、主として学外から、このタイミミングを迷してはならじ、というリクエエグが飛びこんでくるのですね（もちろん、その依頼は夏休み前に発生しています）。その他にも、あまたの業務がまるで複合汚染であるかのように、わたくしを包み込んでいます。したがって、今回も可能な限り、という制約の中での制作となりました。どうか、その辺りの事情をご斟酌いただき、加えてご海容賜りますよう、お願い申し上げます。

この春学期間、先生の教職概説を受講できて本当に良かったです。ありがとうございます。週の真ん中の水曜の授業、しんどいなーとどれだけ思っても、先生の授業だと思えば、頑張って登校することができました。サンタさんのお話ですが、あの社説、本になってますよね？私が幼いころ、両親からもらった気がします（今は家のどこにあるか知りませんが）。私は自分が中学生になったとき、サンタさんが両親だったことを告げられました。「信じたくないな」と「やっぱりか」の半々でした。だけど、私は20になった今もサンタさんはいると思っています。プリントにも書かれてましたが、それが優しさや愛、思いやりに形を変えてただけだと思います。そして、後半のオウムと阪神大震災の若者について。私も先生と同じ意見です。どっちにもなりえるなって思うし、毎日、そんなたまたまいっぱいばかりです。でも、大学生活4年間で「これが自分！」という確固たるものを見つけられればなと思います。この授業では、教育のことのみならず、教師となる前の私自身について糧となるものをたくさん教えられました。先生の授業が受けられ、本当によかったです。とても勉強になりました、ありがとうございます！（あかり）→水曜日ばかりにたくしとって身体的にはきつい曜日でした。火曜日に連続で3コマ、水曜日にも連続で3コマ、どちらも朝5時起きでの授業でした。「広場」と同種の「通信」を他に三種作成しておりますので、いつまでこのハードな作業を続けられるのだろうと心配しながら、この半期を歩いてまいりました。でも気持ちの上ではとても楽しみな水曜日でしたよ。どの問題を今日の頭の体操に使おうか、今回の話にみんながどのように反応してくれるだろうか、考えたり、想像したりするのはもちろん楽しいことでしたし、実際に教室に入り、みんなの姿を見て、反応を感じ、そして力作のレポートを読むと、ハードワークを継続してきてよかった、もつとがんばって続けてよ、毎度のように感じていました。だから、ありがとうございます。けるのはわたくしの方です。／「教師」というのは、赴任、着任したその時からなれるものではないのだとお心得下さい。経験的専門職、expert だ、ということですね。現場にいないければわからないことがそれはそれはたくさんあります。そういうものを多角的・多面的な視野から見つめ直し、スキーマにとらわれない発想を心がけ【そこに作用しているスキーマを見抜き】、可能な限り多くの人が得心できるような力タチで大切なことを伝えること、それを忘れなければたいたいのことば乗り越えられるはずですよ。毎日が悩み【進歩のはじまり】と発見の喜びで彩られることをお祈り申し上げます。

今でレポートへのたくさんのお返事、ありがとうございます。広場を見るのがとても楽しみでした。ほぼ毎回お返事を下さったので、先生からの訂正、私の意見に対する先生の意見など、いろいろと勉強になりました。もう先生の授業が終わりたいと思うと、少し悲しいです。水曜2限は私にとって元気をくれる授業でした。色々な経験をする事によって幸せに気付く、というのは、確かにその通りだと思います。恐らく、私達はこうして学校に通い、友だちと笑い、家には家族がいることが幸せなことだと思います。ていがないのでしょ。そして、東北の被災者の方々の中には3月11日以来、そのことを思い知らされた人も多いのだらうと思います。住み慣れた家があり、通い慣れた通学路があり、いつものように退屈な授業をやりますごし、くだらないことを友だちと喋って、家に帰ってご飯を食べて、ということが幸せなことだとはなかなか気づけないことだと思います。とはいえ、私など、ずっと阪神間に住んでいる人間は一度知ったはずなのですが、もちろん私に地震の記憶はありません。幸いなことに、親族、知人にも一人も亡くなった方はいませんでした。でも、親は幼い子を抱え、苦労したといいます。大阪の方に避難していたとき、兄を病院に連れていくと「大変だったね」と診察料を無料にして下さったそうです。母は「感しさに触れた」と言っていました。でも、こんなことがあっても人間とは忘れる生き物なのではないでしょうか。日常が幸せだと感じて生きていく人はあまりいないように思います。最後にになりましたが、先生、ありがとうございます。か人々に伝えていきたいです。長々と乱文失礼しました。最後になりましたが、先生、ありがとうございます。また。（香織）→当たり前のことが幸せだとなかなか気づけない、これはね、読売新聞のコラム「編集手帳」に綴られていたことです。わたくしの個人的な印象ですが、今、「編集手帳」は「天声人語」を超えております。それはおそらく多くの人の認めることです。「編集手帳」執筆者の本が飛ぶように売れているのです。その執筆者と同じ感性をあなたは持っているのです。素敵です。いいなあ。／この授業から「元氣」を感じ取っていただけたこと、嬉しく、そしてありがとうございます。でもね、「勇氣」を感じてもらえるようにならなければなあと思うのです。「一歩進む勇氣」。関西大学でLA制度が始まった当初、様々なことに困惑しているLAなびにその関係者を見て、感じて、作ったキヤッチコピーなのですが（このあとに「LAの足跡が教えてくれること」と続きます）、元氣だけじゃ、足元がちよいと覚束ない、脆い、そんな気がします。わたくしの担当した授業の足元がそうでないことを切に願うばかりです。／「悲しい」なんて言わないでください。同じ学内にいるのですよ。いつだって同じ温度を感じ、同じ空気を吸い、同じ風を見ている、のです。わたくしは舞台のそでに入り、主役であるあなた（たち）が舞台上で演ずる時が来た、そのように感じてくださいいな。

先生の授業を受けることが出来て、ほんとうに良かったです（これは絶対に知ってもらいたいほんとうです（笑））。今日のサンタクロースの話聞いて「ウソも方便」というのが大人の世界なんだなと思いました。誰かのことを思っただけだったり、本当のことを言わなかったりすることもあるからこそ、善悪では二分できないものなのですね。また、私自身、この終わらない日常を解決してくれる答えを、どこかに求めているなあと感じました。いつもと違う場所に行けば、別の誰かと出会えば、100%違う生活が待っている、なんてことは無いですね。自分の人生は、自分でしか生きることができない。自分で開拓していくしかない。そして、自分の中にある答えを探すために、違う世界や様々な人と出会い、自らを見つめ、

深めていくべきだと感じました。本当にこの授業が楽しかったです。ありがとうございました。またどこかでお会いできたら、と思います。(相葉) →すてきな「ほんとう」をありがとう。ほんとうにうれいしいです。／「自分の人生は自分でしか生きることができない」、シンプルにだけ力強く頼もしいセンテンス！あなたのセンスが光る女だと思いますよ。英語に替えてみると、また別の趣が出てくるかもしれませんね。／どこかで見かけたら、決して遠慮することなく声をおかけください。そこから話にいろんな色の花が咲くはずですから。

15 回全出席できて良かったです。ありがとうございました。すぐ考えさせられる授業が多く、ためになりませんでした。ずっと忘れずに、自分の中で考えていかないといけないこともたくさんあるので、忘れないようにしようと思います。ほんとうが良い、うそが悪い、というスキーマについて、単純な二分法は子ども社会でのルールだということはなるほど、と思ったけど、それを正しく理解できるのは、ある程度、大きくなっからなのかなあと思います。「うそ＝悪い」と教育されていかなかったとしても“言うべきではないほんとうのこと”というのは理解できないうんじやないかと思ひます。なぜなら、私がそれを理解したのも中3の、それも実体験で人を泣かせてしまったことによっただけからです。たとえ事実であつても、言うタイミング、本当に言うべきことなのかどうか、をよく考えて、空気を讀んで言わなければならぬというイミニング、本当に言うべきことなのかどうか、をよよく考えて、空気を讀んで言わなければならぬという“愛のある嘘”が存在するうちは、まだ人間味のある世の中なんじやないかな…と思ひました。それがなくなると、機械によつて制御される、アンドロイドのような世界になつてしまふんじやないかかと、今日の嘘の話を聞いて思ひました。“嘘”“ほんとう”という単純な区分ではなく、“そこに相手を想う心があるのかどうか”が最も重要なことであるということが分かりました。また先生の授業を取りたいなと思ひます！(美和子) →ありがとうございます。機械というよりは人工知能、でしょうね。でも、それは機械(人工知能)に人間がインプットする情報の質と量の問題であり、さらにはそれを処理する能力をどのレベルに設定するのかという問題でしょうね。でも、そういう一切合切が「0」と「1」だけで表現される世界、あるいは文法は、いやです、正直なところ。／「ころ」の動き、その機微を情報化(数値化)することができればアンドロイド的な抑制とは無縁な世界が展開されるのだからと予想することはできるのですが、残念ながら、そして当然のことに、脳科学、認知科学はそこまでたどり着いていません。このことから察するに、アンドロイドの跋扈を許すような土壌はまだ育っていない、ということなのでしょう。ひとまず一緒に安心しましょう。／それはさておき「愛のある嘘」「相手を想う心」、大切なことをわかりやすいワードにおまとめくださいました。ありがとう。とつてもピンコ！です。

今日は、他の人のレポートを讀んだり、卒業生である人のレポートを讀んで、本当に人によつて感じ方は異なるのだなと思ひました。同じ時間と同じ場所で、同じものを見て、聞いたのに、レポートの内容は様々でした。中でも「見えないものを信じる」ことの大切さを書いたレポートには感動しました。目に見えるものだけが全てではなく、目に見えないものの中にも、とても大切なことがあるということに改めて気付く事が出来ました。うそをつくことは悪いことで、本当のことを正直に言うことは良いことだとどういふ子どものルールは、誰もが教えられたことだと思ひます。良いか悪いかという2パターンしかなく単純です。

子どもが理解するためには、このくらい単純である必要があると思ひます。それが様々な社会の中で活動していく過程で、体も精神も成長していつ、うそでも正しいうそと悪いうそがあり、本当のことも正直に言つてよいことと、言わなくてもいいことなど、たくさんパリエーションがあるということを知ること。考えてみれば、なかなか難しいことかもしれませんね。もし、そのパリエーションがあることを理解できたとしても、そのうそが、本当が、どの種類なのかを判断することも必要になつてきて、その判断が難しいことだと思ひました。私は「サンタクロースはいるのか」というのは、良いうそだと思ひます。もしかししたら、それが子どもにとつての“目に見えないもの信じる”ということの第一歩になるかもしれないからで。私は目に見えないものが全てだとは思つてほしくありません。それに先生が言つていたように、自分の求める物が外ではなく、自分の中にあるということも大切だと思つたし、“自分の中にあるもの”とは、やはり目に見えないものもあるでしょう。そんなことに気づけたり、自分の中で何かを見つけたりすることは、教科や専門性を学ぶより大切なことなのではないでしょうか。その大切なことを学ぶ第一歩に「サンタクロースはいる」というエピソードがあるのだと思ひました。いずれ子どもが成長し、サンタクロースは実在しないということを知つた時、「サンタクロースはいる」とうそをついた輩の心の内を、その内容にたくされた深い意味(目に見えないものを信じることなど)を感じ取つてもらえたらいいなと思ひました。今回で授業は最後で、残念というか、もっと先生の話を聞いていたかつたです。おもしろい内容の中での深い意味を知り、自分にとつてためになる授業でした。ありがとうございました。(真衣) →「求めることえは自分の中にある」というわたくしのメッセージと、その前にお話ししたこと(に關連したこと)と一目に見えないものを信じるというところをきちんと結びつけてくださったのですね。ありがとう。サンタクロースの話がなければ、ラストメッセージは無根無草、浮き草のようになつてしまふかもしれない、そのように考へてのデザインでした。届いたように、ほつと一安心です。わたくしが授業でお伝えしてきたことは、あなたがこれから歩いて行く際のヒントになればと願つていること。取捨選択を含め、それをどのようにアレンジするのか、それがあなたたち独自のスタイルやスタンスになつていくのだと思ひます。

15 回に及ぶ素敵な授業をありがとうございました。どの回もそれぞれ魅力的で、新しい発見があり、とても楽しかつたです。さて、最後となる本日の授業ですが、最初のサンタクロースの話で、私はあやうく涙をこぼすところでした。サンタクロースというのは、親が子どもにつく、最大級の愛の嘘だと思ひます。子どもを抱きかかして「愛しているよ」というのも大切ですが、サンタクロースという存在を通して無言で送るプレゼントにこそ、心からの慈しみの気持ちがこもつているような気がします。私は一つ前のレポートで非科学的なものは基本信じていないと書きましたが、非科学的な「力」を馬鹿にしたたり、軽んじたたりする人間は好きではありません。というか大嫌いです。それが例え(一たとえ)「嘘」であつたとしても、それによつて誰かが救われるならそれでいいです。私は、私の「青い鳥」が何なのか、まだ分かりませんが青い鳥の存在すら、まだ感じる事ができません。でも、私は「幸せ」というものを知つています。なぜなら私は「悲しみ」と「悪」を知つてからです。答えとは何なのでしょう。それは幸せの中にあるのでしょうか。もしかしたら悲しみや悪の中に答えはあるのでしょうか。私は幸いまだ学生です。この4年間、「教育」を受けて、自分のことをもつと知り、理解できたらいいです。そして、自分だけでなく、人

のことも理解できたらいいです。4月から15回もの授業、本当にありがたいです。このレポートのお陰で、改めて素直な気持ちを文にすることの難しさを痛感しました(笑)。これからも精進します。また何らかの形で先生と関わられることを楽しみにしています。(愛) → 「幸せ」は、あることがらや事態をどのように見つめるかということの「ひとつのこたえ」ではあります(Walt Disneyの残してくれた言葉です。いつぞやの「広場」にて紹介申し上げました「Happiness is a state of mind. It's just according to the way you look at things.」)。それは言うなれば「幸せの種子」をみずからのうちに発芽する、ということなのでしょう。「答え」も同じ。そこに「答えがある」と感じるのならば、それが「答え」。これは「答えのもの」ではないが、「答えにちかいかいもの」だ。そう感じるのなら、それは「答えへの道」の途次にあるということ。「悲しみ」や「悪」のなかにも、もしかしたら「喜び」や「善」へのヒントが潜んでいるかもしれません。…というように考えてみてはいかががでしょうか。「OOは△△にある」、そうであるのなら、旅のなんと簡単なこと、そしてなんとおもしろみのないこと！カール・ブッセ、ご存知でしょうか。「山のあなたの空遠く、さいわい住むと人の言う ああ われひととめゆきて 涙さしくみ 帰りきぬ 山のあなたのなお遠く 幸い住むと人の言う」。「幸せは山の彼方にある」のではない(あなた【わたくし】のころの中にある)、繰り返しになりますが、わたくしがお伝えしたいことを他の人の作品を借りて再度表現してみました。

私はこのような授業(講義)を今まで受けたことがない。講義を受け、それについてレポートを書くということを毎回重ねていくごとに、自分の新たな内面を発見するような、このような授業は今まで受けたことがない。はっきり言って私は今、とても驚き、感動している。私は将来、教員になろうと考えている。私は将来、自分の生徒に、今、私が感じているようなこの鳥肌を感じてほしいと思う。これは教育のための講義ではない。“人生の講義”である。うまく言葉にできないが、この二つには通ずるものがあるのだ。今、思う。私はこの講義を一生忘れないだろう。なぜならこの講義は私に今までの人生を本気で見直させ、私のこれからの人生を本気で考えさせ、私の“今”を本気で直視させてくれたものだからだ。本当にありがとうございました。この講義をとって本当によかった!!(里奈) → 力強いレポート！鳥肌体験を提供するために、日々は練習、です。それは静かに座して必要と思われあれこれを細大漏らさずノートに書き留めることであったり、適切な情報を収集、あるいは取舍選択することであったり、イメージトレーニングを重ねることであったりします。それはやがて習い性となり、そのような日々の訓練あることを知らない人から見ると、アドリブのきく人と思われまるまでになることでしょう。

先生、今まで講義ありがとうございました！私は水曜日はこの授業しかないので、正直体むことも出来たのですが、先生の講義が面白いので、それが聴きたくて参加していました。先生の講義は他のものと違うスタイルだと思っていました。他のものはただただ聴くだけで、座ってノートを書いているだけというものが多いのに対し、先生のは聞いて、参加しているような気持ちになるものでした。話に入り込んでしまうといったようなものです。途中、正直、何を伝えて下さっているのか分からないこともありました(笑)。しかし、今日の講義でやっとながりました。先生のお話をどう取るのかも自分自身なんだと改めて考えさせられました。分からないことがある時、周りにただ答えを求めめるのではなく、自分の中に

ある答えをゆっくりでも引き出せるようにしたいです。春学期ありがたいです。春学期ありがたい!!! (香秀) → 自分が学生時代に受けたかった授業、今、自分が学生だったら受けたいと思う授業、それがわたくしの目指すところです。そのうちの何割程度が実現しているのか、残念ながらわたくしはわたくしの授業を受けることができないので、わからないのですが、このようなレポートをいただく、少しは安心してよいのかかなと思うことができます。でも、やはり、最後の審判はわたくし。まだまだと思うところもありますゆえ、懲心することなく精進したいと思います。

私は小さい頃、サンタクロースは本当にいると思っていた。毎年毎年サンタさんが来るのを楽しみにしていました。ですが、ある日、友だちにサンタはいないと言われた時があり、私も少し大きくなっていてたので、サンタはいないんだと思うようになりました。でも、だからといってサンタなんてバカバカしいとは思ったことがないし、むしろ子どもに幸せを運んでくれる物、それでいいじゃないかと思うようになっています。それがウソであつたとしても、そのウソは決して誰かを傷つけないかと思つたものではないからです。何かを信じる力とはとつともなくすごい力を発揮すると思います。というよりは、信じることをしない限り、何も起こらないと思います。毎日の中で誰かに同じ事の繰り返しで、このままでいいのかと考える事もよくありますし、それが苦しくていろいろな事で悩む事もたくさんあります。それはこれから先も生きていく上で逃げる事ではないと思うし、何かが見つかればそれでいいんだと思うのではなくて、自分の信じた道を一生懸命過ごした後に、ああ、こんな事を私は見つけられただんだと思えるようにしていきたいのではないかと思います。三浦先生の授業大好きでした。ありがたいです。 (歩) → 信じる事。こんなにシンプルなことなのに、人はあれこれと理屈をつけて、それを難しくしてしまいます。場合によっては信じる事そのものが罪であるかのような言葉を残したりもします。悲しいことですね。“Faith”が大書である、二回目の授業で申し上げましたが、誰もがそのことを忘れないでいられる世の中であつてほしいと願います。黙って、座して待つだけでは、そのような世の中にはなりませんから、次代の主人公であるあなたが、これを実現するべく立ち上がらなければなりません。頼みましたよ。

今回の、変な宗教団体に入ってしまった若者とボランティア活動をした若者の話を聞いて、私にもそういう部分があるなあと思います。高校のときまではみんなままままの授業と一緒に受けてきましたが、大学生になると将来を思慮えて、自分に何が必要なのかを考えて授業をチョイスしなさいといけません。また、授業以外の時間の使い方も考えないといけません。大学生には自由と責任があつて、チャンスはたくさんあるけれど、自分でつかみにいかないと4年間は無駄に過ぎてしまうと言われました。私はあまり積極的に行動したことがなかったもので、大学生活は色々なことに積極的に参加しようと思つた。なんとなんとなんとなんとなんと思つた。高校のときまではダメだと思つて、参加すると自分を変えられる気がしたからです。そして周りのみんなに置いていかれるのが恐かつたからです。でも、自分の中に答えはあるという言葉を聞いて、行動することも大目ですが、一歩立ち止まり、考えることも大切なのかと思つた。(真依) → 「一歩進む元気が、一歩戻る勇氣」、上にも書いたことですが、再度、ここに繰り返したいと思つた。多くの人が前へ進むことが勇氣だと捉えているようですが、立ち止まること、場合によっては戻ることも、こちらの方が勇氣を必要とするのですかね。どうか、立ち止まること、戻ることを、停滞、後退と捉えてしまひませぬよ

うに。

今日でとうとう最後の授業になってしまいました。もう頭の体操や先制の話を聞くことができなくなると思うと悲しい気持ちでいっぱいです。15 回の授業を通して、頭の体操を自力で解けたことがあります。私の頭はまだまだ固く、固定観念から抜け出しきれないのです。しかし「考える力」というのがついていたのではと勝手に思っています。答えにたどりつくために考えることはとても大切なことだと思います。答を見つけないままの過程が一番重要ですよ!!そして何より、今、私はやる気に満ちあふれているんです！「まだ見つかからない答えは自分の中にある」、そう先生がおっしゃった時、自分に自信を持っていませんでした。だから、ほとんど自分はダメだと思っただけで、自分のダメなところをしか目がいていません。聞いたとき、ふと力が抜けた気がしたんです。あせらなくてもいい、自分は自分のだから、ゆっくりでもいいから前に進んでいこうと決意しました。このことを伝えるために今までの授業をリザインしていたなんて、本当に先生はスゴイです。パッチリ受け止めました！私も先生のような先生になりたいです。頭張ります。本当にありがとうございます。(美波) →「頭の体操」は水平思考を心がけると解けるものをいくつか用意しました。多くの人はクイズを出されると深く考えなければと身構えて垂直思考をしてしまう傾向にあるのです。／人は自分を褒めたりも低く評価してしまいう傾向にあるということです。授業でお話ししました。自分では気が付かない自分のよさを教えることができるのは「友」なのだ、その回の授業ではそのように続けましたが、もちろん、自分で気付くこともできます。あなたのように、焦らず、ゆっくりでもいいから前に進んでいこうということを忘れなければ、大丈夫ですよ、あなたなら。パッチリ受けとめて下さって、ありがとうございます。

「自分のアイデンティティは自分の心の中にある」。この言葉で肩の荷が下りたようになっています。私は今、大学に入ったものの、将来の目標や就きたい職業などが決まっています(教職課程を履修していますが、本気で教師になろうと考えている訳ではありません)。私は昔から将来の夢は？と聞かれて、答えられたことがありません。小さい頃はいくらなんでも大学生くらいになったら決まっていたら決まると漠然と考えていました。しかし、自然と決まる訳でもなく、友だちが将来について考え始めたというのもあり、焦るばかりでした。私は社会科学が好きだったので、教師という選択肢を思い浮かべました。何か行動を起こさなくてはと思い、教師に似たような経験ができるのではないかと思います。何か行動を始めました。しかし、アルバイトをしているうちに、自分には向いていないかと思うようになり、職業と言われて他に何も思いつかないので、自分がどうすればいいか迷うばかり…。このような状況は、自分を見失ってしまふような危険性があるということです。私は焦るあまり、他の人に合わせ、これでもいいやと投げやりな自分の将来を決めてしまふところでした。自分でも何を書いているか分からなくなってしまうましたが、この授業を受けることができて良かったです。納得いくまで、自分のペースで自分と向き合っていました。(佳穂子) →塾の講師と学校の教師とは似て非なるものですが、アルバイトの経験だけで向き不向きを決めないようにしていただきたいね。／大学生になったら将来就きたい職業が決まっている。(だから決まっていけない自分は急がなければいけない)、そのように考える人は多いようですが、はたして

そうなのかしら。就職したい会社(候補)はあるかもしれませんが、その会社のどのような部門でどんな仕事をしたいか、そこまで決まっている人はさほど多くはないように思います。いたずらに焦ることはありません。納得いくまで、自分のペースで、じっくりとじっくりと可能性について考えてみましょう。

三浦先生、私は今、泣きそうになるのをこらえながら、どうも落ち着かない感情を抑えながら、レポートを書いています。何かから書こうか迷っています。まずはサンタクロースのお話について。私は中学生になるちょっと前までサンタクロースを信じていました。周りの友だちの多くはもう信じていませんでした。私は自分の両親がクリスマスプレゼントを買ってあげないかと思っていました。毎年、自分の欲しいものをくれるサンタクロースの存在を疑ったこともありませんでした。私にそう思わせるほどに、私の両親は厳しく、普段は必要なもの以外、お菓子一つ買ってくれないような人だったので、中学生になる前の春休みに、突然、母親から「今年からあんたもサンタの仕事手伝うのよ」と言われて、真実を悟りました。それ以降、一番下の妹が小学校を卒業するまで、私は毎年妹と弟のクリスマスプレゼントを運んで買って、ラッピングして、という“サンタ業”をしてきました。それでよかったです。私に聞いてもらって、私も親に頼らなくなった。やはりサンタのふりをやるでしようし、子どもに「サンタっているの？」と聞かれたら、「信じている人の所には来ない」と答えます。ちなみに私は今でも他の人の家に来ているのは本物のサンタなんじゃないのかと、時々思います。／次に“若者”の話について。このお話を聞きながら、泣きそうになりました。理由はよく分かりません。ただ、私にもオウム真理教に入信した若者の気持ちが多分分かります。私は高校生の時、いろいろな事を経てクリスチャンの洗礼を受けましたが、その前にありとあらゆる宗教団体を直接観に行きました。その時にアレフにも行きました。その縁で両親がアレフに入信している同世代の友だちがいます。そのせいもあってか、オウムを信じた若者とオウムではない宗教を信じている私には大差はないと感じています。ただ、私と、オウム信者となった、あるいは新しい宗教を求めてボランティアに言った多くの若者とで違いがあるならば、私がある日を境に全く新しい自分になるなんてことはできないとわかっていることだと思います。書ききれないので割愛しますが、あることをきっかけに私は、自分は変わるのではなく、変えなくてはいけないんだと実感しました。変えることしかできないことを覚えていられれば、この先大きく道を誤ったりはしないだろうと思っています。長々と申し訳ありませんでした。半年間、ありがとうございます。(彩) →「サンタ業」、ほほえましい営みですね。普段、厳しく接しているからこそ、インパクトがあるクリスマス。なるほど、そうですね。我が子に甘すぎる自分のことを反省いたします。／「変わる」と「変える」。意識しなければならぬ違いがここにはありますね。しかしながら「あの人、変わったね」とは言いますが、「あの人、自分を変えたね」とは言いません。同様に「自分は変わるんだ」と思うことはあっても、なかなか「自分を变えるんだ」という表現になることは多くないようです。「自分は変わる」とは、何もなくても自然に変わる、あるいは誰か(何か)の力・導きによって変わる、というニュアンスを内包しているような感じがあります。しかし、あなたが力強く「お書きになっているように、「自分が自分を变える」のでなければ、望む変化は我が身には訪れないのです。それが「答えが見つかる」ではなく、「答えを見つかる」ということにつながるのです。素敵なレポートをありがとうございます。

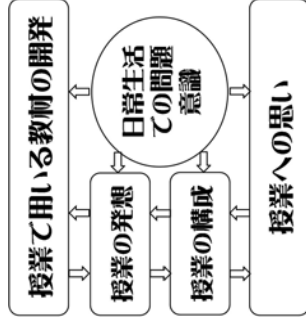
教職概説の広場を呼んでみると、それぞれ物事に対する捉え方が違っていておもしろいです。是非、これからも続けて下さい!今日、最も印象に残ったのは「終わりなき日常」や「さまよえる良心」といった個人の問題を解く答は、自分の外にあるのではなく、自分の中にあるということです。僕はこれ聞いて、本当に自分の中にあるのかな?と思います。というのも、僕は今、そういう状況に陥っていて、まだそれを解決する答が見つかっていないからです。その答が自分の中にあるかどうかはまだ分かりません。ただ、今日、先生の話を聞いて、「自分の中にある」、そんな気がしました。これからはいろいろ悩むことがあるかもしれませんが、それが自分の将来についてであつたり、仕事を始めて働くことに対することであつたり、時には恋についても悩むかもしれません。そんな時、もちろん両親や親友に相談するかもしれませんが、最終的にはやっぱり自分で決めなければならぬと思うのです。なので、これから入る長期休暇を利用して、先生に教わったことを復習してみようと思います。そうすることで自分が成長すると思うのです。まとまりのない文章ですみませんが、これで終わりにしたいと思います。この授業は今まで受けた授業の中で一番でした!先生、15回の授業おつかれさまでした!そして意義のある授業をありがとうございました! (史弥) → ありがとうございます。自分の中に答えがあるのだと知っているのと、それを知らないのとでは何がどのように違ってくるのか、そのことを想像してみよう。そのうえで、答えを見つけない場合にはクリアしなければならぬことがあるということをお忘れないうでください。それは自分の中にある答えを見つければいい、ということをお忘れないうでください。なにやら、同じようなことを繰り返しているように感じるかもしれませんが、お伝えしようとしているのはとてもシンプルなことです。きくと理解していただけたらと思います。今は答えが見つかるところにないということですが、それは、今、見つけるための何かはまだ用意されていないということであり、見方によってはまだそれは見つけなくてよい、ということなのかなと考えると考えてみてください。焦らず、ゆっくりにじっくり、まいりましょう。

今回、とてもよい話が聞けました。「答えは自分の中にある」。名言ですね。初めてその言葉の意味が分かりました。今回の授業で、「オウム真理教」と「阪神淡路大震災」での若者を取り扱っていましたが、私もそうした若者の共通点を見つめました。それは「受け身」です。彼らは勧誘されたり、テレビのアナウンスを見たりして行動していました。でも、本当に大切なのは、自ら動くことだと思ふのです。彼らは終わりなき日常から脱却してしまいましたが、「終わりのない」ものなんではないと思います。日々の小さな変化に気づけなかっただけだと思います。自分の思っていることを文章にするのはとても難しく、書いてあることが支離滅裂になっていきますが、先生が私達に伝えたいことは分かっていたと思います。15回という短い間でしたが、とてもおもしろく、ためになる授業をありがとうございました。りっはな姿を見せられるよう、頑張ります。(寛) → 「終わりのないものなんて、ない」。簡潔にしてわかりやすい文です。そして、とても力強い。大切なのは「区切り」、あるいは「節目」、そしてそれを自ら付けられるか、見つけれらるか、ということ。そのためには漫然と時を過ごしてはならない。同じ日などないのだから、昨日と違う何かを発見してみよう。そんな声まで聞かえてきました。支離滅裂だなんて思いません。一本、筋が通っていると思います。

サンタクロースがいなくなったと知ったきっかけになったのは、小学校3年生ぐらいの時に、自分がサンタ

に頼んだものを家でみつけてしまったことだった。でも私は親がサンタで悲しかったのではなく、逆にすぐうれしかったのを覚えていて。自分のために黙って買って来てくれたことにすごく感動したからです。サンタが自分の親だったことに興奮しすぎて妹に話してしまったら、妹は大ショックを受けていました。そんな嘘をついたり言っていない親に、私もサンタの実体を知ったあとでも、サンタさんはいらぬという嘘をついていました。たぶんサンタさんといったら、まだ欲しいものを買ってくれると思っていたので、これはいい嘘だとは思えませんが、そうすることで自分は親のあたたかみを感じることができました。そしてサンタという存在からも、ついでにいい嘘とだめな嘘というのを学べた気がします。私もこれについてはいい嘘と悪い嘘で相手を怒らせたことがあります。先生もおっしゃる通りに、そういう外界での経験があることになって、もつとやりたい自分になれると思います。私もいろいろな経験を経て、青い鳥と出会うようになりたいです。今までいろいろなことを教えていただき、ありがとうございます。(梨沙) → 「嘘」について学べたとの実感に興奮し、深みをさらに加えるために次のことを考えてみましょう。世の中には積極的に「嘘はだめ」と考え、行動している人もいます。それをしてそれを求めたり、強いたりする人もいます。そんな人には、さて、どのように接したらよいでしょうか。そのような人に出会う前に自分の中でバーチャル体験をしてみましょう。じっくりと考えてみてください。

先生の授業は、まるで一つの物語のようですね。15回を通して少しずつ伏線を探り、最後の最後で伝えたかったことを明らかにする。私が一番好きな授業の進め方です。今後の参考にしたいです!また、さいごの一言がステキでした。「青い鳥のように、探しているものは自分の中にある」。夢を確立できていない私なので、自分が追い求めている夢を自分自身としっかり向き合ってみようと思います。半年間、ありがとうございます。また機会があれば、その時はよろしくお願いします。(眞充) → 授業にはシナリオがあります。あるはずですが、いいえ、なくてはなりません。そのシナリオを支えるのは希望です。「教えるとは希望を語ること」、覚えていらつしやいますか。シナリオならば場面や登場人物の他に小道具、美術、音響、照明なども考えておかなければなりません。一つの作品を作り上げる、そんな感じでしょうか。「一つの物語」のようだと感想は、だからとても嬉しいのです。ありがとうございます。今、ここに申し述べたことを踏まえた上で、下の図をご自身で解釈してみてください。



今回の「教職概説の広場」を見ていると、様々な意見があって、おもしろかったです。また、特別番外編のマユコさんのレポートを読んで、「愛とか優しさとかは目に見えないことが多いけれど、確かに存在するものだ」、この文章をとてもステキだなと思います。私は自分の目で確かめたり、耳で聞いたりしない、たとえ、有力な情報であっても信じないことが多いです。しかし、このレポートを読んで、目に見える愛や優しさだけが大事なのではないんだ、そう思いました。この授業は、これからの世代、というか、後輩たちにも聞いてほしいなと思います。何がと言われると分かりませんが、この授業を受けて、私は何か変わったような気がします。自分の子供にも先生の授業を受けさせたいです。それが無理なら私が先生に教わったことを子供に、また自分が先生になったら生徒たちに伝えていければいいなと思います。(美幸) →
そうです、パトンをリレーしていくことが大切なのです。高校の教師になりましたが、学校で高校生に大切な何かを伝えたいという気持ち強く抱いていますが、学校教師になる学生に自分の願いを託し、それを学校で生徒に伝えてもらうこともできると思い当たり、大学の教員になる道を選びました。その原点は「リレー」です。ですから、あなたのレポートのラストセンテンスはとも嬉しい、よろしくお願いたします。

前回の授業ではわからなかったことを今回の授業では冒頭に少し話をしていただけ、なんとかが答えが見えてきた、そんな感じです。僕は昔から「サンタはいる」と信じて生きてきました。幼い頃、クリスマスを迎え、朝早く起きると何やらプレゼントがあり、開けてみると自分が欲しかった物で、喜びながら両親に言う、「サンタさんが来てくれたはたんやんで」と言いました。サンタの正体が…ということに気付いたのがいつだったかは忘れてしまいましたが、さほどショックは受けていなかったような気はします。それからいくつか年をとった今でも、実はサンタの存在を信じています。でも自分が信じているサンタがくれるプレゼントは欲しい物ではありません。では何かというとクリスマスを迎えた今日まで無事に過ごすことが出来た自分に「来年」というプレゼントをくれるのだと思っています。これがクリスマスについて出した自分の答えです。自分には答えが見つかからない、という経験があります。いや、経験しているはずなのに、忘れてしまっているのかもしれない、という経験があります。しかし、今、大学に入学し、この学部で勉強している、このことをどのように将来に活かさないといけないか」という問題に悩んでいます。多分、この答えは周りを探しても、探しても見つからないでしょう。というより現時点では見つからないでしょう。大学で4年勉強し、卒業したあとも答えを求め続けるのかなと思います。最後に三浦先生、これまでの学校の授業では勉強することがなかった、教えてもらえなかったことを教えていただき、ありがとうございます。先生の授業で学んだことを活かして、生きていこうと思います。(直登) →「来年」というプレゼント、とても素敵な表現です、考え方はですね。大学で学ぶことが全て将来、(主として職業上の)役に立つ、という考え方や工学などの実学が後から入り込み、今のようになかたちになったのです。虚学は実学との対比で説明すると役に立たない学問ということになります。純粋に真理の探究を楽しむ学問、思考を堪能する学問、そのように捉えてみましょう。それは将来の職業の役に立つのではなく、これからのあなたの役に立つはずです。

今回のレポートは書きたいことが多すぎて困りますね。まずサンタクロースの件は、私はサンタさんについて少しズルいなと思っていました。なぜならプレゼントを買ってあげているのは親たちなのに、感謝されるのはサンタさんだからです(私はサンタさんを信じる・信じない以前に、こういうシステムだとなぜか知ってしまっていました。子どもらしくないですね(笑))。でも親たちはそんなサンタさんに対して怒ってりしません。それはサンタさんを介することで、夢や温かさを子どもに与えられるからです。私はサンタさんがそういうシステムだと知っていても、両親からプレゼントを手渡して渡されるより、枕元にあった方が嬉しかったです。あと、若者の迷える良心の解説はすごく納得がいきました。それと、やはり他のみんなも私と同じ様なこと(このままでいいの?)で悩んでいるんだなと、少し安心しました。過去14回の授業で教わられた伏線が、今日、見事に回収され、一つになって、何か気持ち良かったです。これから生きる上で何かしらのヒントにしたいです。この授業、すごく楽しかったです！ありがとうございます！(雅美) →サンタがずるいわけではありませんね(笑)。「あのひと」(たち)は計算や経済効率にしたがって動いているわけではありませんから(笑、再度)。サンタ・システム、なかなかおももしろいネーミングですね。この「教職概説」の各回の授業のつながりをどの段階で感じてもらえるのか、あるいは感じてもらおうののよいか、わたくしは時々そのことについて考えを巡らせてますが、「スッキリ感」を伝えるレポートが結構あるので、どうやら最終回がよいですね。しばらく、このスタイルを進めることにいたします。

あー…今日での授業も終わりなんですね…とても寂しいです。前回の先生の不思議な(?)について私は「わぁーすごい！」としか思いませんでした。しかし、その不思議な力を肯定するか否定するかという点を考え出すと…いきなりとても複雑な問題に変化していききました。「善悪の見極めはとも難しい事なんだよ」と小学校の先生に言われた事をふと思い出しました。変わりたいと思った時、どうしても「何をしたら変わるのか」「どうしたらいいのか」と考えてしまっていた事に気付かされました。変わるための経験をし、そこで何を感じて、何を自分は考えたのかが大切なんですよ。経験はその事を考えるためのものであり、変わるために必要なものじゃないんですよ。うん…なんだかどうとも深いですね！ww 最後になりましたが、私にとってもこの授業はたくさん考えさせられ、たくさんの新しい思いを与えてくれ、たくさん笑いをくれた授業でした。本当にありがとうございます(愛) →小学校の先生、とても素敵な先生ですね。なかなか口口にできることではありませんし、どのタイミングで、何をきかっけにそのことを伝えるのか、それとも難しいことです。ですが、きっとその先生はきわめて自然にそのことをあなたがたに伝えられたのでしょう。教育とは、教えるとは、届けるとは、そういうことなのだと思います。経験の意味については別の機会にお伝えしましたから、ここでは繰り返しません。そのことを少し違うアングルから、あなた自身の言葉で綴ってくださいました。なるほど、経験の価値についてこのような表現の仕方もあるのか、わたくしにとっても発見でした。ありがとうございます。

私は自分の子どもに「サンタクロースはいる」と言いたいです。いつかサンタクロースがいなくても知ったとき、今まで自分がどれだけ親から愛をもらい、しあわせな気持ちをもたらしていたかを感じることができると思っています。「サンタクロース」は人々の愛や幸福な気持ちにより存在することができると不思議

な人物だと私は思います。子供のルールからの脱出はとて難しいと本当に思います。小さな頃から教えられてきたことは本当に根強く私の中に存在してしまっていて、今でもその子供のルールにとらわれ、わけがわからなくなることがあります。最後の『見つからない答えは自分の中にある』という先生のメッセージ、とても心に響きました。今までの授業はこのメッセージのためのシナリオだったなんて、すごすぎます。そのシナリオが完璧だったので、今、私はこのメッセージを素直に受けとめることができたんだらうなと改めて先生のスゴさに頭が下がります。自分の中に答えがあるのだから、自分の外ではその答えを引き出せるように、たくさんの経験を通して見つけ出せばいいのだからと思えます。答えを見つめることは、たくさんの人からの愛や幸せな気持ちをもらい、そして自分が愛されていることを知り、自身を愛することそのものなのかもしれないですね。私も正直、自分のやりたいことがよくわかっている。だからこそ、先生の15回分の講義を考え直し、ゆっくり自分の答えを見つけて出しているのかなと思います。先週のマジックの意味は、本当のこと、うそのこと、そんな単純な言葉で説明できるものはない。この世に存在していないくて、自分が心から信じ、信じることで幸せな気持ちになれるものは存在する、目の前にあるものは自分の気を持ち方で存在するか存在しないかが決まるのではないかと、ということだったのかなと思えます。15回の講義、ありがたうございました。私の頭はまだまだカチカチです。しかし、先生の講義のおかげで、たくさんのことを知ることができ、自分の中にある答えを見つけて出す手がかりになりました。今日で先生の授業が最後、水曜の2限は一週間の中で一番幸せな時間でした。また機会があれば先生の授業受けたいです。ステキなプレゼントありがたうございました。(榮保) →「こたえにいききたる」ことを「たくさんの人からの愛や幸せな気持ちをもらい、そして自分が愛されていることを知り、自身自身を愛すること」なのだと思えたいあなた、センス、スピリット、マインド、それをとても素敵だと思えます。そんな時代遅れな賞賛などがかすられてしまうような、それを圧倒的に一蹴してしまうような、素敵なレポートですね。一所懸命授業をしていてよかった、そう思わせてくれるありがたいレポートです。サンキュ。

今日は最後の授業でした。私は周りからよく影響を受けやすい人間です。もし将来が不安になったら、もしかしらたらオウム真理教のようなものを信じてしまってもいいかもしれません。でも、この授業を受けて、答えは自分の中にあるのだと気付くことができず焦りました。焦ることもあるかもしれないけど、周りに答えを求めるのではなく、自分の中にある答えをゆっくりでも見つけていきたいです。でも悩んだりした時、一人で考えず、周りの人の意見もほどよく聞いて、よりよい答えを見つめたいです。私はこの授業で、他の授業では学べない大切な事をいくつも学べました。楽しいクイズやお話を聞けた授業だったので、すごく楽しかったです。私も教師になった時はこんな授業ができるようにがんばりたいです。(祥子) →「そうそう、この科目の授業内容を云々するのでもいいですが、あなた(たち)が教師になった時、さて、どうするか、それこそが大事なですね。そのためのヒントをわたくしはいくつも思ひ込みましたつもりです。そのことに気づき、それを自分なりにアレンジして、どうぞ実践の上で役立ててほしいと、心から望んでいます。でもね、一から十まで真似をしてはダメですよ(おっと、これはあなたに方向性という台詞ではありませんね)。あなたらしさが生徒(もしくは児童)に伝わる授業を実践してくださいね。

過去の授業が今日のあの一言を先生が私達に伝えるために用意してくれた貴重な時間であったことに感動しました。これから大学生生活を送っていく中で、この授業で学んだこと、感じたこと、私達がしなければならぬことを思い、また考えていこうと思えます。卒業して自分がどのような道を自分の足で歩んでいくのか、いけるようになるのか……その日のために今日をたくましく生きていきます(笑)。うまくいかなしいことも多いですが、自分の中の答えが見つかるその時が来ることを信じて…。先生が私達に伝えたいことがたくさんあります。三浦先生に出会えて良かったと心から感じています。今、ここにいられることができて良かったです。三浦先生に会えたのか少し不安は残りますが…。最初から最後まで、この授業を楽しみに感謝しなければならぬあと、しみじみ考えてしまいました。また、何かご縁がございましたら、先生に会えること楽しみにしています。本当にありがたうございました。(理美) →「今日をたくましく生きていきます」、こんなに力強く、素敵で、でも詩的な薫りが漂う文言には、なかなかお目にかかることができません。とっても素敵だと思います。間違はなく、あなたはわたくしのメッセージを受け取ったのだと思いますよ。そう信じて次の一歩を！

「終わりのなき日常」の打破を志す若者の「さまよえる良心」という事ということでしたが、先生のお話を聞かせて下さい。講義を終えて、半年を振り返って、今ここに何を書こうか考えました。先生のお話を聞かせて下さい。それも“今の”先生のお話を。若かりし頃、今の我々と同年代の頃の先生の懐疑や葛藤、喜びに触れ、それを身近に感じたり、己を重ねたり、また果てしなく感じたり致しました。では、今の先生はどうですか？講義や「広場」を思い返して思いついた事です。私達の話を聞き、それに答えてくれるのではなく、先生のお話を聞かせて下さい。あの青年期を越えて今、私達に力をくれる先生はどんな人なのですか。半年もの期間の中で、何もお話ししていない事に今更気付いてしまいました。最終回の今日を迎えて、今、私自身に答える言葉よりも、先生ご自身についての言葉が欲しいと思います。私が憧れる「大人」を生きる先生は、楽しいですか、悲しいですか、どんな風に世界を眺めていらっしゃいますか。私は将来、「大人」を悲観したくありません。たとえ一時、大人に失望する事があっても、そこから再び浮上出来るだけの力が欲しい。先生のお話を聞かせて下さい。楽しい話でも、悲しい話でも、必ず私を浮上させてくれる力です。半年間、本当に有難うございました。(千尋) →Please catch me! メール1本限りにせずに、どしどしアクセスしてください。包み隠さず、「今のわたくし」についてお話をいたしましょう。お待ち申し上げております。

「教職概論」の授業は、大学に入ってから初めて、楽しい、興味深いと思った講義です。一回だけ欠席してまいりましたが、出席した講義では、いつも何か一つ得ることが出来ました。教職という道に悩んでいた自分ですが、前向きに考えていくことが出来そうです。三浦先生はでっかい人間だなあと感じます。先生には数々の経験が詰まっていて、それを私達に発信してくれる木の幹みたいな感じでした。先生にとっても教職の道は天職のように思えます。私も自分の生き甲斐と言えるような職業を見つめたいです。関西大学はそれを見つめるのに絶好の場所だと思っています。先生のように色んなことを経験して、でっかい人間になります。ありがたうございました。(聖美) →) でっかいのは図体(と態度)。肝玉は存外小さいです(笑)。でも「木の幹」という言葉はとっても嬉しい。飛鳥の『Big Tree』という歌が好きなので(好き

な歌の一つなのです。墓前にはビールと蕎麦を供えて、Big Tree を歌ってほしい、これを遺言にすることを教え子たちに申し述べたことがあるほどです。「文章力を磨く」の授業でもLA との共同制作のタイトルを「Big Tree」にしたほどです。だから、とっても嬉しい。／教職が天職なのか、そうでないかは、他の職業に就いたことがないので、俄に判断することはできませんが、嫌いではない、いや好きであることとは間違いないと思います。名付け親もほっと安堵の胸をなで下ろしているかもしれないですね。

いつもは前から2〜3列目に座っているけれど、今回は初めて最前列に座りました。それは先生の話を最後に向き合っていたと思ったからです。信じる・信じない、本当・嘘、どれが正しいのか、今の私にはわかりません。さまざま良心があるのかすら分からず、今の状況では宗教などの巧みな手口に引っかけられてしまうのではないかと、とても心配です。きっと大丈夫だと信じているけれど、それもわかりません。ここまで書いて何が言いたいのかわからない自分でもよくわからなくなってきましたが、先生の伝えたいことだけは信じていこうと思います。答えを外に探し求めるのではなく、自分の中に探し求めていきたいです。この15回の授業は、初めての大学生生活において最も楽しく、意味のある、価値のあると思えた授業でした。この授業に、そして先生に出会えてよかったと心から思っています。ありがとうございます。(万祐子) →あなたの真摯な眼差し、わたくしにとっては支えであり、励みともなっています。わからない、不安である、というお言葉をいただきました。精一杯、メッセージをお届けたつもりでしたが、「不安である」のほどもかくとして（それは普通のこと、あたりまえのもので）、「わからない」と正直に綴られてしまつと、わたくし、どうしてよいかかわかりませぬ。何が足りなかったのだろう、何処に不手際があったのだろうか、今となってはどうしようもないですね。ただ、それがこれから歩きだそうとするあなたがお感じになっている気持ちの表露であるのなら、そう思っ、自らの不安と焦燥をなんとかおさめようと思います。自明理も敬愚、尊大と紙一重、そんなことを教えていただきました。ありがとうございます。

「答えは自分の中にある」ということを伝えるために15回もの講義を行ったのはすごいと思います。でも、もし一言で言われたところで、ピンと来なかったと思います。先生のメッセージはとても心に響きました。ポランディアと新興宗教に共通点があるという考え方は新鮮でした。僕もはまってしまいたい、こわいなあと思います。僕も先生の意見に賛成ですが、どちらも「誰かに必要とされたい」という気持ちがあるという点で似ていると思います。半ばの講義で、このような話があったと思いますが、自分の役割というもののはつきりしていないからこそ、不安になつてしまふのだと思います。ドイツへの留学を考えていますが、行くだけでは何も変わらないのだと感じました。自分から積極的に学んだり、話したり、そういう姿勢が大切なのだと思います。この講義を取って良かったと思います。ありがとうございます。

(裕哉) →「一言で言われたところで、ピンと来なかった」、その通り。しかも、それがこの授業が始まって間もない頃だったから尚更ですね。友人Kの話についても然り。あの話を三回目あるいは四回目あたりにしていたら、たとえば、その話をした意図を伝えたとしても、引く気持の方が強く作用してしまつたに違いありません。授業予ザインとは、そういうことを勘案してなすべきことなのですね。少しでも参考になかれかと望みます。／ドイツの素直への留学をお考えなのでしょうか。ドイツの大学は大学史の中でエポックメイキングとなる存在でした(19世紀の話です)。これ以上の話はこの紙面では割愛しますが、続

きをお知りになりました『大学教育論』にお越し下さい。お待ちしております。

小学生の時にサンタクロースについて文章を書いたことをよく覚えています。サンタクロースは両親であるということと前提として「だから大切な人なんだ」と書きました。今日のお話を聞いて、サンタクロースとは、そのさらに上の、もっとすごい人なんだなと思いました。幼いころには、とても大きく見えた小さな贈り物は、世界をつむぐやさしさのかけらだったのかもしれないと感じました。この授業は今まで経験したことのない、あたらしい授業でした。いつもいろいろなことに気付かされました。知らされませんでした。でも、まだわかりきっていないこともたくさんあると思います。ここで学べたことを糧に、これからもっといろいろなことに気付きたいです。知りたいたいです。そうすれば、自分の日常が終わらなきものではなくなると思います。がんばります。(萌) →あなたが小学生の頃の担任に会ってみたい、いや、なってみてみたいです。とっても素敵なセンスだと思えます。「だから大切な人なんだ」「とても大きく見えた小さな贈り物」、珠玉の名言だと思えます。このような素敵な言葉、必ず残しておきましょう。日記がいいかな。きつと、いつか、宝物として光り輝く時が来ますよ。

「うそ」の話を聞いて、「偽」という字は「人」の「為」と書くぞ!という話や、「嘘も方便」というが、自分への方便がほとんど!人間はどうしようもないな!という話を思い出しました。僕は今、「どうして嘘をついてはいけないと教えるのか?」という疑問にぶつかっています。先生が言われたように、嘘にも「正」と「邪」があります。本当にいけないことは「嘘をついて人に迷惑をかけたたり、人を悲しませたりすること」だと思ふのです。でも、それをわかった上で「嘘をついてはいけない」と言うのなら、どういう理由があるのでしょうか。大人と子供の違いでしょうか。子供には説明しても理解できないのでしょうか。理解できない子供には無理矢理抑え付けるように「いけません」と言っているのでしょうか。僕は違ふと思います。僕は小学生の頃、嘘をつくのが大好きでした。でも「これはいい嘘だな」「これはいいいやいけない嘘だな」と、嘘をつくたびに徐々に判断出来るようになっていきました。しかし「嘘をつくな」と教えられるので、疑問でしかたありませんでした。浪人していた時、ソクラテスと青年の「嘘は不正か」の問答を見たとき、これだ、これだ、と思いました。本当は善で、嘘は悪という考えはどこからやってきたのでしょうか。儒教ですか、自然科学ですか。不安な状況にいると、甘い餌がそこに用意されていると思ふます。誰かに正しいと認めてもらうことや、自分のやっついていることは正しいのだと保証してもらうことは、すごく大きな安心感を与えてくれますが、疑うことを放棄してしまうことになるので、とても危険だと思ふます。僕は今、「何か、この世にはうまい方法があつて、それさえ見つければ上手くいく、だとか、こうすれば自分は変わるんだ」という考えより「全然うまくいかない。少し進んでいるようだが、またすぐ挫折するよな所、イライラしながらも、なんとかもちこたえようともがいている」方が前進できているんじゃないかと思ふます。関西大学に来て、この講義を受けられて、とてもよかったです。なんだか、ここでの三浦先生との出会いは必然だったんじゃないか、なんて思ったりもします。15回の授業、途中で病欠があったことが悔やまれますが、とても意義のある時間でした。本当にありがとうございます。た。(元臣) →必然でしょう、間違いない。／「ほらふき男爵」という物語をご存知でしょうか。ほとんど大人の大人が、親が、「うそをついてはだめ」と教えている中、文学作品の中にはあたりに迷惑をばらまくかの

ように平然とほらを吹いている、すなわちうそをついている大人が登場します。でも、この物語を読み聞かせる大人は「だから、うそはだめなのよ」とは言いませんし、聞いていることも「やっばり、うそはだめなんだよね」とも思いません。そこに何か遠慮というか、ゆとりというか、遊びというか、杓子定規では測れないものを感じ取るからなのでしょうね。あなたが好きだった「嘘をつく」ことも、ほら吹き男爵と同じものだったのかもしれないね（わたくしは、今でも、時々、いたずらにうそをつくことがあります。いつも、へえ、なるほどねえと皆が思うようなうそですけれど）。／おそろくは存在しないであろう「うまらうそ、でも必ず笑い声だけが後に残るようなうそですけれど」。／おそろくは存在しないであろう「うまい方法」を探し出すよりは、「うまくいかなない現実」を上手に受けとめ、それでも前に進むこと、あきらめない歩き方が、絶対に楽しいですよ。あなたの感性、とてもステキだと思います。

先週の授業、確かに先生が何を伝えたかったのか、はっきりと理解できませんでした。でも、そういう中で、何を考えるか、それが大切だということが、今日、よくわかりました。きっと人生の中でもよく分らないことはたくさんあると思います。その中で、分からないことをそのまましておくのではいけない、何を意味するのか、自分で考えることが大切だということを先生は伝えたかったのではないかと、今、私は考えます。人により、また考え方によっていろいろな捉え方がありますがね。「人それぞれだからすばらしい」という言葉がありますが、最近、本当にそのように思っています。最後に、全15回の熱のこともった授業がありとうございしました。三浦先生の授業いつも楽しみにしていました。そして授業が終わると、毎回、「よし頑張ろう!」と思えました。広場も、毎回、お忙しいのにありとうございしました。広場を読んでいると、みんないろいろいるなすばらしい考え方を持っていて、とても刺激的でした。この授業で感じたこと、考えたことを忘れず、これからがんばります。本当にありとうございしました。(ほのか) → いいなあ、そんな風に受け取ってくださったのですね。そう、それもわたくしが伝えたかった(囁かれた)メッセージ。そのように考えたあなた、ステキです。👉 / 白熱というよりは高熱の授業だったかもしれないね(笑)。／「広場」は、本当に、今期ほど作り甲斐を感じたことは今までにはありませんでした。熱心な読者、いや、レポート執筆者多数あつての作品です。あなたをはじめ、みなさんに感謝です。ありとう！

私は一度そのときの自分が心底嫌になつてどうすればいいのかわからなくなつていた時期がありました。でもそんな時、たまたま時期が重なつてニューズランドに短い間ですが留学したのです。そこで多くの人々との出会い、経験、カルチャーショック、とにかく色んなものから刺激を受けました。私にとつてその時期は今にして思えばとても大切なものになりました。それは終わりなき日常から抜け出すきっかけを与えてくれたのだと今日の授業から理解しました。それからしばらくはとても充実した毎日でした。“こうなりたい自分”というものに少し近づけたからだと思います。その留学からちょうど2年の月日が流れたのですが、また最近毎日が上手いかわからなくなりました。どうすればいいのかわからなくなつていて、気がしますが、でもそれではいけないんですよ。一度抜け出した私なら、抜け出し方をこの授業で理解できた私なら、また上手くやれる。そんな気がしています。この授業で勇気をもらいました。本当にありとうございしました。もう一度頑張つてみます。(S.T.) → NZへ留学した時には、それが見事にきつかけとなつて、あなたは新たな方向に向かって自ら歩みを進めたのですね。それから二年。繰り返しられるよう

毎日の時間の中で「歩むこと」の意味が薄れてしまつたのかもしれない。あの時に願つた「こうなりたい自分」にどれだけ自分が近づけたのか、今、あなたが思い願う「こうなりたい自分」は、その時の「こうなりたい自分」と同じなのか、変化しているのか、そのことをきちんと丁寧に見つめ直してみよう。そのことが新たな一歩の礎となるはずですよ。

サンタクロースの話がとても印象に残りました。私自身、幼い頃はサンタクロースはいると信じていて、お母さんと一緒にサンタクロースにあげるクッキーを作つたことを覚えています。次の朝起きるとそのクッキーがいくらかなくなつていて「サンタさんが食べてくれた!」と喜んでことも覚えています。サンタクロースは本当はいないと気付いた時の事はよく覚えていません。たいしてショックを受けなかつたような気がします。もし自分の子どもに「サンタさんは本当にいるに?」と聞かれたら、私は「いるよ」と答えます。自分がサンタクロースに対して持っていた夢や喜びを子どもにも感じてほしいと思うからです。「うそ」か「ほんとう」か、だけで物事を真し悪しに分けることはできないのだと思います。世の中にはいろいろな「うそ」や「ほんとう」が溢れています。それが自分にとって、そして自分の周りの人にとつてどんな影響をもたらすのかをよく考えることが大切なのではないかと思いました。そして「答えは自分の中にある」という先生の言葉をアイデンティティを確認していくなかで迷つた時、どうしようもなくなつた時に、心の支えにしたいと思つました。「教職概説」という授業名を初めて見た時、「おもしろくなさそう」という先入観を抱いていました。教免をとるために仕方なくとる、という思いで臨んでいた授業が、今ではどの授業よりも楽しかつた授業になつています。教職というものを独特な角度から教えてくださり、それだけじゃない、いろんなことも考えることができました。短い間でしたが、ありとうございしました。とても有意義な時間を過ごすことができました。(翠) → サンタクロースへのクッキー。欧米の慣習をお宅では実践されているのですね。ステキなことだと思います。／「うそ」「ほんとう」を「善悪」というものさし(だけ)ではなく、「周りの人にどんな影響を与えるのか」を勘案するものさしで判断しようというあなたの捉え方、とても素敵だと思います。／「アイデンティティの確認」と「こたえは自分の中にある」ということを正しく結びつけてくださいます。そうです、そうしてほしいのです。ありとう！

目に見えないものを信じるか信じないか。私はサンタクロースは80%ほど心の中で信じていました(あと20%はときどき疑つていたことがあつたので)。今日は最後なのに書きたいことがまとまりません。なので、失礼ですが、箇条書きに書かせていただきます。／先生の『教職概説の広場』に自分の名前が載つていることが嬉しかつたです。名前だけ載せることで、私は冊子に載るように、少し変わったものを書こうという気になれました。それだけ「名前」は大切なものであるとも思いました。“美乃里”、この名前が以前よりも好きになりました。そして先生の名前(“真琴”)も印象深く覚えていました。／先生と大学時代の級友の話。あれは長かつたけれど、夢中になつて聞き入つてしまいました。先生の人格がにじみだつた話です。／スチューデントアパシーの話。先生が幸かつたことを文字にして私たちに詳しく教えて下さつたことは忘れません。いつも明るく元気な先生が、本当に幸そうで、私まで胸が締め付けられました。／他にもたくさんあります。先生が話して下さるもの全てに感動がありました。そして先生の授業は頭を柔軟にしておいた方がいいこともわかりました(実は“頭の体操”で一度も正解したことがなかつたのです(笑))。

教師になろうと思っていなかった私が、「教える」「教育」に魅力を感じました。「教職」の道も考えてみよ
うかな…。大学生になって先生と出会えたことは私にとっても大きな出来事です。ありがとうございます！
(美乃里) 一箇条書きは失礼ではありません。むしろメリハリがあって読みやすいですし、あなたがいく
つかの中から上記のものを選択したということがよくわかるので楽しいですよ。「名前」への愛着、いいで
すね。👍友人Kの語もスチューデントアバシーも学生時代の話でした。「学生時代」は「楽しい」の一
言で括れるものではない、そこには浮き沈み、明暗、いくつものフェーズがあるのだ、ということが伝わ
っているのであるならば、わたくしはもうひとつのねがいをかなえたことになりました。「全てに感動があり
ました」、これにまさる賛辞はありません。ありがとうございます。

自分が人生で迷った時、自分に他から教えるの手が差し伸べられていてはいけない。苦勞・困難を
避けられるという情報が初めから分かっている道には必ず落とし穴があるからだ。これに対して私が思っ
たのは、いつか落とし穴にはまるのではなく、苦勞を避けた地点で穴にはまっているのだからと思った。
でも、楽な道を選んではいけない歌ではない。自分で考えて見つけた楽な道は通っても良いが、他人が楽
だと薦める道は決して自分にプラスに働くわけではない。自分は生きていくうちに成長していくも
のだから、生きる意味を探して遠くへ歩き続けるが、その道の途中で様々な出会いがあり、ゴール
に何も無いことを知り、自分に戻ってくる。そして、ずっと一生涯の命を懸けて探した答えを自分の中に見
つける。幸せの青い鳥を見る日は、まだ先だ先になりそうですが、いつか私も自分の中に帰った時、青い
鳥を目にできるように、磨いていこうと思います。(実加) →「楽しんでいい」という意味ではありません
が「わざわざ苦勞することは無い」ということを本当に苦勞した人は口にします。若い時の苦勞は買って
でもしろ、とは、どうやら死ぬ思いをするほどの苦勞をしたことのない人が安気に口にすると台詞のようで
す。自分がかより願っていること、それを実現するための途上にある困難や苦勞を避けてばかりでは、
その実現は覚えないでしょう。しかし、そうではない事柄で、あらかじめ困難や苦勞あることが分かっ
ていて、しかもそれを回避することが可能であることを知っているのなら、その回避は必ずしも「逃げ」
であるとは限りません。積極的な対処、そのように捉えることもできるでしょう。何事も固定的に捉えな
いようにすること、それを忘れなければ落とし穴の数はぐんと減るはずです。「答え」にはさまざまなが
たやかたがあると思いますが、「一生涯の命を懸けて」求めるほどの「答え」とは、いったい、いかなる問
いに対するものなのか、幸か不幸か、わたくしにはそのような経験がないので想像するしかありません。
想像するしかありませんが、わたくしにとってはどうやら日常的なシーンではなさそうです。これぞ平々
凡々の良さ、でしょうか。

今回が最後の先生の授業だと思うと、なんだか名残惜しいです。教職観説を通して、これから教員になる
ためではなく、社会に出て行く一人の人間として大切なことを学びました。「答えは自分の中にある」、そう
言われ続けて今まで生きてきました。やはり、今の私の心はずっと揺れています。大学生になって何か
新しいことに挑戦すれば答えは見つかるのではないかと、半期過ぎしてきましたが、何も変わらず、終わ
りなき日常を過ごしているだけです。このまま何も見つからず、大学を卒業して、適当に就職して、なん
て思うと、つまらない人生を送ってしまうのではないかしら、とても不安になります。また「答えはな

い」という人もいます。答えを探すために何かをすることが大切だと。どちらが正しいのか、よくは分か
りませんが、今、私がすべきこと、今、私ができることを見つけて、時間はかかるかもしれないけど、自
分なりの答えを見つけたと思います。また毎回、1時間ほど話し続けられる先生がすごいなと思います
た。しかも毎週とても楽しい話をありがとうございます。先生はとてもおもしろいし、何より話をして
いる時、とても楽しんで、私もいつも元気をもらっています。先生にとっても、この職は天職なのかもし
れませんが、私も、自分も楽しんで、相手にも喜ばれる、そんな天職が見つけられたらいいなと思います。
また先生とお話したいですね。(友実子) →「答えはない」という言説の意味は、「そんなに簡単に見つ
けられるような答えはない(簡単に見つけられるのは答えではない)、もしくは「複雑にして深遠な問
いに対する答えは一つとは限らない、あるいはいつまでも同じままではありえない(変化するものである)」
ということなのでしょう。わたくしは「答えはある」と信じているので、このような解釈をします。「答え
がない」というスタンスを取る人のことを否定はしませんが、では、何を求めて(探して)いるのですか、
それとも何も求めて(探して)いないのですかと問いかけてみます。誤解がないように付け加えてお
きますが、「答え」とは最後にたどり着くところ、もの、という意味でわたくしは用いています。人間は
死ぬまで成長しつづけるのですから、「答え」だって変化していくはず。「答え」とはその時、その場にお
いて「何か」を確認して得られたもの、確認するために必要なこと、そんなイメージで申し上げています。
いかがでしょうか。

私はウソは悪いことだと考えていました。ですから、「きつと」とか、「大丈夫」とか、願望形の言葉はあ
まり口に出さないうようにしていたように思います。悩み事、不安な事がある人にとって、私のように中性
的な言葉ばかり使う人は何とも頼りなく、さみしい思いをさせてしまうことだろうとは気付いていました。
ですが、のどまで出かかっている「きつと」とか「大丈夫」という言葉を出そうとすると苦しくなります。
あかささまなウソなんて、なおさらです。ですが、私は「大丈夫」という言葉が大好きです。「きつと大丈
夫、そんな気がする」という言葉が大好きです。おそらく、それが自分の中の本音です。おそらく願望形
の言葉がウソになることが怖かったのだと思います。ウソの中にも正と邪があること、本当の中にもいく
つかの種類があること、忘れたくはないです。今まで18年間かけてつちかかわれてきた性格ですから、そう
簡単には変われないと思います。しかし、私も「サングラスはいるんだよ」と子どもたちに伝えたい
です。前回の授業の終わりに、私が「タネがあるんですか？」と聞いたところ、先生は「タネがあるん
ですかと聞いて恥ずかしいんですか？」とおっしゃいました。結構ショックを受けて、なぜ先生はあ
いいう方々をされたのか…と思います。一週間ひきずって、本日、足が重い気もしながら講義に出まし
た。ですが、今日、私があの時に先生にぶつけた疑問がどうでも良いことであつたと気がしました。今は
どこ心が温かいです。超能力も、サングラスも、私をわくわく、どきどきさせてくれます。大好き
なもの(存在…)です。こんな気持ちも、サングラスも、私をわくわく、どきどきさせてほしいです。この講義を受
けて心からよかつたかと思つています。先生が私たちに伝えたかった「答えは自分の中にある」という気持
ち、ちゃんと受け取りました。ですが、100%先生がこの言葉に込めた気持ちを理解しているかと自問自答
すると、そうではありません。これから大学生活の中でも、社会人としての生活の中でも、どこかで
そのことについて100%に近づけられたらなと思います。これからも私たちがようにな人に先生の思いを伝

えていってくださることを願っています。大切な思いの数々をありがとうございます！(真理子) →もう少しマイルドな言い方をすればよかったです。あのあと、反省しました。お許しください。「どうして、タネがあると思うのでしょうか」「思っているのに、では、なぜ、それを確かめようとするのでしょうか」「そんな言い方もあったなと、わたしは恥ずかしい思いをすることにになりました。ごめんなさいね。それでも、あなたの心がどこか温かさを感じていると知って、ほっとしました。／これからももちろん伝えていくつもりですが、あなたもわたしと同じように大切なことを次代を担う若い魂に伝えていくのですよ。そうやってどんどん、ずんずんと一緒に裾野を広げていきましょう。

自分は小学3年生の学校を休んだ日の屋のテレビで「サンタさんはいない」ということを知りました。そのとき、驚きも喪失感のようなものもありませんでした。ただ一つ「嬉しい」に似ている気分になりました。た。なぜなら、自分のあの父親(悪い父という意味ではありません)がくれたと思うと嬉しかったからです。それ以来「サンタさん」って存在は、自分の中で素敵なものです。自分の根え方は変かもしれませんが、目に見えない物を信じるのは良いなと思います。けど、やっぱり目に見えないものは怖い。そのせいで見たものを信じてみようと思う気持ちが強くなる。フオークが折れた瞬間の心の迷い、あれは少し危険な感情であった気がします。今まさに自分は迷っています。いろんなことに迷っています。これから出会う物の自分の受け止め方次第で変わるとに恐怖も感じます。なぜか今、両親と話したいです。この夏、地元に戻ったら、両親にこの講義で自分が心の成長のきっかけをつかめたことを感じてほしいです。教育者を目指す者として、まず己をしっかり確立したいと思っています。そしていつかサンタクロースを子ども達と楽しみたい。ありがとうございます。 (雄基) →学校を休んだ日のテレビ、特にお屋をささんでの番組、それは普段、学校にいることにもとっては未知の世界ですね。わたくし、虚弱体質だったので、しょっちゅう学校を休んでいましたから、お屋間のTV番組を何度も見ることがあります。といっても、時代が遅いままから、あなたが小学生だった頃にご覧になったような内容のものはないかどうでしょう。それにしてもサンタクロースが親による演出と知った時に、それを嬉しい、しかも普段のお父上とのギャップに対して嬉しいと感じることのできるあなたの感性をステキだと思います。夏休み帰省された時に、ご自身の成長のきっかけの話だけでなく、サンタクロースの話もされてみてはいかがでしょうか。／サンタクロースを子どもたちと楽しみたい、とても素敵な表現ですし、考え方だと思います。サンタクロースは頭で考えるものではなく、心で感じるものですね。

今まで授業をしてきてありありがとうございます。15回全部休まず出席して、ほんまによかったです。とても有意義に過ごせたと思います。私にはワソツつきです。私には日本の血以外の血がまじっています。でも、このことは友だちには言ってません。言いたくないことです。18年間ずつとそをつき続けてます。良いワソツと悪いワソツ。私がついているワソツはどちらでしょう？今まで感じていたことをここで言ったのは、もう限界だったからです。ワソツをつく自分にも、その血を、その国、文化を否定している自分にも腹が立ち、嫌になっただけです。この場所であらう本当の自分をさらけ出してみたいと思います。だから言わせてもらいました。日本の固有の文化である「本音と建前」、これも良いものかかかって思っています。知らなくていいことをワソツでカバーして…実はワソツって正義の味方なのかもしれませんね(笑)。大学に入っ

て私はサークルに入りませんでした。今の私の日常は、学校→バイト→家→学校→バイト→家→…、先生の言った通りの繰り返しの日々を過ごしています。このままじゃあかなくなってしまうと思ってたことでした。それで今日の授業やったのでちょっとビックリ(笑)。「答えは自分の中にある、その言葉を信じて？(というか、信じたい?)、自分探しをしてみたいと思います。今の生活を打破します!!今までありがとうございました。先生とは、一回、授業以外で話してみたいと思ってたんですが、へタレな私はなかなか声をかけられませんでした(笑)。何かの機会で先生の授業をとったときは、またよろしくお願ひします!!(A.I.) →言いたくないことなら敢えて言う必要はないでしょう。それを言わないことは「うそをつく」ということと同じではありません。ご自身の気持ちが楽であるようにいたしましたよ。もしかしら、そのことを話すべき相手、話すべき時が訪れるかもしれません。その時に、あなたが嫌悪感や限界感からではなく『素直な気持ち』で話すことができるといいですね。いえ、きっとそうなります。なるはずですよ。／キャンパスでわたくしを見かけたら、どうぞ遠慮無くお声をかけください。緊急の要件がない限り、立ち止まり、お話をしたいと思っています。／どの授業でお会いできるでしょうか。楽しみにしていますよ。

幸せの青い鳥の話は私も好きです。幸せは自分の中にあるという考えはとても前向きで温かいものだと思います。似たような話で「虹の根もと」という話があります。虹の根本に生き、その虹の橋を渡ると幸せになれると聞いた子が根本を探して旅をするという話です。しかし虹というのは近くへ行くとも見えないので、その少年はもうとくとくと虹の根本に居るのに、それに気が付かないで探し続けています。このお話を言いたいことは、幸せというのは、遠くで見るとあそこがれるものだが、意外と自分が幸せであることに気が付かないものだ、人の幸せをうらやましがらないで、自分の幸せに気付く、ということ。確かに「青い鳥」といい、この「虹」の話といい、幸せは自分のすぐそばにあるということに改めて気付かされます。この教職課程の授業は毎回とても楽しい話をしてくれて、とてもおもしろかったです。テストはななく、これからの自分達の歩み方が試験だということも、先生らしくてステキだと思います。ありがとうございました。(ちひろ) →幸せについて、もうひとつ。以前にも、そして今回の「広場」で紹介していますが、再々度。ウォルト・ディズニーの残した言葉をここではやはり引き合いに出したいと思っています。

“Happiness is a state of mind. It's just according to the way you look at things.” しあわせが自分の外にあって自分を待っているという見方をするのか、しあわせの種は自分の中にあるのだという見方をするのか、その見方次第でしあわせは見つかったり見つからなかったりする、そのようにも読めますね。／学生時代、雨上がりの街を歩いている時、ふと空を見あげたら、そこに二重の虹が浮かんでいました。虹は「架かる」と表現することが多いのですが(だから「ねもと」という言葉、架え方も生まれるのですが)、その時は天空にダブルの虹が浮かんでいたのです。慌ててアパートに走り、カメラを持ち出しましたが、その時には虹は消えかかっていた。根元のないパーフェクトなリングの虹だったのでフィルムに収めなかったのですが、それはありませんでした。その時を選したら手遅れになる、虹にはそんなイメージもついてまわります。／虹もいいですが、「虹の向こう」もよいですね。Over the rainbow を含み言葉にできるような活動、歩き方ができるといいなと思っています。

「答えは自分の中に必ずある」、とても良い言葉だと思いました。「教職課程」という科目名だったので、

もつとがらがちの難しい授業をするものだと思っていました。全15回で先生が語された内容は自分が教師という立場になったときに生徒に話してあげたいと思う内容がたくさんありました。テストの話、最後の締め、とても格好良かったです。15回の授業を通して思ったのですが、三浦先生は今までに辛い事も含め様々な経験をしてきたからこそ、今、こんな話ができる人になったんだと感じます。僕は高校の部活のメンバーの中では偏差値が最も低い大学に通っています。でも、他の人に負けないような人間性を養って、生徒から尊敬される先生になりたいです。なります！（泰基）→「脱・偏差値！」ですぞ。大学入試に関する偏差値なんて、統計学的には価値がきわめて低く、さらにその後の歩き方によっては何の意味も持ちません。いや、むしろ、いつまでもそんなものに縛られている気の毒な人がいる、という意味では、「愚かしくもマイナスの価値」があると言えるでしょう。どの大学に入ったか、ではなく、どんな学生生活を送ったか、そのことにこそ意味と価値がある、以前にもお伝えしたことです。再度、ここに繰り返します。あなたのために！

「サンタクロースは本当にいるの？」と聞かれたら、私は「あなたがいると思うのだったらいるよ」と答えると思います。私自身小学校4年生ぐらいままでサンタがいると思っています。サンタ追跡サイトのようなものを見ていたからです。はっきりと「サンタはいる！」と言うことはできませんが、子どもにとってサンタは夢を叶えてくれる大切な存在であり、大人にとっっては子どもを笑顔にしてくれる存在だと私は思います。授業の最後に先生がおっしゃった「自分の外に答えを求めない。外にあるのはヒント。答えは自分の中にある」という言葉を忘れないように心に刻み、人生を歩んでいこうと思います。今の私は理解が難しいのですが、将来を決める時になったら理解できるかなと思います。全15回の授業はとも意義あるものだったので終わるのがさみしいです。できれば来年も先生が担当されている授業を受けようと思います。ありがとうございます。（佑実）→「あなたがたいと思うのだったら〜」という言葉は相手の年齢を考慮した上で発するほうがよいでしょう。まだ幼い頃には「いるわよ」と伝えるだけでこともほは安心するはず。そろそろ、その存在を疑い始めるような年頃になったら「ね、あなたはいてほしいと思う？いてほしいと思う人がいればサンタクロースはいるのよ」というような伝え方を、というのはいかがでしょうか。／「自分の中にある答え、それは必ずしも明確なかたちで存在しているわけではないから、ですから、なかなか気がつきにくいのでしよう。「こたえの種子」、そのように表現した方がわかりやすいかもしれませんね。その種子を見つけ、水遣いを怠らず、大切に育てていくこと、それが「こたえを見つける」ということにつながっていくのだとご理解ください。

「すべての人が「サンタはほんとうにいる」と思いこんでいたらクリスマス朝はともつまらないものになるはず」という一文を読んだとき、どうしてそうなるのか理解できなかつたけれど、後に続く一文を讀んで「サンタはいない」と知っている人が「サンタはいる」と信じる人へ夢や希望のプレゼントをするからこそクリスマス朝が素晴らしいものになるのだということに気がきました。私は小学生の時にサンタはいないということ児童向けの小説を讀んで知りました（子どもに向けた文章でそのような記述をするのはどうかかと思いましたが…。でも私は「サンタはいない」と知ったことを誰にも言いませんでした。幼いながらに家族が私のことを持って嘘をついていることがわかっていったのだと思います。ある時、母が

「お父さんにクリスマスプレゼント、なんか頼んだ？」と言ったことで嘘は明るみになってしまいました。が「一明るみに出してしまいましたが、いまだに「サンタさんってお父さんなんやろ〜？」と聞いても家族はみんな否定するので、私の家庭ではまだほんとうのサンタさんは健在です！私の幸せを願ってくれている家族に感謝したいです。この教職概説という15回の講義を通して、本当に様々なことを知り、考え、糧とすることができました。そしてきつーと思いつつ、また新しい発見があるのではないかと、考えています。私たちにとっつて三浦先生はまさに“生き字引”ならぬ“生き教材”であつたと思います。私もそんな、自分の得た経験や知識から、考えたことを基に、伝えた相手を深く考えさせることができるような、そんな人になりたい。そう思いました。もしよろしければ来年の教職概説にもこっそり顔を出したいです。それくらい、本当に大好きな授業でした。このレポートを最後に、もうみんなのレポートやそれに対する先生のコメントが読めないのだと思うと、とてもさみしいです…。こうして、私にとって深く考え、新たなことに気付かせ、歩み出させてくれるような機会をくださり、本当にありがとうございます。これからもう新たなことを知り、深く考え、新たな発見を求めていけるような私であらうと思います。（歩実）→いまでもハバがサンタクロースなんですよ、いえいえ、そうではないんだよ、という会話が繰り返り広げられるご家族のことをほほえましく思います。いいですね。／「生き字引」とは「まるで字引（が頭の中にあるか）のように、いろんなことを知っている人」ということですから、「生き教材」とは「まるで教材のように学習の材料となる人、もしくは学習内容を伝える媒体（教科書等）のような人」ということになるのでしょうか（教科書はいやだなあ…。今までにわたたくしは自分の経験（特に学生時代に体験したこと）をお話ししてきましたから、それが何かの役に立つ、ということがあるかもしれませんが。ま、反面教師も、ある意味、そうはなりたくない、そうなるってほならない、ということを知らせると教材のようなものですから、「生き教材」という称号、ありがたく頂戴しておきますね（笑）。／新たな知を求め、考えを深め、発見の喜びを友とすると、そのような歩き方、ぜひとも大切にしていきたいです。

今日は授業の初めに講義を受けている人のレポートを読み通しました。人の考えに触れることは刺激を受けます。同じ時間同じ内容を聞いているはずなのに、刺激の受け方は十人十色でおもしろいと思います。続いてサンタクロースの話。私はたまたま自分がサンタさんへ書いた手紙をお父さんの引き出しから発見した時に、「あっ、サンタさんはいないんだ」と思いました。少し寂しい気持ちになりましたが、親がバレないように用意してくれたことを少し嬉しくも思いました。私は子どもにも夢を与えたいので「サンタさんはいないよ」って言いたいです。この“うそ”は子どもにとっつてプラスになるとも思います。年齢を重ねるとつれて、うそとほんとうの基準は難しくなってきました。『うそつきは泥棒のはじまり』ということばもあります。うそは生きていく上で必要だと思います。リストラを3回された人の話も、ただ「ほんとう」のこたえを伝えるのはだめだということが分かりました。知らない方が幸せなことなんて数多くあると思います。ただ、私自身何も考えずに“真実”を伝えて友だちを傷つけたことがあります。まだまだ未熟です。そして先生がこの講義で伝えたかった“答えは自分の中にある”という言葉は心に響きました。周りに相談して、色んな話を聞いて手助けになることはたくさんあるけれど、答えを導くのは自分自身である。自分自身で答えを見つけれないと、それは人に流されたことになるし、最終的に後悔してしまふ。時間がかかってモヤモヤがなかなか解消されなくて嫌だけれど、答えは自分の中です。自分自身でつかみとりたいと思

ました。この講義 15 回分を忘れずに前を向いて歩いて歩きたいです。(葉月) →うそつきは泥棒のはじまり、と言いますが、泥棒はうそつきのはじまり、でしょうね。「これ、とっただけでしょう」「いいえ、とっただけじゃない」／第三回目の授業で野生児の事例を取り上げました。そこで「言葉とは事物の分類枠組みである」ということもお伝えしました。この「分類枠組み」は大切な概念であり、便利なこともありますが、しばしば思いを馳せてほしいと願います。大人になるにつれて「うそとほんとうの基準」が難しくなるのではなく、「うそ」にも「ほんとう」にも分類枠組みが増えていく、ということなのだとお心得いただければと思います。／たとえ「自分自身で答えをみつけられない」ということがあったとしても、それは必ずしも「人に流された」ということにはなりません。「人に流される」とは、自分の考え、判断を持たず、人の考えや判断にしたがう、それを鵜呑みにする、あるいは全てを任せてしまう、ということですよ。答えを見つけようともがいたが、なかなかみつつかつからない、そんな時に誰かが何かヒントになるようなことを教えてくれた、これは「人に流される」ということではありませんね。それを頼り希なる出会い、縁(えにし)なのだと考えた方が楽しいですよ。他の人の言葉によって、自分の中にそれがあることを知る、これも貴重な体験だと思います。

今日で教職概説が終わってしまうと思うと、大変悲しいです。この教職概説でたくさんの方のことを教えてもらいました。サンタクロースの話は「いる」というのも、「いない」というのも、その中には親の愛情があるのだと思います。やっぱり私は子どもができた時には「サンタクロースはいるよ」と言ってしまうと思います。最後の話は泣きそうになりました。『自分の求めているものは自分の中にある』、本当に心にひびきました。私はたくさんの人に会い、触れ合って自分の中から見つけていきたいと感じました。灯台下暗しにならないように気をつけたいと思います。必修だから取った教職概説が本当に三浦先生でよかったと思います。きつと長い人生くじけたら、自分がどうしたらいいのかわからず立ち止まって考えている時が来ると思います。でもそれは悪いことじゃないと今なら考えられるようになってから、またそこから大きく一歩、歩き出せようと思います。もし教師になれて、悩むようなことがあっても、それはスキーマを考えを固定されていないかという広い考え方ができると信じています。本当に三浦先生には感謝してもきれません。(真由) →「大きな一歩」の前には、「立ち止まって考える時間」が大切。その時間があったら、そ、今までと同じ歩幅で歩き始めたつもりが、実は少しだけ広くなっているということがあるでしょう。それは気付かないほどの違いなのかもしれません。でも、その違いが積み重ねられていくと同じ歩数なのに動いた距離が長くなっているということに、やがて思い当たるものです。立ち止まって考える時間をおしんでください。

今までありがとうございました。今、私が履修している中で、教職概説が一番大好きです。毎週水曜日 2 眼が楽しみでした。そう思えたのも三浦先生だったからだと思います。途中で風邪を引いてしまい、15 回全部の授業を聴くことができなかつたことが大変心残りとなっています。それでも女だちに頼んで私の分の『教職概説の広場』を確保してもらい、全て家で読みました。このような方式で授業を進められる先生に出会ったのは初めてだったので、本当に先生と出会えて良かったと思います！是非、後輩にもオオスメしたいです！この先、先生になるために様々な困難や苦悩が待ち受けていると思いますが、この授業を

受けて身につけたものや、先生の良い所を自分のものにして、どんなことにも挑戦し、諦めずに前向きにぶつかっていききたいと思えます！また、機会があれば三浦先生の授業を受けたいです。本当に今までありがとうございました。(美穂) →こちらこそありがとうございます。『広場』方式は時間と体力とをかなり消費するので、自分の年齢に相応な営みなのかどうか、最近ばかりだと気になるところです。ですが、熱心な読者がいるとなると、これは力の続く限り、やめるわけにはいかないようですよ。しかし、悩みは体力・気力方面にではなく、「広場」にレポートが掲載される学生が一定程度、固定されてしまうことにあります。どのレポートを掲載するかを決めるに当たって、氏名を見ずにレポートの内容だけで選んでいるのですが、それでも常連が何名もできてしまうというの、考えようによっては、それだけ常連の文章力が豊かであるという点であり、これは喜ぶべきことなのではないでしょうか。力仕事のように見えるかもしれませんが、結構、気を遣いながらの作業なのです。

三浦先生、今まで私達に熱意溢れる授業をありがとうございました。この授業をとったきっかけは、ただ教職の資格に必要なのと、時間制的に都合が良かっただけなのですが、本当に、本当に、心の底から受けて良かったと思っています。先生にはたくさんの方のことを教えて頂きました。この授業を通して、決して自分一人では考えられないようなことをたくさん考えることができました。考えるといっても、純粋に“思う”“感じる”の方が合っているかもしれないですね。そして、様々なことに気付かせてくれました。授業名は「教職概説」なので、もちろん、人に何かを教える立場としてのこともたくさん学びました。『今後、どのような大人になるか』『今後どう生きていくのか』、これらのことについてのほうが、いろいろなことを得られた気がしています。先生から学んだものはたくさんありすぎて、ここにどうまとめればよいのか判りません。けれど、この授業を受けてから、日常生活でも見方や視点が変わったことたくさんあります。今はまだ気付いていなくても、これから「これがあつたとき三浦先生おっしゃっていたことか」と気付くこともあることですよ。今からそれが本当に楽しみです。最後のレポートなのに、ありきたりなことしか書けない今の自分がとても悔しいです。けれど、私は本当にこの授業が好きだったということ、この授業を受けて良かったと思えているということは、先生にも知っておいて頂きたいです。これからも三浦先生の授業を楽しみにする学生が増えたらいいなと思います。いや、私が思わなくても、そんな学生、たくさんいるのでしようね。私にとって、三浦先生は忘れられない先生、人物の一人です。私もいつか、誰かに、そんな風に思ってもらえたいです。本当にありがとうございます。さあ、(千秋) →ありがとうございます。「ありきたりのこと」だなんて思いません。「今からそれが本当に楽しみです」というセンチメンツにわたくしは喜びを覚えました。そう、これからが大事。あなたの「これから」にすこしでも関わりを持てることを嬉しく思います。佳き足跡を刻んでください。

先生の半年間に亘る授業の最終目的がいに明かされました。今思うと、最初の講義のときからずっと先生は自分達生徒(一学生)のために授業をしてきてたんだなと感じます(他の先生はただノルマをこなすような授業や、自分の知識をただ言いたいだけのようないい先生がいます。全員とは言いませんが)。先生の言う“若者のさまよえる良心”というものは、すごく共感できました。自分はこの話を聞いて『夢をかなえるゾウ』という本を思い出します。この物語は“何か”を変えようと思っていた若者がインドに旅行に行

くが、何も得られぬまま帰ってくるが、インドで買ってきたガネーシャというみやげ物が妻は神様で、ガネーシャは若者に「人生を変えてあげる」という契約をもちかけ、若者は承諾します。しかし、ガネーシャは若者に「〜しろ」とかいう指示しかしませんが、次第に若者は変わっていきます。それはガネーシャのいう指示は、すべて若者が自分を変えるための指示だったのです。この物語は今日の話にぴったり合っているように思いました。結局、自分のことは自分で見つけなきゃいけないんですね。ガネーシャみたいな、それに気付かせてくれるような人がいるとよいのですが、ショーペンハウエルの『読書について』で「多読はよくない」と書かれています。それは自分の「読書はよいことだ」というスキーマをぶち破るものでした。彼曰く「読書は他人にモノを与えてもらう行為である」のだそうで、つまり自分で考えずに楽しているってことみたいですね。これは「さまよえる良心」のこととからめて考えさせられました。「さまよえる良心」が「ポランディア」で何かを変えようと思うのは、つまり「楽」だったんだな、と。それは結局自分で考えて、やっとなんか自分の中に見つけられるものなのでしょう。しかし、現代では、「情報」が多すぎて、考えなくても答えを教えてください。そうやってだんだんと考えることを放棄してしまい、「さまよえる良心」は寝落ちしていくのです。自分はこの授業を受けられて幸運でした。おかげで、自分を見失わずに、落ちることもないと思います。今度は自分が次の世代に伝えなきゃならないと思います。(拓也) → ガネーシャとは、そのままヒンドゥー教の神様なのです。ギリシア神話に登場する神はいかに人間らしく、いったい、どこに神様らしさがあるのかと訝しく思ったことがあります。どうやら、あの神話に登場する神々は人間の愚かしいところ、素晴らしところをそれぞれ誇張気味に体現した存在のようですね。というように考えてみると、ガネーシャが繰り出す課題は実はずっと人間くさいものだったのではないかしら。人間離れした課題など、こなせたところで人間らしくはなれませんがね。ガネーシャの教えは、自分を変えるために、何かとんでもなく高邁なことをしななければならぬとか、人と違った特別な何かを発見しなければならぬとか、そんな必要などない、自分の毎日、日常にもっと目を向けて、一見、たわいもないことのように見えることの中に、そのきっかけを発見しなさい、ということなのでしよう。「びつたり」とは少し違うような気もしますが、今日の話とのつながりはありますね。／多読は、それを目的としてしまふと読書そのものの価値や楽しさが失われる、わたくしはそう思います。けれども、読書が必ずしも受動的な営みであるとは思いません。創造的な読み方だって可能ですよ。ショーペンハウエルを読得してやるつもりで多読を回避しないようにしてほしいと思います。限りある人生の時間の中で読める書籍の数などしれているのです。多読万歳、でも濫読は慎みましょう。

私はこの三浦先生の教職概説が一週間の中で一番好きな授業でした。先生の授業のおかげで、自分のことを見つめ直すことができた、悩んで、もうどうでもいらいやと投げ出しそうになった時に、先生が「悩むことをやめてはいけない。悩むことで人は成長する」といったような意味の言葉を私たちに教えてくれて、前向きな気持ちになれたし、気持ちもスッと楽になりました。たった十五回の授業の中で、私はたくさんことを得ることができたと思うし、本当に人生の中で大切な十五回でした。「みづからない答えは自分の中にある。外にあって自分を待っているのではない」。十五回の授業を通して先生が伝えてくれたものを忘れない、これから大人になっていきたいです。三浦先生ありがとうございました!! (沙理) → 「人生の中で大切な十五回」、かつてこれほどシンプルでありながら、ずんところろに響く贅辞があったでしょう。あ

りがとう。身に余る光栄でございます。でもね、大切なのは、そして本当に楽しみなのは十六回目から、ですよ。

三浦サントは、今日、私に本当にたくさんのお話を教えてくださいます。先生は今まで出逢った教師たちと全然違う気がします。一言では表せませんが、とにかく凄いです。でも、先生がそんな風になったのは、きっと学生時代に色々な壁にぶつかり、乗り越え、自分自身でたくさん考えて、自分の中にある答えを見つけたからなのでしょうね。私は今年の春から大学生になり、高校の時より広い範囲で活動できるようになったので、これをすれば変わるのかなとか、実際、思っていました。でも違うんですね。自分の外にあるものを見て、あるいは経験して、自分の中に吸収し、自分のものにして、そこから答えを見つけてさないと意味がないんだと思います。「試験はこれからあなたの生き方です」。とても心に響きました。この2週間ほど、たくさん試験がありますが、何よりも難しい試験です。でも、この15回の講義で、教育に関しても、自分がこれから生きていく上に関しても、大切な、そして根本を教えてくださいました。本当にありがとうございます。秋学期も、もう一度、講義聞きに行こうかな…(笑)。(美早紀) → 「教職概説」の次回は来年度の春学期。秋学期には残念ながら聞かせておいてあげよう。／「…自分の中に吸収し、自分のものにして、そこから答えを見つけてさないと意味がない」、とても素敵な文章だと思えます。じんわりところに伝わりました。あなたのこれからの歩き方、とても楽しみです。

自分を含め多くの人は知らなかった、あるいは気付いていなかったと思います。「答えは自分の中にある」ということを。そして今日の話を聞いて、今までの15回の授業の内容とかが、自分の中で一つ一つつながってきた気がします。今までの自分はどこかに答えを求めがちでした。親や友人、先輩などに求めてばかりで、自分の中にあるとも知らずに。この授業を15回受けて今思っていることは、自分を変えることができそうだと感じます。周りに答えを求めていた自分を。そして、これを教師という立場から次世代の子たちに伝えていきたいということ。色々な悩みや葛藤から周りに答えを求めがちな子たちに気付かせてあげること、つまり「答えは自分の中にある」ことを教えるのが自分の教師になったときの一つの目標です！約4ヶ月ありがとうございました。(祐樹) → 「自分を変えることができそうだ」という感覚、それを抱いていただけのこと、本当によかったと思います。わたくしは嬉しい。どうぞその感覚を大切にしてください。「答えが自分の中にある」ことを伝えるのは、伝える相手の年齢を十分に勘案した上で実践しようと思っています。わたくしは「答えは自分の中にある(外で自分を待っているのではない)」という内容ならびに表現は大学生向きだと思っています(正確には大学生向きにデザインした、ということ)。相手が中学生なのか、高校生なのか、年齢や教育段階に応じて、伝える内容や伝え方には工夫を施す必要があると思います。子ども社会のルールと大人社会のルールに違いがあるように、この命題にも、伝える相手、場面によって斟酌しなければならぬことがあるということをどうぞお忘れになりませぬように。

4月から先生の授業を受けてきました。まだ1回生で何も分からず、とりあえず教員免許を取ろうと考えているから、水曜日2限も空いているし、この科目を取ろうと、盛く受講しましたが、実際に授業を受け

〇物理学) や「生物学」(ないしは、以下同文) があるのに、その学界で話題になっていないことには一切触れず、何年前(場合によっては何世紀前)に明らかになされたことをさも最新の情報あるいは揺るぎない真理であるかのように(そのせ、テストに出すぞ、だから覚えておけと言う) 教師があまりにも多すぎますね。だから、生徒の、つまらなく感じたり、寝てしまったりという反応は、とても正しいのだとわたしは思っていますよ。生徒をどれだけ自分の授業の世界に引き込めるのか、それは大いなるチャレンジだとは思いますが、そこには尊い価値があるとは思いますが、いつまでもいつまでも同じスタンスで授業をしてはいけません。いつまでも自分の世界に引き込んでしまっていて、はたしてよいのだろうか。そのような内省的な問いかけが生まれなければ、独善の落とし穴は刻々と近づいてきますよ。難しい問題です(禪問答のようでしょう) が、ご注意あれかし。さらなる高みに向かうために!

正直、私は前回の授業は教師になる上で何の意味があるのか、わかりませんでした。意味を自分で考えることに意味がある。この授業には数学や物理、英語のように答えが一つでないもので、すごく楽しいです。教鞭概説の授業では、他の授業では学べないことを学びました。先生の生徒(一学生)に興味を持たせような話し方、話の内容には、いつも感心していました。私も将来、教師になった時には、勉強だけでなく、相手に考えさせるような教師になりたいと思います。(美琴) →実は数学だって、物理だって、答えが一つであるとは限らない[問いもある]のだ、ということにお気づきください(ゲデルに至っては解けない、つまり答えがない問題があるということを証明してしまっています)。英語に至っては、これ、言葉、言葉ですから、答えが一つ、ということはありませんね。ということとを正しく認識し、忘れることがなければ、知的な意味で心地よい刺激を提供する授業のアイデアやデザインを考えるのは、さほど難しいことではないのです。もちろん簡単にできる、という意味ではありません。そこには産みの苦しみがあります。それはやがて産生の喜びに変わる、ということ。それが教師の喜びの予感、実践して手にする、あるいは心で受けとめる喜びの実感、それらが明日明後日の営みにつながるのです。楽だとは思いません。でも、確実なのは、楽しい、ということ。この喜びと楽しさを共有しましょう。増幅しましょう。

オウム真理教と阪神淡路大震災。一見、真逆に見えるこの二つに共通するのは「これをすれば変われる」ということだということ聞いた時、なるほどなどと思いました。「自分を変えたい」「こんな生活から抜け出したい」、そんな気持ちがおウム真理教などの団体に入る理由なのだとしたら、それはバカにできないですね。この世の中、そう考えている人はたくさんいると思います。すごく危ないと思います。また、「大切なものは自分の内側にある」、最後の青い鳥の話。あまり内側なんてのは気付かないものですが、だからその内側をしつかり見て、青い鳥を見つけることができたならなあと思えました。あつというまの15回でしたが、この講義を受けてほんとはよかったです。(美瑛子) →オウム真理教への入信、そんなのおかしいと思うのが当たり前じゃない、誰だってそう思うでしょう…。そんな風に捉えられてしまっても仕方ない話かも知れませんね。でも、そこに「落とし穴」があるのだということに、ぜひともお気づきいただき、日本、いや世界の将来を担う次世代、さらにその次の世代に大切なことをしずかに、でもたしかに伝えていってほしいと願います。そのときに、はたさて、どんな言葉を使うのか、どんな言葉に託すのか、そ

れはなかなか難しく、「これだ!」というものが見つからないことではあります。ですが、それだけにかけて考え始めると楽しくて眠れなくなるほどのことなので、あなたも睡眠時間を削って、その思考、その試行におつきあいください。「青い鳥」、人と場合によっては、これさえも「症候群」扱いにされてしまいますが、それをくぐり抜けて、大切なメッセージをここに載せてほしいと思います。お頼み申し上げます!

15 回の授業、すべての授業で、「この授業を履修して良かった」と思ってきました。頭の体操やおもしろい話からスタートして、気付くととても真剣な話になっていて、授業の内容にとっても素直に納得できました。今日で最後というのが、とても残念です。水曜 2 限はいつも本当に楽しみでした。この授業のことを家族や友人、塾の生徒に話すことも楽しみでした。秋学期の教育原理も先生に教えていただきたいなど、シラバスを何度もチェックし、先生の名前がないことを知りながらも思っています。毎回、本当に素晴らしい授業をありがとうございます。先生がヒントを下さった「アイデンティティの確認」、ゆっくりおこなっていききたいと思います。(さくら) →ありがとうございます。以前、この広場上でご案内申し上げたわたたくしの担当科目のうち、「総合演習」は今年度をもって閉講となります。来年度からは「教育方法・技術論」を担当することになりました。春学期火曜日の 3 限です。よろしければお越し下さい。／多くの方々がこれで授業が終わってしまうことが残念である、悲しい、さびしい、そのようなコメントをお寄せ下さっています。担当者としては身に余る光栄ですが、何事にも「はじめ」と「おわり」があります。その、ある意味、「はじめ」というか、「くぎり」を重んじることも大切なのだと思います。それが「節目」となり、竹のようにしなやかに空に向かって伸びていく礎となるのだと思います。わたたくしにも、もちろん、寂寥感があります。でも、同じキャンパスにいますではありませんか。きっと会えます、必ず会えます。そう信じて、わたたくしはキャンパスの中を歩いていますよ。是非、お声をかけください。

最近、「中二病」という言葉をよく耳にします。若者特有の痛い思考を指す言葉で、自分一人が特別なのだと思ったり、周囲の人々との差別化をしようとすることです。私は中学生の頃、まさにそれでした。先生のおっしゃる「終わりなき日常」に飽きていて、自分に何かの個性が欲しくて、そのせいか、とても不安定な精神状態でした。些細なことでも友人とぶつかり、うまくいかない子どものように泣き、合わない人たちは「私と違うんだ」と思っていました。今、考えれば、どうしてそんな風だったのか、本当に分かりません。ただ、高校生になった時、はっと気付いたのは確かです。私が自分を特別だなんて思わなくても、世界は同じだし、皆もそういう思いを抱えているのだと、ふと思っただけです。きっかけは分かりませんが、「な-んだ」と思ったのと同じ時に、急に色々なことが楽になりました。先生の話してくださった「さまよえる良心」とは少し違うかもしれませんが、私もまた日常を変えてくれる何かを待っていたのだと思います。今、私は楽しい生活を送っています。毎日やることはそんなに変わらないのですが、十分に満足しています。つまりは思っているほど世の中は悪くない、そういうことなのでしょう。話が前後してしましますが、サンタクロースを信じていると私は中学二年まで口にしていました。実際はもつと早い段階でいないことには気付いていたのです。だけど、それで終わらせることは嫌でした。もし、そこで認めてしまえば、私はつまらない人間になってしまう。いないと断言できないのに、どうして諦めてしまうのか。い

た方が楽しいに決まっている。そう思っ、私は「信じている」と言い続けました（言葉です）。今も、私は目に見えないことを信じています。理由は単純に「その方が生きてきたから」です。この頃の子どもはやげに現実的で少し悲しいと思っています。本当のことなんて分らないものが多いのだから、せめて心の中だけは自由でいて欲しいと思っています。子どもたちにそういうことを伝えられる大人になりたいです。最初は「教職にいるから」と思ってた授業でしたが、こんなに面白い授業とは思っていません。(祐季) →「その方が生きてきたから」という言葉と考え方がとてもステキだと思います。そのカラーを大切にもらい、そでていってくださいます。必ず、佳き実績が誕生するはず。楽しみにしています。できることならば報告をしてくださいな。

はじめに前回のレポートについて。「硬券」というものに聞き覚えがなかったのですが、wikipedia の力を借りて調べたのですが、私の最寄り駅は残念ながら硬券ではなかったです…。しかし、近江鉄道日野駅では、まだ硬券が使用されているという情報を入手して驚きました（同じ滋賀県内で、わりと私の住んでいる所の近くにある町なのです）。あまり詳しくお伝えできなくて申し訳ないです。では本日のお話について。「終わりなき日常」の終わりを求めてもがいている状態がまさに現在の私の状態。お話を聞いているとひどく胸に刺さることが多かった。本当に大切なものほど自分の近くに「ず」とあるはずなのに、普段は近すぎる故に気付くことができないのでしょうか。それでも、その「何か」を簡単に見つけてしまおうのでは意味はなく、そこにたどり着くまでの過程を経て、多くの経験を経て成長した自分を見つけてほしい。意味がある尊いものになるのだと思います。それとは別に「終わりなき日常（毎日同じ状態の繰り返し）」があるからこそ、ごくたまに訪れる“日常ではない、変わった出来事”が自分にとって輝かしいものになるのだとも思います。そのためには「終わりなき日常」があることがとても大切なことになる…。やはり「一日一日を大切に」姿勢を忘れることなく、日々を過ごしていきたいです。今日でこの授業が終わると思うとすごく寂しいです。秋学期も先生の授業を取ることができたら絶対に取ります。短い間でしたが、ありがとうございました。(優子) 一振り返ってみると交換日記のようでした。さて、「終わりなき日常」。ここにいつまでも終わらないルーティーンの繰り返し、無限ループ、そんなものを感じ取る人が多いのですが、「日常」が終わらないこととはとても大切なことなのだ、ということに思いを馳せてほしいと願うのです。「日常」が終わってしまったらどうするのでしょうか。そこに現れ出るのは「非日常」でしょうか。毎日のように登場する「非日常」。この語彙矛盾は、おそらくそのまま感性と理性と知性の昇華に成功しない「もやもや」を裹しているような気がします。昨日と同じ今日、今日と同じ明日などないのに、それを同じだと、悲しいかな、感じてしまう、断じてしまうところからだからのあり方、それこそを粗上に乗せてじっくりと調理したい（してほしい）ものですね。昨日と今日は違う、それは例えば日記をつけることで当たり前のように確かめられるものとなります。最近のわたしは息子（長男）について綴るばかりとなり、それ以前は、毎日、日記を綴り、それを多くの人に読んでもらっていました。読者がいるというのは、実はとても大切なことなのです。ありがたいことだと思えます。近々、始めようから。と思わせてくれるレポートでした。サンキュー。

今日は今までの授業がどういった意味を持ち、教育とどのような関係でいたのか分り、今はなんでもかみかみで生きてきた気分です。オウム真理教と阪神淡路大震災の話で、“終わりなき日常” “さまよえる良心” という言葉が出てきましたが、まさにその通りだと思います。実際、私も今そのような心理状況です。高校から大学へ入学する時に、大学に入れば何か今までは違う新しいものに出会えると思って私は入学しました。確かに高校とは違う新しいものにも出会いましたが、それらはどこか自分が期待していたようなものとは違っていました。今でも大学に入学して何が変わったのか分からず、ただただ淡々とバイトと授業の行ったり来たりを繰り返して日々を送っています。でも、今日、先生の話を聞いて、その答えは外ではなく、自分の中にあるとわかり、なんだかほっとした気持ちになりました。これからは焦らず、その答えを自分の中で構築していきたいと思えます。本来、授業とは、知識ばかりでなく、こういった頭を使って自分自身で考え発見していくことが必要なんじゃないかなと思えました。先生の授業を受けられて良かったです。ありがとうございました。(栞由) →「晴れやかですきり」、最終回の印象、感想としてこのうえなく嬉しいものです。ありがとうございました。大学に入れば高校までの授業とは違う「何か」に出会える、わたくしもそんな「期待」に胸をいくばくか膨らませて大学の門をくぐりました。しかしそこで待っていたものは、一回目なのに挨拶も何もなく、いきなり「教科書の23頁を開いて」という言葉で始まる授業でした。そんな教師でしたから（教師の名に値するとは思いませんが）22頁までを省略する意味についての言及のあろうはずもなく、23頁から数頁分を読み上げた後、読んだ内容をそのまま書き上げました（失礼）。教科書があれば、この先生はいらない。それが初めて受けた大学の授業の感想でした。以後、同じように期待を裏切られること幾たび、それでも中には、これぞ大学の講義に値するものだと感銘を受ける授業もあり、失望と希望の間を揺れ動いたことを今でもはつきり覚えています。希望を与えてくれた授業は、教授がその名のとおり、何かについて告白（profess）していたように記憶しています。Professor たるもの profess することがミッション。授業でも申し上げましたが、これはわたくしの中に深く根付いた考え方であります。Profess することが不自然でないようにするために、そこが単なる知識の転移の場でないようにする工夫、配慮が必要ですね。ですから、「本来、授業とは、知識ばかりでなく、こういった頭を使って自分自身で考え発見していくことが必要なんじゃないかなと思えました」というコメントはとも嬉しいのです。再度、ありがとうございました。

今日で授業は終わってしまったので、この授業の第二回目から決めていたことを「告白」しようと思います。それは先生の持論にイチャモンをつけることです（笑）。私は自分でもひねくれていて困っている人を見ますが、他人の困っている顔を見るのが楽しいんです。別に悩みがあったりして、それで困っている人を見るのが楽しいのではなく、「持論崩しがたり屋」なだけです。でも私はまだその「持論崩しがたり屋」になりきれません。論理的に考えることができないのです（笑）。もはや「バカ」です。今日のサンタクロースのお話も、私の母から教えてもらって、それがそのまま私の持論となった持論（ややこしく書いてスママセン）と一致していたので、「ふんふんそうだろ」みたいになつていました（頭もしくは心の中で）。先生を崩すことは私にはできないと思います。でも、いつかは先生のように、いろんな角度から物事を見、その上で持論を持てるのなら持ち、持てないものなら概念は理解している柔軟な人間になりたいと思います（←ここが先生と同じかは知れないです、反対とかだったらすまマセン）。あと「答えはいつ

も自分の中にある」という言葉も忘れないようにします!ありがとうございます。(怜奈) →「持論崩しがたがり屋」、そうそう、わたくしにもそういう側面があります。特に持論を高邁なものだと信じ、他の意見などはなかなか軽んじて一顧だにしない輩が相手となると、獲物を狙う豹のように(獅子でもハンターでも)シャチャでもサメでもいいのですが)、その論のほころびを探し、矛盾をつきつける。そんなこと、昔、よくやりました。あの頃は、それを痛快、爽快と感じていましたが、やがてばかばかしくなってきました。限りある時間をそんなことに費やしている場合ではない、そう気付いたからです。とはいえ、体を張っても阻止しなければならぬ危殆な思想がそこにあったとしたら、今でも闘う気持ちは忘れていないつもりです。闘う必要などない方がいいのですけれどね。

今日の授業を受けて、今までの教職概説の授業を含めて、いろいろなることを思い出したり、考えたりしました。終わりなき日常からの脱却を求めて非日常に憧れる。けれども、手にしたその非日常さえも、教日がたつと終わりなき日常のように感じられてしまっ、そのスパスパから抜け出せなくなってしまうのだらうと思います。『娘についてのドア』という H.G.ウェルズの作品を思い出しました。この作品は簡単に説明すると、現実には満足できず非日常を求め続けて最後には死んでしまうというような話なのですが、今日の授業を通して、自分に足りないと感じるもの、望むものを自分の外に求めてはいけないうちからきました。アイデンティティの確立ではなく、アイデンティティの確認という意味が改めてしつかりと理解できましたし、納得できました。答えはすでに自分の中に存在しているという考え方は今までのことがなかったもので、それもきつと、答えは外にあるという固定観念に縛られていたのだらうなと思います。この教職概説の講義は今までの自分の中にある悪意の意味での固定観念をなくしてくれたように思います。そして、これからはそれを伝えていけるようにしていきたいと思いました(もちろん、自分のアイデンティティの確認を大切にしよう…。本当に自分にとって良い講義だと思います。ありがとうございます)。 (苑純) →嫌な嫌な緑色の扉にひどく心を奪われる、ということはあるかもしれませんが、その扉をくぐってしまえば衝動を伸ばしてしまえばいいかな…。というように、この手の話はあちらこちらへと想像力や探求心が授業を伸ばしてしまっていますね。非日常がやがて日常に望むのは、非日常のなせるわざではなく、日常を営んでいる自分の気持ちや姿勢がもたらすものなのですね。そのことに気が付かないから日常からの脱走を無邪気にも試みようとするのでしょう。ハレとケ。ハレの舞台は日常の鍛錬あってこそそのものと心得たいものですね。

私のことを “待つ” ではなく “求める” ではなく “求めていく” ではなく “求めて飛び出した、その行く先々で手に入れたものを私の糧としていくこと。そもそも私を待たせてくれているものなんて、ないですね。待つていては何もはじまらな、自分から動いていかなければ身につかないことって、たくさんありますもんね。理屈(?) は分かるけれども、それがなんなのかという具体的なものが分からない私は、まだまだ受け身のままです。でも、先生の 15 回の講義はいつも私の心を常に動かしてくれました。『広場』全 14 冊は全て捨てずにあります。読み返せば、その時、何の話を聞き、私が何を思ったのか、思い出せる自信もあります。大学生になつて、こんなにもすぐに話を聞くことができるなんて、思ってもみませんでした

した。「1 回生の春学期」という時期に、この講義に出会えたことが何よりも嬉しいです。この講義で先生から受け取ったもの、すべてをこの大学生活に活かしていきたいなと思いました。お世話になりました!! (蓮子) → ありがたう。今期は『広場』を冊子体で提供することを思いつきました。そのおかげで印刷のものではあっても一枚ずつパラパラに講義室前方に配置してあった今までは異なり、スムーズに授業を始められることができるようになりました。「パラパラ」だと、それを一枚ずつ手にするのに行列ができしてしまうですね。次期も同じように冊子体の『広場』づくりにしていきたいと思っています。もう一つ、今までの『広場』と異なっ点はボリュームアップしたことと、みなさまの力作を目にする、こちらの都合(気力・体力・電力)だけで掲載本数を決めてはならないと強く思います。最終的に掲載本数を決めたのは「限りのある時間」でしたが、もう少し増やしたいとも思っています。／「期待」という言葉なるべく使わないようにしようと考えています。「期して待つ」、人事を尽くしたあととなら、それもまた可なり、とは思いますが、そうでないのなら、これは戒めるべき姿勢、態度ではないかと思うのです。／教師として、児童・生徒の育ちを「待つ」のは大切なことですが、そのことと、今、ここで話題にしている「待つ」とを一緒にしないでください。／期待ではなく希望を、それがわたくしの願いです。

“終わりなき日常” という言葉が自分にもあてはまる気がしました。今の自分を愛えたい、新しいことに挑戦したい、などといったことを強く思う時もあります。今日の先生のお話で気づけたことは自分を愛えるために他の物に頼るのではなく、自分の中のスキーマにとらわれないことや、子ども社会のルールではなく大人社会のルールに従ってみることで、これだけでも大きな変化があるのだと思います。外側を講師ではなく、内面を充実させ、“終わりなき日常” から抜け出したいと思っています。春学期間、毎回おもしろく、楽しく、色々なことを考えさせられる授業ばかりでした。ありがたうございました。(純) → 見た目を気にするのは多くの人に共通すること。ですが、やがて内面からじみ出るものに勝る「見た目」はないと知るはず。内面から何がじみ出るようになるには、内面を見つめることが不可欠。内面が輝きを外へ放つのを妨げているものは何なのかを知ることも大切。スキーマから解放されることの必要性はこのことにつなげられているのですね。／新しいことに挑戦するのは、とても大切なことです。役割実験だとお心得頂き、モラトリアムのこの時期にこそできることなのだとお考えください。もちろん、新しいことに挑戦すれば必ず自分は変わるのだというスキーマからは自由でいてください。

「答えは自分の中にある」。似たような言葉をかけられたこと、これまでに何回かあります。しかし、これほどの脱力感と重みを持って私の心の中に入ってきたのは初めてです。この講義で知識を得るよりもずっと根本的なことと向き合ってきましたが、単語を覚えたりすることよりもずっと頭を悩ませました。とても 15 回、楽しかったです。良い経験って、机(の前)にただ座って人の話を聞くだけでできるんですね。ありがたうございました。(久遠) → ありがたう。知識の受け渡しをすることに、わたくしは重きを置いていません。でも、知識にだけ着くための姿勢、スタンス、スタイル、方法、アプローチ、そういったことについては、様々なことがヒントになるのだとお伝えしたいと願っております。そのことを「根本的なこと」という次元で捉えていただけたのなら、わたくしとしては、たいそう、嬉しゅうございます。最も「根本的なこと」とは「問いを見つめること」なのだと思っておりますが、それを楽しかったと言って頂

けるのもやはり嬉しいものです。／あなたが「ただ机の前に座って人の話を聞くだけ」だったとは思いません。確かに授業に積極的に参加してくださいました。たとえ、その時、その場で、言葉を口にして発することがなくても、気持ちがおちらに伝わってきました。それはレポートを読めばわかることです。再度、ありがとうございます。

これまでの授業は全て、今日のテーマに至るためのものだったんですね。「子どものルール」と「大人のルール」。教える側がこれを理解していないければ確かに大変なことになるだろうと思います。「教職」という大人のことを学ぶ私達が、実はまだ「子どもと大人のはざま」であることを実感させられました。これほど「目標を持って」「自信を持って」「アイデンティティが…」などと言われることに抵抗感を抱いていた私にとって、この授業は本当にためになりました。「早く、早く」と急かされ続けてきた私達に「ゆっくり、じっくり探しなさい」と言われているように思えました。「教える」というのは、やはり「ひきだす」ものであってほしいと私は思います。全ては自分の中にある、最終的に解決できるのは自分しかないのだと強く思いました。外のものはあくまでも「ヒント」なのだとこのことを心に留めておきます。思えば大卒に来て一番最初の授業がこの授業でした。他の授業とは全く違った形式の授業でしたが、先生はどの先生よりも「ひきだす」ということをしてくださるように思います。「押さえて」教えるよりも、もっと大事で、基本的な（けれど忘れがちな）ものを私たちに伝えてくれたような気がします。そして毎回のレポートの返事や、先生自身の体験談にもずいぶん勇気づけられました。「悩んであたりまえ」ということを理解できて良かったです。まだまだ学生生活にも、自分自身のことにも不安はたくさんあるけれど、この授業で学んだことを忘れずに、自分と向き合いたいと思います。春学期で受けた授業で、この授業が私にとって一番楽しみで、また楽しい授業でした。ありがとうございます。(怜良) →ありがとう。わたくしにとっても励みとなり、支えとなるレポートです。／高校を卒業するまでに、誰もが「問いには必ず最善解が一つある」、そして「問いと答えの間が短いことが善であり、美である」というように思いこまされてしまいます。このことは今までのいくつかがお伝えしたことなのですが、とても大切なことだと思つたので、再度、お伝えすべしとお願いいたします。世の中には答えがないもの、答えが一定ではないもの、そんな問いがうじゃうじゃあります。そういった問題に教科書などで答え込まれた公式のようなスタンスで立ち向かっていたところ、クリエイティブな答えなど得られるはずがありません。そのように考えているので、「ゆっくり・しっかりと」というスタンスがわたくしの中に育まれたのでしょうか。それが伝わったこと、とても嬉しく思います。

今回の教職概説の授業を受けて、春学期の今までの教職概説の授業内容を振り返ることができました。先生のお話はいつも「どう理解すればいいのか？」と考えさせられる授業でした。私は理解しようとするところが好きなので、この授業は本当に楽しかったです。また、教師になるために必要な気持ちや、知っておくべきことを教えてくれて、より一層教師になりたいと思いました。先生のお話は最後の最後までおもしろかったので、この授業を受けて本当によかったと思います。私もいつか先生のような指導者になれるように、今回の教職概説を復習して努力していきたいと思つています。最後に伝えたいこと。感動しました。ありがとうございます。(敏弥) →ありがとう。「復習」していただけたのはたいそう嬉しいこ

とです。そこで大切なことは、あなたが学んだことを「あなたの version」へと転換していくことです。わたくしが授業でお伝えしたことは、言うなれば私にとつての知識・情報・考え・つまり “my version of knowledge” です。このままではあなたにとつては借り物のようなもの。ですから、そこにあなたならではの経験を加味し、あなたならではの表現を工夫してこそ、“your version of knowledge” になるというものの。どうか、その差を忘れないようにしてください。

大学に入学してもうすぐ4ヶ月です。最初にこの講義を受けた時から、何か他の授業とは少し違うと思つています。問題を解く、というよりも考える。ノートを取るというよりは話を聞く。この講義ではたくさん話を学べたと思います。その中でも大きかったのは、違う視点から物事を見るということです。私はいろんな視点から自分をまっすぐ見直すようになりました。自分自身は自分で見ることができません。だから見えないものは心の中で見て考えています。15回は多いようであつたというまででした。先生の友だちの話や体験談はいろんなことを考えさせられました。今、考えると、全て先生の言いたいことを伝えていたんですね。私はあまり気づけませんでした…。教職概説の広場のシステム、とても良かったです。私は外国語学部なので、こんなに人が多い授業はこれ以外に一つしかありません。でも、先生は皆のレポートに目を通し、感想をつけてくれていてすごいです。15回のすてきな講義をありがとうございます。(美波) →こちらこそ、素敵な感想をありがとう。「いろんな視点から自分を見直すようになった」のは、とても素敵なことです。そして、自分自身は自分からは「見えないもの」、最終回の講義の大切なワードとタイミングがなつていきますね。素晴らしい。「広場」、これをシステムと呼んで下さる人は、存外、少ないのですよ。あなたたち受講生とわたくし教師とを取り結ぶシステム。学生が授業に参加しているのだということを実感できるようなシステム。「システム」は、時として無機質なイメージを与える言葉ですが、そうではないのだと、わたくしは自分の実践を振り返って思っています。体力と気力と電力の続く限り、このシステムを継続していくつもりです。「気力」は本人にとつては目に見えないものですけどね。

僕は心のどこかで年が経つようになるようになっていくものだと思つてきました。そして大なり小なりありながらも、いま、こうしていています。しかし、この考え方は自分のことでありながら、どこか他人事に考えているように思えてきました。今回の授業で、毎日あまりにも変化がない日々を過ごすことで、不安な気持ちになつてしまふ若者が、外部の環境を借りて、その日々を変えようとするのを学びました。こういう若者たちも自分のことであるのに、どこか他人事に考えてしまふているのかも知れないですね。そういえば、さまざまなスキーマも誰かから教えてもらったことをただ鵜呑みにしているだけで、自分で考えているのか、疑問に思えてきました。「答えは自分の中にある」というのは、他人に物事を決めてもらうのではなくて、自分でどうしたいかをきちんと考えてくれという先生のメッセージですね。(一樹) →そのとおりです。自分の人生では誰もが主人公だ、ということですね。／時の経過が答えをもたらしにくく、という考えは、例えば会議が長いほど、そこで決定されたことに重みがあるという愚かな考えに通ずるものではないでしょうか。そこにかけた時間の長さで得られる結論の重さとの間には必ずしも比例の関係はありません。短時間で素晴らしいアイデアが得られることがしばしばあります。回数を重ね、時間を費やし、誰でも思いつづけることのできる結論しか得られない会議が山というほどあります。念のため申し添

えておきますが「時が問題を解決してくれるよ」というフレーズとは違う意味で用いております。大切なことを「時間の回数」としてのみ捉えないようにしたいですね。

毎週水曜日が楽しみでした。友だちは週の真ん中で嫌だといいますが、私は教職課程があるおかげで楽めました。毎週、自分で気づけなかったことを学び、その度、新鮮な気持ちになりました。そしてこの授業ではよく救われました。私は色々どうしろめたいことがあって、ややもや先生からエールあります。でも、この15回の授業を通して、その半分以上は解消されました。なにより先生からエールを送ってもらった気分です。私も教師になったら、生徒、学生たちを励ましてあげられるような存在になりたいです。きつと悩める teenagers には、このような存在が必要だと思います。さて、もうこの楽しい時間が終わってしまうと思うとさみしいです。これからの試験、自己採点となりますが、赤点とらないように、むしろ自分で満点とれるように、この授業で学んだことを大切に過ごしていきます。最後になりましたが、楽しい授業をありがとうございます。(溜瀕) →教師のミッションとは何であるか、どうか、そのことをゆっくりいいので、じっくり考えてみてください。ただ知識を授与するだけなら、世の中にはすぐれた参考書があるので、それを使えばいいだけのこと。あるいはそれを使いこなせる教師以外の人に教える講義はいいだけのこと。知識の転移以上の「何か」があるからこそ、そこに「教師」の独自性が存在するのです。どうか、そのことを忘れないようにしてほしいと心より願います。「励ましてあげられるような存在」、あなたのなかには、もうこたえ、もしくはこたえの種子があるようです。大切に育ててみてくださいね。楽しみにしていますよ。

まず先生、とても楽しい授業、本当にありがとうございます。この授業で学んだ事をこれからの人生で時々思い出して、自分で考え、生きていきたいと思っています。今までの15回は「自分の答えは自分の中にあって」という事を伝えるための授業だったんですね。さすが先生です!!私がこの授業を受けた4.5.6月という時期は、実は私にとっても大変な時期でした。「この学校にこのまま行っていくのかな?」「学校変わらないといけないのかな?」。私は「自分が予想していた自分の進路」にすすめなかった事にずっととらわれていました。先生の授業を受けていくにつれて、これでいいのかなと「自分を許せる」ようになってきました。これからはたくさん事に悩むと思います。その度々、大変困るかもしれません。でも、先生が教えてくれた事を胸に留めて、私の事を自分以上に思いやってくれる親や親友、友人、先生方の助言にも耳を傾けながら生きていきます。前前前前に先生にアドバイスをいただいたように、ごゆかを探します。「どうやったらいいか?」「突然会いに行ったらいいか?」…本当は先生にアドバイスをいただきたいです。でも、答えは自分の中にあるんですよ、自分できつと答え見つけます!!「幸せの青い鳥」を自分の中で見つけられるように日々自分と向き合っていきます。最後に、先生ありがとうございます!!「先生お元気でした!&先生お元気で!先生に会えてよかったです! (由莉香) →「自分を許せる」、これはとても大切なことです。多くの人がおそらくは無意識のうちにきわめて禁欲的に自分を許さない、解放しない、そのような状態に我と我が身を置いてるのだと思います。そのために、いつかどこか、ほんの少しの自由で苦しめられていることか。「自分を許す」は「他者を許す」ことに比べて、はるかに勇気のあることです。よくぞ、たどりつきました。/>「ごゆか」さんの件についての答えは、あなたの中にだけあるのではないと思います。あなたと「ごゆか」と、

そしてふたりの縁(えにし)の中にあるのでしょう。すべての問の問の答えが自分の中だけにだけあるというように思いこまないようにしてくださいね。思いこむと、禁欲的になってしまいます。/>参考になるかならないか、それはわかりませんが(なぜならケースバイケースだからです)が、かつて、わたくしの教え子がわたくしの「ちょっとだけ待ってみて」という言葉を聞かなくなったかのように振る舞い、でも、その結果、アパシー状態に陥っていた「友」を救い出しました。彼はひとりではなく、常に複数で、「友」を尋ね、とにかく、閉じこもっているその場所から外へと「友」を引っ張り出しました。臨床的には必ずしも効果的な手法ではないのですが、このケースにおいては教え子の判断、というか、気持ちがいいことだと思います。おそらく彼の友を想う気持ち、友からの彼への有形無形のメッセージ、それをキャッチすることによって、…というように、何が正解なのか、必ずしも定かではない、というのが普通である、ということに十分にわきまえた上で、答えを探るのは、なかなかそこにとどりつけないような気がして、実際にどこかしく思われるでしょうが、そこをこらえる肝が大事。「わたしを探してくれたのね」「わたしを探してくれる人がいる」、あなたの思いが「ごゆか」さんに伝わりますように。

今までの授業を振り返って臨んだ最後の授業は「自分の中に答えがある」という素晴らしい言葉をもたらして終わりました。信じる・信じないと最初から決めつけるのではなく、自分で体験をしながら判断しなければならぬと思います。高学歴だから自分は周りの人々より頭が良いと思う人間ほど、巧みな言葉に惑わされてしまうのではないのでしょうか。自分の中で何が足りないのかという疑問を抱いている人は適切な判断をして真偽を決めるのではないかと僕は思います。この授業で固定概念についての話がたくさんありましたが、なかなか私試できません。しかしあきらめないで努力することが大切だと思うので、これからも頑張っていきたいと思っています。教職課程の授業だから眠くなるような話がたくさんあるのかなあ〜と第一回の授業が始まる前に思っていました。全15回を振り返ると印象に残る素晴らしい授業だったと感じました、ありがとうございます。(良浩) →「信じる・信じない」は、その結果がどうこう、というより、それが二分法であること、つまりこたえが二つしか用意されていないということに問題があるんですね。しかも信じるか信じないかは、その人の主観(哲学・美学等)によるものであり、だから、それは答えというよりは個性に近いものであるのに、それを答えとすり替えてしまうという問題も、そこに付随しています。/>「自分のことを頭が良い」と思う人間は、頭が悪いですね。謙虚さを失ってしまっているアスリートも一流になれないほど謙虚である、その姿を多くの人はメディアを通して知っているはずなのに、それを敷衍することのできないのでしょうかねえ。/>教職課程の授業だから眠くなるような話がたくさんある、というスキーマは、どこで、どのようにしてつくられたのか、卒業するまでにきちんと整理しておいてください。その上で、眠くなるような話がたくさんあるに違いない教職課程の授業を何故履修したのか、折角履修したのに眠くなるような話がたくさんあるでもそれを甘んじて受け入れようとしたのは何故なのか、そのことについても丁寧にいいいにティネイニ考えてください。

“答えは自分の中にある”、とても深い言葉ですね。ペーパーテストはしません、テストは卒業後のあなたが生きて、採点するのはあなたたち自身です。という言葉を聞いて、どうして先生はこうもかっ

こいことをさらっと言えのらうかと思ってしまうました。先生の教職概説をとって本当によかった
と思います。教えるということだけでなく、友だちや日常のトリックなど、得られるものがたくさんあり
ました。最近、自分の大学生生活に疑問を抱いています。サークルにバイトで何してるんだらうなと思っ
ていました。でも、世の中で一番変えやすいものは自分だと思っただけです。周りの人は結局、他人なわけ
で。だから、自分から“学び”、自分を見つめ、将来を見つけていきたいです。そんなやる気を起こしてく
れてあげてくださいました。授業が終わってしまうのがとてもさみしいです。先生の授業が大好きでし
た。(紗映佳) →さらっと言っているつもりはないのですが、そのように受け取られたのだとしたら、とて
も嬉しいです。そのように聞かせるのは、おそらく、当の本人には「かっこいいことを言っている・言
おうとしている」という認識がないからでしょう。／「世の中で一番変えやすいものは自分」、なるほど、
同様に「世の中で一番変えにくいのも自分」、こちらもまた真なり、であります。世の中で一番変
えやすいものは自分、自らそう願うのなら、「世の中で一番変えにくいものは自分、自らそう思いこんで
しまふのなら」、それぞれもう一文添えると、なるほどと胸に落ちる人が多くなるでしょうね。／「周りの
人は他人」、でも、その「他人」もわたくしと同じように「自分」を持った存在、同じように悩んだり、喜
んだりする人間なんだ、と考えるだけで、何かが確実に変わるはずですよ。

全15回の講義、本当にありがとうございました。私がつとっている授業はどれも先生が一方的に話し、板書
したり、レジュメ取りに進むものばかりで(ゼミは別ですが)、正直言っ、かならずつまらないものばかり
です。聞かずに違う授業の課題をしたりしていることが多いです。ですが、この授業は違いました。一番
最初の講義を受けたとき、「この先生めっちゃおもろいやん！」と衝撃を受けました。そして次の授業で「教
職概説の広場」なるものを受け取り、さらに衝撃が！(笑)「こんなままで作ってくれんの?！」と。先生の
授業を受けて感じたことについて、他の人の意見が知れることはとても貴重だと思いました。先生のこの
スタイルずっと続けていって下さいね。最後にもう一度、本当にありがとうございました!!(裕香) →あり
がつとります。「広場」は、おそらくそのように察していただいているとは思いますが、これを作成
するのは、結構、大変なのです。肩凝り、眼精疲労、半端ではありません。脳内血流量が著しく減少して
いること、大げさではなく、体感できるほどです。いつまで続けることができるのか、それは分かりませ
んが、こんなに力強いリクエストがあるのなら、これに応えないわけにはまいりませぬ。力の限り、がむ
ばつてみようとおもいます。

終わりにさよなら日常…さよまよえる良心…言わんとしていた事と同じかもしれないませんが、私なりの若者に対する
考えを書いてみたいと思います。先生は若者が自分を“変える”ためにオウムや震災ボランティアを行う
と言っていますが、私は自分を“確認”したくて若者(特に大学生)はそういう行動を取るのではない
かなと思います。なぜなら大学生は“自由”というものの名の下に“自分”を見いだす事がとても難しい
と思うからです。友だちと話す事、クラブ・サークルに属してみる事。皆、様々な方法で“自分”を確認
しようとしていると思います。自分という字は自らを分けることと書きます。自らを分ける事は難しい事だと
感じるかもしれませんが、“自ら”を分離させて客観的に“自ら”を捉えられるようになった時、若者は一
首の安心感を手に入れる事ができるのではないのでしょうか。それが世間という「アイデンティティの確立」

なのかどうかは分かりませんが…。先生の「外の世界を見て、必ず自分の内に答えるはある」というメッセ
ージは心にずっと残しておきたいと思えます。先生の授業、最初は何も意味を考えず受けていたが、
15回受けてみて、授業の深さに感銘を覚えています。先生の授業で得たものはとても大きいです。ありが
とございました。いつか私もこんな素敵な授業ができるようになりたいです。「広場」、大切にします。
(由利菜) →「自分」の「自」は「独自の自」、「自分」の「分」は「部分」の「分」です。「自」は“i”、
「分」は“me”、それぞれに近いものと考えてみてよめいでしょうね。これが円満に一致してこそその「自
分」(G.H.ミード的には「自己」)です。「自ら」を「分離する」ということではないようですよ。／「自由」
だと何故「自分」を見いだすのが難しいのか、そのことについて深く考えておく必要があります。では、
「自由」がないと、そう、抑圧されていると「自分」を見いだせますか。否、であります。この問い
への答えのヒントになるのはE.H.フロムの『自由からの逃走』だと思えます。佳書です。読み応え十分
です。学生時代でないと読むことができないでしょう。是非お読み下さい。

「答えは自分の中にある」、とても深い言葉だと思いました。15回の講義はこれを伝えるためにあったと
聞き、自分はそれに少しでも気付くことができたのだらうかと疑問に思いました。でも、この授業は他の
授業とは違って、自分のことを考えながら授業を受けることができました。ただ知識を増やすだけではな
い。そんな授業が私は大好きでした。大学生になって初めてのことばかりで、戸惑うことも多いです。大
学は自由だからこそ、自分で自分の進むルールを見つけないといけないかもしれません。私はその進むルールを今見
失っています。何をしたらいいのか、どうすれば毎日がつと充実して楽しいものになるのか分かりませ
ん。でも、今日の授業で「答えは自分の中にある」というのを聞いて、少し解決の光が見えたよな気が
します。外ばかり見るのではなく、自分を見つめ直すのも一つの手なんですね。こんな大切なことに気付
かせていただき、ありがとうございました。先生の授業は楽しくて大好きでした！(真子) →ありがと
ございます。知識を増やすだけでなく、例えば、本を読む、講演会に足を運ぶ、など、いくらでも手段・方
法がありますね。となると、では、授業は何を背骨にするべきなのか、このことについて真摯に考えなけ
ればなりません。あまりに多くの教師が「知識を伝授すること」こそが授業の目的であると思いでん
るのでしよう。この思い込みはかなり強力なものなので、崩すのは一筋縄ではいきません。でも、あなた
のような考えを持った人が一人、二人と、教鞭を執るようになれば、必ず風の流れは変わります。頼みま
したよ。

サンタクロースの話聞いて、自分がサンタクロースからプレゼントをもらっていた頃を思い出しました。
見た事がなくて、絵本でしか見た事がなかったけれど、毎年自分の好きなおもちゃが入った箱が置いてあ
るのを見て、絵本の中の話は本当なんだと信じていました。アンパンマンも同様に存在するものだと思う
て、アンパンを食べないようになっています。ひねくれてしまった今の私では決して思いつかない発想で
すが、心があつたかくなる、思わず笑ってしまうような思い出です。実際、アンパンマンはいませんが(も
しかするといえるかもしれませんが…)、それを信じていた私に「アンパンマンはいない」と否定しなかつた
親の嘘というか、事実を伝えなかつたことには感謝しています。夢をもつことや想像することは楽しいし、
もし小さい頃から現実ばかり教えられていたら、今の私は醒めきつた皮肉人間だったでしょう。親のや

さしい配慮のおかげかもしれませんが、今の私はまだ心のどこかでサンタクロークスを信じています。絵本の中のサンタクロークスはオーレストリアアから来ていました。まだ日本から出たことがないので、世界のどこかにいるんじゃないかと期待しています…。16 回の授業ありがとうございます。ほんとうに楽しかったです。(彩花)→サンタクロークスについては、ハリウッドが夢を大切にしていると思います。毎年のようにサンタクロークスを主題として名作映画が作られていますよね。お薦めをいくつか。『34 丁目の奇跡』(Miracle on 34th Street)、これは 1947 年の作品ですが、1994 年にリメイクされています。ハリウッドはリメイクも上手ですね。『プラザ・サンタ』(Fred Claus) は 2007 年の作品。見所満載です。『サンタクロークス』(The Santa Clause) は 1994 年のディズニ作品。『ポーラー・エクスプレス』(The Polar Express) は 2004 年の作品。いずれも間違いないくらいだと思います。／我が家の息子たちは、アンパンマンが愛在している、というよりは、自分がアンパンマンになれるんだと思います。我が家にはおもちやで、パパア、どうしてボク、空を飛ばないの」と真剣な表情で質問をします。我が家にはおもちやのマントがあるので、「マントがないからだよ」とは言えず、現時点では「もうすこし練習が必要なんだよ」と伝えているところです。

私は保育園に通っていたとき、サンタクロークスは本当にいると信じていました。絵本で見るサンタさんは目が青いのに、どうして保育園のクリスマス・パーティーに来るサンタさんは細長く目が黒いんだらうと真剣に考えていた時期もありました。それでもやはりサンタクロークスの存在を信じ続けていました。私はサンタクロークスはいたほうがいいと思います。子どもに夢を与えるだけでなく、考える力を身につけさせたり、あるいは子どもの考え(「サンタはいるよ、うそは絶対に言うてはいけない)から大人の考え(「サンタはいない(けれど、子どもにはいると伝えよう)」、うそにはついはいいいいものと悪いものがある)に移るきっかけになりたりするからです。「サンタクロークスがいると思えばいいし、いないと思えばいい)、まさに「答えは自分の中にある」ということだと思えます。答えを探す過程や答えそのものを誰かに頼るのではなく、なにか変えたいこと(終わりなき日常)があったときには、自分の心に素直になりたいと思います。(葉月)→できることなら、いつでも「自分の心」に素直になってほしいな。そう願います。／さて、話が変わります。郵便番号だけでサンタクロークスを数学とハイファンに見立てたものです。本当にフィンランドに届きますよ。こういった配慮ある遊びはよいと思うのですが、公認のサンタが日本にもいます、というのは、なんだか夢が感じられなくて、わたくし個人としては好ましく思いません。いかがでしょうか。

先生、とても素敵な講義ありがとうございます。先生の話は本当に、将来、自分のためになると思います。ふとした瞬間に、「そういえば、三浦先生、こんなこと教えてくれたな」と思い返すと思います。そして今先生が話した「本当」と「嘘」。大人の世界ではやはり言うてはいけないとき、本当がいつも正しいことではない、言っていない本当とダメな本当がありますね。でも私はつい最近うそをつかれて傷ついたことがあります。私はうそをついて守られるより、本当のことを聞いて傷ついた方がいいと思っています。もちろん、これには正しい答えなどないと思います。人それぞれでしょう。しかし、しつかりうそをついてしまう理由、その場の正しい判断力は必要ですね。あと、私もよく終わりなき日常がいいやになるときが

あります。脱出したいと思ってもなかなかむずかしいです。そういう時は海外に住んでいるお姉ちゃんに話して相談します。そしたらなぜかややる気が出たり、気持ち少し変わってモヤモヤした気持ちがなくなります。先生、本当にありがとうございます。またいつか先生のお話が聞けるといいなと思っています。

(小月)→傷つかない方がいいに決まっていますよ。傷ついてもそれでいいのだと考えるのは、それが「ほんとうのことだから」と納得することができ(自分がいる)というスキーマあるいは防衛が働いているということにすぎません。正しき事実認識は「傷ついた」ということです。それを別の「何か」に置き換えることには、「知恵」の側面もありますけれど、「心の安寧」からの距離が速くなるばかりです。私はそう思います。嘘をつかれて、その時、傷つかなかったけれど、後日、嘘と知って傷つくこと、これも「傷つく」ことです。傷つけず、傷つかず。どうして、人はその方向を目指さないのでしょね。／「終わりなき日常」からの脱出は、毎日と同じ事の繰り返しではないと気付くこと、これが大事。普通に考えてみれば、昨日と同じ今日、今日と同じ明日なんか、あるはずもない。なのに、来る日も来る日も同じことの繰り返しと感じてしまう。日記をつけると、昨日とは違う何かを発見して、それを綴る。これは一つのきっかけになるのではないかしら。日記をつけましょう。どこにもあるような日記ではなく、ここにしかないような日記をつけましょう。「日記とは…」というスキーマから自由になれば、こんなに楽しい営みはありませんよ。

僕は正直サンタクロークスを信じていませんでした。いるはずのない人をなぜ存在すると言うのか、それが理解できなかったからでしょう。小学校で討論をした時も「そんな幼稚だ」と言った覚えがあります。そのことが今では幼稚だと感じました。サンタクロークスはいると親が言うのは、子どもの成長、幸せを願っているためで、それは「うそ」ではなく真実になると、今日、改めて分かった気がします。僕自身、ほんとう＝よい、うそ＝悪いといったスキーマにずっと縛られていると思います。だからサンタクロークスがいるといったうそ(今ではうそとは思いませんが)を許せなかったんだと思います。「うそ」に二つの種類があるのは知っていました。しかし、「ほんとう」に多くの種類があるのは知りませんでした。先生の例があったために、言うてはならないほんとうのこともわかることができました。もし教壇に立った時は、ほんとう＝良い、うそ＝悪いといったスキーマを生徒達に伝えるのではなく、TPOによって使い分けたいといかないと、先生が私たちにしてくれたように、私も例を用いて伝えていきたいなと思いました。大學生となって 3 ヶ月が経ち、毎日楽しいのですが、いつかは大学に行くことも辛くなり、毎日同じ様な生活をしてあげることがあるかと思えます(実際に高校でもそうだったのです)。自分では宗教の勧誘には強い方だと思います。しかし、そんな人が実際に引っかけたりしていると思う時は、他人事では済まされなくなくなりました。今の生活から脱出したいと思った時に、外に求めるのではなく、自分を見つめ直すように…。先生の最後に話してくれた言葉を胸に留めて、今後の学校生活を送っていこうと思います。(敏明)→小学校でサンタクロークスについて討論?担任の教諭は何を考えているのでしょうか。悪かき 120%! いや、つきぬけて 1200%! 「そんな幼稚だ」と言ったあなたが悪いではありません。何の足しにもならない討論会を企画した担任が悪いのです。ね。あなたの中に悪きスキーマが作られることを殊更強調するかのような企画。そこに教育的配慮という大義名分が入り込むから、問題はなお深くややくしくなりま

小学生にサンタクロースについての討論をさせる教諭がいて、その実践を知ってもそれをとがめない同僚教師がいる、ということは、しっかりと覚えておいてください。あなたが、あなたらしい実践をあなたらしくするにあたって、そういう人たちが必ず妨害をしますから。

まさか前回の授業と今回の授業が前編・後編になっているとは思いませんでした。今、大学に来ているのは自分を発見するためだと思っています。しかし、それは間違いで、その答えが大学にあるのではなく、自分の中にあるということが確認できました。けど、だからといって大学で様々な行動を控えるのではなく、多くのことを体験し、自分の中にある答を明確にしていかなければならぬなと思いました。昔、小さい頃、サンタクロースが我が家に来て、自分が頼んだものと、もう一つのものを与えてくれました。もう一つのもは玄関に落ちていて、その頃の自分にとってはサンタクロースが落ちてしまったものだと思っていました。強く信じました。強く信じすぎ、そのおもちやを次の人に届けるためのものだと思ひ込み、申し歌なく使っていたことを思い出しました。今になって、私は前回の授業で目に見えないものを信じるということを実感しました。それは小さい頃にあったもので、今までは目の前のもの（例えば受験とか部活動）に追われすぎて忘れていたものです。最後に15回の授業がありとうございました。1回だけサークルの試合で行けなかったんですけど、自分の中の何かが変わったような気がします。来年入ってくる先輩に、教師になる気がなくても、人それぞれですけど、何か身につく授業だと思つので、是非動きたいと思つました。(渉平)→授業とは毎回読み切りのカタチでおこなわれるものだ、そのようなスキーマがあるのでしよう。実際には、「この続きは次回の授業で」と予告されることは珍しいことではないので、みなさんは前編・後編型の授業を体験したことはありますよね。わたくしが「この続きは次回で」と申し上げなかつただけで、続編あることに思いが及ばなかつたら、スキーマの力がとても強いということでしょう。／もう一つのプレゼン트가玄関に落ちていた、そのようなシチュエーションを演出されたあなたのご両親はとてもステキですね。今後の参考にしたいと思つます。

“答は自分の中に必ずある”、そのメッセージ、しっかりと受け取りました。いつの日かの授業で、広い視野で世界を見ることが大切ということを生徒から学びました。何かにつづつあったとき、悩んだ時、広い視野で街を歩けば、それだけでたくさんアドバイスが得られるようになりました。そしているんな人の言葉や、今までの経験から、ぶつかった障害物は悩みを乗り越えるための答を見つづけるのです。じっくり考え、自分が出した答は非常に柔軟で、たとえ少し当てが外れても、すぐに対応できる答に変化していく。そういえば変わるという大切さも、この授業で再確認させられたワードの一つでした。常に自分への質問を繰り返し、その答を考えながら前に進む。これはいわば悩み込む（落ち込む…？）のを未然に防ぐ予防のようなものですね。悩んでいる時間がもつたいたくない、という言葉には、常に何かの質問に対する答を導き出しながら前に進むことで悩む時間が少なくてすむんだよ！というメッセージが隠されているのではないのでしょうか…。例に挙げたオウム真理教の話も、一人が恐くて誰かが（ここではオウムが）教えてくれた答えを自分の答として信じてことで、今までの孤独感や負担が軽くなった気がしたのでしよう…。そんな弱い人の心をあんな事件を起こすまでに操作したオウム自身もすごく心の弱い人なのでしょう。心が小さくなって弱くなってしまふことは誰にでもあります。そんな心を守るための経験や自信、仲間、

答えがこれから生きていくうえで必要なんですね。(悠希)→「広い視野で街を歩けば、それだけでたくさんアドバイスが得られる」、とても素晴らしい！そういうこと、あなたはどこで入手するのですか、ということをお問われることがよくあります。わたくしは、その辺に落ちている、とか、空から降ってくる、と答えることにしています。あなたもそんな返しができるようになったのですね。それはとても楽しいことです。／「悩んでいる時間がもつたいたくない」という言葉の中で使われている「悩」は、ゲーテの言葉に登場する「悩」とは違う意味を持っていますね。「時間がもつたいたくない」のは悩んでいるだけで何もしていない、ということに焦点を合わせた表現、ゲーテの言葉は悩むのは既に動き始めているからだ、ということに重きを置いた表現。この連いは認識しておきましょう。つまり、正しく悩むことが大切だ、ということですね。／心が小さく、弱くなる、のは、「大きく、強い」というフェーズがあること。小さく、弱くなったときに、大きく、強かったころ（のあり方）を思い出すことができれば、きっと乗り越えられるはず。さあ、ではどうすればよいのでしょうか。考えてみましょう。

今日が最後の授業というのは本当にさびしいです。ですが、これほどさびしいと感じられる授業、先生に出会えたことは幸せなことだと感じました。最初は前回の授業についてみんなの感想を見ることができましたが、本当に様々な意見の人がいることに驚いたと同時に、そういつた自分とは違つた考え、思考を知ることができて楽しかつたです。あと、サンタクロースの話は印象的でした。我が家では、いまだにサンタクロースが誰なのか、表だって言う人がおらず、クリスマスの日にはクリスマスツリーの下にプレゼントが置いてあるという一種の行事がまだ続いています。それは母親が私達子どものわくわくする気持ちを考えてくれたりしているからなのかなと思います。こういった見方で考えたことがなかつたので、そう考えると心がほっこりした、あたたかい気持ちになりました。自分に子どもができれば、私もやっぱりできるだけ長い間、子どもに夢を与え続けたいなと思つました。そして、最後の先生からのメッセージ「答を安易に外に求めるな。答は自分の中にある」についてですが、とても考えさせられました。というのも、私は今の自分が嫌いで、今の現状を変えたいと願つていたから。先生には前回は話しましたが、私の場合、家庭環境が複雑です。今まで何度も家から出たり、何かを変えたいと思つてきました。ですが、結局、できずに、何かある度に家族のせいになり、言い訳してしまうというダメ人間になってしまいました。そんな私も現在周りからの影響もあり、本格的に自分を変えたいため留学を考え出したところですが、ですが、今日の先生の話を聞いて、これは先生の言う、外に答を求めたいだけなのだろうかと思えてきました。まだ留学を決心するまで時間があつたので、もう少し自分のことについて考えていこうと思います。もし行くにしろ、ちゃんと外で何かをつかんで戻つてきたいと思つています。先生の話で、いろいろと自分に対して考え直すことができました。15回、今までありがとうございました。PS.私もみなさんのように、毎年、この講義受けにきます(笑)。その時はまたよろしくお願ひします。(A.M.)→既にお気づきだとは思いますが、「留学」が人の何かを変えるものではありません。確かに環境が大きく変わるので、その中にいる自分までもが変化したように思うことがあるかもしれませんが、気持ちの中に明確な目標がなければ、やがて日本にいた時と同じ自分が顔を出すようになります。とはいえ、留学先で素晴らしい出会いがあり、友人に恵まれると、それは乗り越えられるんですけど。何のために、何処に留学するのか、それをじっくり考え、仮のものでもそのことさえ用意することができれば、それは既に変化に向か

っての一步が刻まれたということになるのだと思います。誰もが経験できることではありませんから、是非ともゆたかなものにしてほしいと願います。来年、またお会いしましょう。後ろから数えて二回目の授業。

クリスマスの話、とても感動しました。私の頼も“サンタクロースはいるんだよ”って言う観でした。なんで嘘つくの？って思っていました。私も親になったら良い嘘をつきたいと思います。“終わらなき日常”“さまよえる良心”で、多くの人がボランティアや宗教に流れていくことを聞き、自分もボランティアをしたことふと思っしてしまいました。しかし最後まで聞くにつれて、外にあるのではなく、自分の中にありたいと思っしていきたいと思いました。これからも一日一日を大切に、いろんなことに積極的に挑戦して、自分の中にある答を見つけたらいいと思います。15 回全ての授業で先生にはほとんどいろんなことを教わりました。この週に一回の授業で先生の話の話を聞いていただけでは自分も変わることにはできないという事は分かっています。私は昔から大人の顔色ばかりをうかがって生きてきました。だからかは分かれません。友だちが今、悩んでいるとか、辛いのかどうか考える？感じる？のが得意です。今いじめがたくさんある世の中で、先生はいじめに気がつかなくなったということと言っている報道をよく見ます。それは絶対に嘘だと思っし、もし本当にわからないのであれば先生をやめるべきだと思います。私は将来、自分のことだけでなく、周りにも気を配ることができるような大人になりたいとずっと思っしてました。この教職概説で、いろんな人の考え、感じ方を知れて、私のなりたい自分にならず近づけたような気がします。これからのがんばっていきます。ありがとうございます。(梓) →「聞く」と「見る」では大違い。「知っている」と「行動に移せる」とでも大違い。どうか大切だと思うことを言葉だけでなく、行動で示すことができるようになっしていきたいね。ノイじめの存在に気がつかなくなったという教師は自分のミッションを放棄したと言っしているのと同じだということに気がつかない愚かな人間ですね。そんな教師が教職を執ることを許すシステムが問題だと思っします。教員採用試験のあり方もさることながら、大目における教員養成こそが危機的な状況にあるのだと認識する必要があります。けれども教職課程科目担当者の中には教材研究を徹底することが教員養成であると思っしている人も少なくありません。教師が問題を起こした時、大学（の教師、教員養成の在り方）も批判を受けべきだと思っします。

今回の授業はたくさんを教えて頂きました。まず、前回の授業からのサンタクロースの贈り物についてですが、私がサンタはいいないという事実を知ったのは、もうかなり大きくなってからでした。周りが「サンタなんていないんだよ」と言っしても、私は「いるの!!」という一点張り。本当はうすうす気付いていたけれど、それを認める勇気がありませんでした。何年前のクリスマス、弟が大きくなり、ついに親からカメラアウトがありました。私はそしらぬ顔をしていましたが、ついにかあ…と思っのと、まだちょっとそんなにすっと思ったくない、今までうそをついてきてきたとせいにう気持ちもありました。まだまだ子どもでした。でも今回のお話で、なんだか気持ちに整理がつかきました。私も親になる時が来たら、子どもにサンタはいるということ伝え、そしていつか大きくなったら、ちゃんと勇気をもって本当のことを話したいと思っします、私の中に芽生えていた子どもルール（二分法）を今日の授業ではらうことができました。これからは言っはいいないほんとうをちゃんとわかま、え、行動できる大人になりたいです。

そして先生の教えて下さった「自分の中に答はある！」という言葉を胸に刻み、ちよっと今から外の世界で自分を成長させてきます！三浦先生！本当にためになる授業をありがとうございます！楽しかったです。先生に学んだことを忘れずに頑張っっていい教師になりたいと思っします！（絵梨奈）→サンタクロースがないということ認めるのが勇気なのか、いないということ子どもにも知らせることが勇気なのか、それともサンタクロースはいるんだよという嘘をつき続けるのが勇気なのか、それはその人が「勇気」をどのように捉え、どのような意味や価値を与えているのかということによるのでしょうか。わたたくしは幼少の頃に配慮の足りない父親によってサンタクロースが人工物であることを知っしてしまいました（翌日の幼稚園のパーティーに登場するサンタクロースの衣装を我が家で子どもに披露するとい…）、わたたくしは子どもにはサンタクロースがいるということを言い続けるつもりでいます。目に見えないサンタクロースをあなたたちに見えるようにするの、サンタさんから頼まれたパパやママの仕事をちゃんと付け加えて。

今日、最後に先生が「この最後の授業のために 15 回分の授業を計画した」とおっしゃっていたように、今日の授業には、今まで教わってきたことすべてが詰まった授業でした。最初のリストラの話では、子ども社会のルールと大人社会のルールの違いや、一つの角度からしか物事を判断しない（スキーマ）のことについて触れられたと思っしました。また、最後の話では、若者が抱える悩みをとても理解し、わかりやすく話してもらえたと思っしました。私の良心は今さまよっています。やっぱり人間はラクな方に流れてしまうので、他人から与えられた自分の役割などに頼っしてしまいます。しかし、今日の話聞いて、私は自分の行動に理由を後付けせず、自分でめいっばい悩んでから行動しようと思っしました。前回の授業では、先生が何を伝えなかったのかは分かりませんが、今日の話聞いて、実体（理由）はないけれども不思議と思っし信じられるもの（直感）を信じて行動してみること大切だと思っしました。大学卒業したあと、自分の人生に“勇”をつけられるよう、授業で教わったことを和すれずがんばりたいです。とてもステキな授業、ありがとうございます。(円加) →「不思議」を信じるためには、邪悪な嘘を見破るだけの力が備わっていないければなりません。それが身についていければ、恣意的な不思議も、わざわざ目くじらを立ててそこに作為があると思っすることなく笑って見ていられるようになります。それは同時に作為のない不思議をそのまま受容する心を育むことにもつながります。不思議、不可思議とは、もともとは思っするべからずということですからね。ノ水が低きに流れるように人も悪きに、あるいは善な方へと流れる、ということを知っているだけで、その流れを止めることができますと思っしますよ。

今までの講義は今日の最後のメッセージのためにあったのですね。すべて独立した話だと思っしていました。「教育・教師・教える」という事につながっっていると思っしていたけれど、こんなにキレイにつながっっていると思っしていませんでした。「地下鉄サリン事件」がどんなに悲惨な事件であったのか、よく知らなかったのですが（最近捕まった高橋容疑者とか、数年前にオウムに死刑判決がくだされたことなどのニュースでしか知らなくて、詳しくは知らなかった）若い人がオウム真理教を信じていたのですか。うさんくさそうな事は誰も信じないだろうと思っしていましたが、先生が話してくださったように偶然を装っして近づいてこれられ、親密な関係になっしてしまっしたとしたら、確かに引き込まれてしまっしちゃうかもしれません。話は少し変わりますが、ついでもいい「良いうそ」があったり、本当のことだけだと表に出さない方がいい「知

らなくていいほうとう」があったりするの、中学1年の頃になんとなく自分で学びました。友人を励ましたために何の確証もないのに「次は大丈夫だよ」とか言ったりしました。思っている事や知っていることをズバズバ言って痛い目（精神的にですが）にあったりもしました。こういう実際にあった事から人は学んでいくのかなと思います。先生が例に挙げた、3回リストラされた人も、その経験から「ほんとうの事だから」といつても何でもかんでも言っはいけない」という事を学んでほしいなと思います。「いつもと変わらない終わりの日常」を終わらせるものは、必ずしも外の他の世界とかにあるのではなく、今まで経験しなかった事を学びに行っ帰ってきた時に、それはあるのだと思います。(喬子)→地下鉄サリン事件を知り鳥の話と同じになってしまいました。本当にそうだなと思います。犯人が増えているということとを一方で仕方がないことだと思いつながら、他方では遺憾に思う自分がいいます。犯罪史上希有なほど残忍なこの事件を風化させてはいけないと思うのですが、語り部がいけない、ということなのでしょうか。あわせて「宗教」観の見直しというか、宗教教育に相当するものが必要だと思ひます。「宗教」とは神の存在を信じる云々の問題ではなく、行動の規範、良心の問題なのです。山本七平氏が「あたりまえの研究」の中で触れていたことなのですが、欧米人は日本人が宗教を持たないという点と実に怪訝な顔をするのだそうです。なにがしかの言動に先立って、この行動を取ってよいものか、言葉と裏に怪訝な顔をするのかということとを欧米人は「神」に相談するということ表現を用いて説明するが、それはすなわち行動規範、良心のことなのだ、概ね、そのような内容でした。日本人が宗教を持たないとは、これすなわち良心を持たない、行動倫理・規範を有さないということと同義なのです。倫理・規範という確たる観点があれは紛い物の宗教は淘汰されるのでありましよう。そんなことを思い出しました。／あなたならでは「青い鳥」のお話を綴ってくださいね。

アクティブラーニング型授業の実践例、その成果と課題

ラーニング・コモنزの活用について

基盤教育センター 若園雄志郎

はじめに

- ラーニング・コモنزは本年4月設置、現在約6ヶ月経過
- 主体的な課題発見・解決へ向けた話し合い学習
 - ↓
- リベラルアーツの充実・ジェネリックスキルの養成
- 本報告ではラーニング・コモنزの現状を述べ、今後の課題について提起する

1. ラーニング・コモنزの現状 1) 環境整備



付箋・模造紙・マーカーなど



移動式ホワイトボード

1. ラーニング・コモنزの現状 1) 環境整備



常設PC(10台)



テーブル・いす

1. ラーニング・コモنزの現状 2) 活用状況

- 利用人数: 延べ約3750名(8/1-9/11)
- 1日あたり約100名の利用
- 24時間開室(スタッフ在室は原則的に平日10時~17時)
- 利用形態:
 - a) アクティブ・ラーニング科目およびその他授業での利用
 - b) 学生による自主的な話し合い学習
 - c) その他


1. ラーニング・コモنزの現状 2) 活用状況

- a) アクティブ・ラーニング科目およびその他授業での利用
 - 平成25年度開講のアクティブ・ラーニング科目: 19科目(前期10科目・後期9科目)
 - 前期の利用:
 - 「教育の裏側に光を当てる」
 - 「生涯学習社会論」
 - 「対人コミュニケーション論」
 - 「国際森林科学論」
 - 「上級英語会話」
 - ゼミ

1. ラーニング・コモنزの現状
2) 活用状況

a) アクティブ・ラーニング科目およびその他授業での利用

例) 「教育の裏側に光を当てる」




①導入...今回のテーマ説明
②グループ内で模造紙に想定される答えを各自書き込み
③グループ内で書き込んだ内容について各自発表・解説

④テーマに関連したビデオ視聴
⑤④を踏まえてグループ内で再度ディスカッション
⑥事前配布資料を読み、文中トピックについてテーマと関連が深いといえるものをピックアップ

1. ラーニング・コモنزの現状
2) 活用状況

a) アクティブ・ラーニング科目およびその他授業での利用

例) 「教育の裏側に光を当てる」




⑦模造紙にテーマに対してのグループ内の答えを3つ書き込み、グループごとに発表
⑧教員からのコメント

1. ラーニング・コモنزの現状
2) 活用状況

a) アクティブ・ラーニング科目およびその他授業での利用

例) 「生涯学習社会論」




レポートをまとめるための話し合いのツールとして、ホワイトボードや模造紙・付箋を活用

1. ラーニング・コモنزの現状
2) 活用状況

b) 学生による自主的な話し合い学習

例) 自主グループおよびサークルによる利用



授業での課題のまとめやサークルの話し合いワークショップの開催

1. ラーニング・コモنزの現状
3) ラーニング・コモنزにおける学習の意義

- 学生個々人が自由に意見を述べるができる環境
 - 開放的で明るい雰囲気
 - 何気ない意見も記録できる道具類
 - 少人数グループの形成
- 主体的な参加や自由な意見の出し合い、さらには創造的な意見の提起
- 意見の表明や合意の形成などといったジェネリックスキルの涵養

1. ラーニング・コモنزの現状
3) ラーニング・コモنزにおける学習の意義

例) 24時間開室の効果



日中に他の授業や実習がある学生に対しても話し合える場を常に提供

1. ラーニング・コモンズの現状
4) 利用促進・広報

- ラーニング・コモンズの概要に関するパンフレット作成、全学配布
- ウェブページの作成・公開
- カットティングシート貼付および看板の掲出による利用促進
- ニュースレターの発行(9月末)

1. ラーニング・コモンズの現状
4) 利用促進・広報

- ラーニング・コモンズ内にアクティブ・ラーニング科目およびその他授業や学生の話し合いを通じての学習成果の掲示



1. ラーニング・コモンズの現状
4) 利用促進・広報

- ラーニング・コモンズ主催による30分セミナー、カフェ・コモンズの開催



2. ラーニング・コモンズの今後の課題

- 利用の拡大
→教育・農・工学部の学生に対してもさらに利用を呼びかけていく必要
- 主催事業の充実
→話し合い学習の場を設定
- アクティブ・ラーニングの定義
→アクティブ・ラーニング科目担当者やアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行っている教員を交えて話し合う必要

ありがとうございました

pontono@cc
<http://lgec.utsunomiya-u.ac.jp/lc/index.html>

アクティブラーニング型 授業の実践例

—教育実践科目を支える体制—

宇都宮大学教育学部 教育実践推進室
副室長 南 伸昌

内容

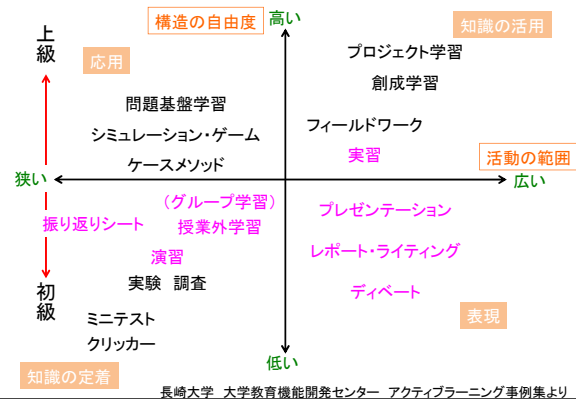
- ・アクティブラーニングの実質化に向けて
- ・ポートフォリオを活用した学習形態
- ・教育実践科目の流れ
- ・教育実践科目におけるアクティブラーニングと指導体制
事例1:教職入門 / 事例2:教育実習 I
- ・アクティブラーニングの成果
- ・これからの課題

アクティブラーニング

(文部科学省 用語集 p3, 4, 9)

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

アクティブラーニングのいろいろな形態



アクティブラーニングの実質化

7つの原則 (Chickering & Gamson, 1987)

- 1 教員と学生のコンタクト
- 2 学生間の協働
- 3 能動的な学習
- 4 迅速なフィードバック
- 5 学習時間の確保
- 6 学生への高い期待
- 7 多様な才能と学習方法の尊重

形成的評価

組織的な指導体制

1 教員と学生のコンタクト

- ・できるだけ学生の顔と名前を覚える
- ・授業への感想や意見を聞いて対応する
- ・学習状況をモニターし必要な支援をする

2 学生間の協働

- ・難しい概念を学生間で説明させる
- ・協力して課題に取り組ませる
- ・グループワークの振り返りをさせる

3 能動的な学習

- ・クリッカーを活用して学生に考えさせる
- ・学生が誤って発表する機会をつくる
- ・学んだ内容を演習させる

4 迅速なフィードバック

- ・単元毎に小テストを行いフィードバックする
- ・提出物にはコメントを付けて返還通知する
- ・試験終了後すぐに答え合わせと必要復習を行う

5 学習時間の確保

- ・毎回の予復習課題を明示する
- ・遅刻や欠席の際の補充課題を出す
- ・時間管理の仕方を教える

6 学生への高い期待

- ・授業に真剣に取り組むよう励ます
- ・提出物が不十分であれば出し直させる
- ・意欲的な学生には発展的な課題を出す

7 多様な才能と学習方法の尊重

- ・授業に多様な学習活動を含める
- ・学生の長所を捉えて学習促進に活かす
- ・話す、書く、読めるなど多様な評価対象を含める

図3 「7つの原則」(Chickering & Gamson, 1987) とそれぞれの工夫例

長崎大学 大学教育機能開発センター アクティブラーニング事例集より

教育評価

形成的評価

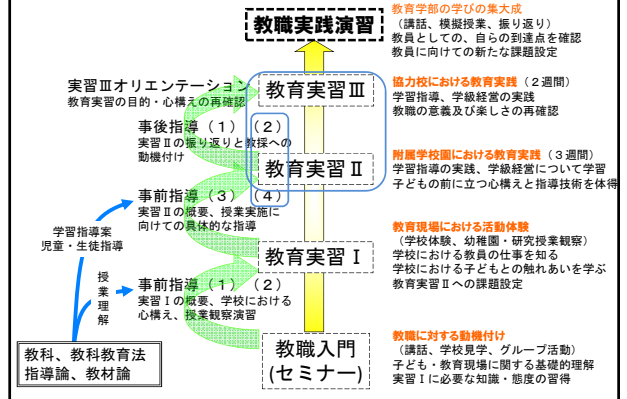
学習指導の途中において実施し、それまでの指導内容を学習者がどの程度理解したかを評価する。教師はこの情報を元に指導の計画を変更したり、理解の足りない部分について、あるいは理解の足りない学習者に対して補完的な指導を行う。

総括的評価

学習指導の終了後に行い、学習者が最終的にどの程度の学力を身に付けたかを評価する。成績をつけるのに使用するほか、教師が自らの指導を省みる材料としても用いることができる。

Wikipedia「教育評価」より

教育実践科目の流れ



ポートフォリオを活用した学習形態

使命感・責任感・教育的愛情
社会性・対人関係能力

活動ごとに、「教師が身に付けるべき4観点」に沿った到達目標を設定。

幼児児童生徒理解
教科等の指導力

活動前に、活動ごとの課題を各自で設定

活動中は、教育実践ノートに学んだことを記録

活動後に、ノートに基づき達成度を振り返り、自己評価

グループ バズ・セッション

6名程度のグループによる話し合い
→ 内容を発表し、全体で共有

教育実践科目担当体制

教育実践推進室

室長、副室長
ポートフォリオ担当

1年次担当(2名)	1年次指導教員(12名) 総合人間2年次指導教員(1名)
2年次担当(2名)	実習校担当教員(28名) 2年次指導教員(12名)
3年次担当(2名)	3年次指導教員(12名)
4年次担当(2名)	実習校担当教員(のべ106名) 4年次指導教員(12名)

事例1: 教職入門

講話(5回): 附属学校園教諭等による教育現場のお話し

↓ 各回の後半に、その時間に学んだことを振り返る

全体活動1: 講話の振り返り、学校見学の課題設定

↓ 講話全体を振り返り、学んだことをグループ内で共有

学校見学(2回): 公立小と附属小/中での活動体験

↓ 体験した内容を振り返り、グループ内で共有

グループ活動(3回): 「目指す教師像」を話し合いから見出す

↓ 学校見学の振り返り・評価・共有

↓ 今までの活動や文献からの学びをまとめ、共有

全体活動2: グループごとに見出した「教師像」を発表し共有

↓ 活動全体の振り返りを全体で共有

「教職入門」実施体制

教育実践推進室1年次担当室員(2名)

担当指導教員(13名)

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

1人1グループ(約18名)を担当

事前打合せ会議(2回)

「授業要覧」作成、協力校との日程調整
ポートフォリオの共通理解

講話、学校見学のサポート
グループ活動の指導

評価判定会議

事例2:教育実習Ⅰ 学校体験

協力校における事前打合せ（事前指導（2））
 ↓ 活動内容確認、事前の課題を設定し、共有
 学校現場における活動体験
 ↓ 授業や授業・生徒指導の補助を通じて、学校で活動することに慣れる
 活動全体の振り返り
 協力校ごとに3日間の体験を振り返り、共有

「学校体験」実施体制

教育実践推進室2年次担当室員(2名)
 ↓
 教員養成課程各専攻選出教員(28名)
 ↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓
 各協力校配属学生(4~10名)を指導
 担当者事前説明会
 ↓
 協力校ごとの顔合わせ、連絡手段確立
 ↓
 事前指導(2)
 実習校ごとに課題設定
 ↓
 学校体験

事例3:事前指導(1)

教育実習Ⅰのねらいと活動内容
 ↓ 実習Ⅰの各活動の流れと内容の説明
 ポートフォリオの活用方法
 ↓ ポートフォリオシートを活用した学修の進め方の説明
 教育実習における心構え
 ↓ 服装、身だしなみ、話題、身体的接触
 具体例を示して話し合いにより適否を検討
 授業観察演習(小学2年算数)
 授業(ビデオ)を観察して取った記録を元に、授業の捉え方を話し合いで共有

教育実践推進室(2年次担当2名+α)による複数指導体制

話題に関する配慮

「〇〇中学校、授業中にウロウロしてるヤツ多すぎ。」と、ツイッターでつぶやいた。
 「配属されたクラスに、テレビに出てる〇〇がいたよ!」と、家族に話した。



「身体的接触」の注意

喧嘩の仲裁で子どもたちを引き離したときに、加減を誤り倒してしまった。
 試合で負けて落ち込んでいる子の、肩を抱いて慰めた。



事例4:教育実習Ⅰ 幼稚園観察

幼稚園観察の課題確認
 ↓ 小グループに分かれ、事前の課題を共有
 幼稚園観察
 ↓ 園児の活動や教諭の働きかけを観察・記録
 観察記録用紙作成
 ↓ 観察記録用紙に学んだことをまとめて提出
 観察の振り返り
 観察で学んだことを互いに述べ合い、共有

幼稚園教諭2名と教育実践推進室
 担当者2名による複数指導体制

事例5:事後指導(1)

3年生による教育実習Ⅱの総括
 ↓ 3年生が学校種・学年ごとに教育実習Ⅱで学んだことを発表
 ↓ 2年生による教育実習Ⅰ振り返り
 ↓ グループごとに、教育実習Ⅰで学んだことを紹介
 教育実習Ⅱの課題設定
 3年生の助言を元に、2年生は教育実習Ⅱのビジョンを具体化

各専攻の2、3年次指導教員による複数指導体制
 研究授業観察(ビデオ撮影)、振り返り指導

アクティブラーニングの成果

4年間を通じた学びのフォロー

学習者自身の到達度の理解

過去を踏まえての現状把握

教師としての自覚の芽生え

主体的に取り組む重要性の自覚
教育的愛情の発露

自分の成長を実感
教職志向の高まり

教育実習Ⅰ「学校体験」受講者の感想

- 最初は児童の接し方や話し方など全く分からなかったが、児童のほうから私に質問してくれたり話しかけてくれたりして壁がなくなったような感じがした。しかし、**児童と打ち解けてきた時に最も気を付けたのは児童と友達感覚で話さないようにすることだった。**
- 注意を促すときの加減がよくわからなかった。先生はとても優しく、話しやすい方だったので事前に聞きたいことなどを考えておけば質問ができてもっと深められたのかなと思う。**体験を通して、自分から話しかけないことには関係性は生まれないということを実感した。**

教育実習Ⅱ 修了者の感想(1)

- 教師になる気が最初はなかったのですが、教育実習をしてみて、**とても充実していたし、子どもたちと触れあえて楽しかったので、教師になりたい気持ちが強くなりました。**
- 今までにこんなに精神的、肉体的にも疲れたことはありませんでしたが、**子どもたちが本当に可愛く思うようになりました。**
- 得るものも多い3週間だったと思う。**自分次第でどれだけ充実したものにできるかが決まってくるのだと感じた。**

教育実習Ⅱ 修了者の感想(2)

—教職入門セミナー、教育実習Ⅰを振り返って—

- 現場で、実際に生徒を相手にしないと分からないことがたくさんあることが分かりました。教職入門セミナーの時点では、経験なしでのグループディスカッションでしたが、**経験した今では、より深いディスカッションができそうな気がします。**
- 教職入門セミナーにおける学校見学や実習Ⅰは確かに有意義なものだが、**受講している段階ではそう思えなかった。**今後受講する学生たちに対し、実習Ⅱ・Ⅲ、ひいては実際教壇に立ったときに、その内容が生きてくることを伝え、価値づけをしていってほしい。

これからの課題

アクティブラーニング

手厚い対応

多数の教員による分担 → 共通理解

学生の学びの深化



システムやマニュアルの随時見直し
学部／全学教員の理解とサポート

■ポートフォリオ学習:教職入門	学 部
	専 攻
	学籍番号
	氏 名

中央教育審議会答申・教師が身に付けるべき4つの事項

- ① 使命感や責任感, 教育的愛情 ② 社会性や対人関係能力
③ 幼児児童生徒理解 ④ 教科等の指導力

- 教員免許取得のために、皆さんは4年間で上記①～④の事項を身につけなければなりません。
・ 教職入門は、①講話及び対談 ②学校見学 ③グループ活動(「文献からの学び」と「目指す教師像」)の3つの活動から成り立っています。下の表には各々の活動ごとに①～④の、大学として皆さんがかなえるべき「到達目標」を挙げています。
・ 各々の活動の事前に、到達目標などをもとにして活動に臨む心構えを決めます。①～③各々の活動終了時に振り返りを行い、心構えと到達目標各々に評価の欄 ABC のあてはまるものに○をつけて(A:十分できた B:おおむねできた C:あまりできなかった)自己評価を行います。グループ学習では自己評価に加えて相互評価も行います。振り返りの欄には、その評価の理由として配布資料やノートに書いた事から、思ったこと考えたことをまとめて記入します。

ガイダンス	▼「教師の使命感, 責任感」と「教育的愛情」という言葉について、考えることを記入する。		
	「教師の使命感, 責任感」とは、		
	「教育的愛情」とは、		
▼ 自分がどのようなことに気をつけたり、心掛けたりして講話及び対談に臨むのかを下の①:①～④の到達目標を参考に記入する。			
教員確認	〈課題〉	A・B・C	
活動	答申	到達目標	評価
① 講話 及び 対談	①	・講話及び対談の内容で、教師の使命感, 責任感や教育的愛情の表れと考えることを、ノートに書くことができる。	A・B・C
		・振り返り	
	②	・教師の同僚との協働(協力して仕事を行うこと)や、保護者との協力のあり方がわかり、それをノートに書いて伝え合うことができる。	A・B・C
		・振り返り	
③	・幼, 小, 中, 特別支援学校各々の子どもの振る舞いや、 <u>幼児児童生徒指導の課題</u> をノートに書き、伝え合うことができる。	A・B・C	
	・振り返り		
教員確認	④	・幼, 小, 中, 特別支援学校各々の子どもの、 <u>学習面における発達の違いとその課題</u> をノートに書き、伝え合うことができる。	A・B・C
		・振り返り	
事前	▼ 自分がどのようなことに気をつけたり、心掛けたりして学校見学を行うかを、下の②:①～④の到達目標を参考に記入する。		
教員確認		A・B・C	
② 学校 見学	①	・講話や対談でつかんだ教師の使命感と教育的愛情を意識して子どもに接することができる。	A・B・C
		・振り返り	
	②	・実際に休み時間や授業中の学校現場を見て、教師の仕事を知り、ノートにまとめてグループで話し合うことができる。	A・B・C
		・振り返り	
③	・休み時間など子どもの生活場面における言動に注目して、 <u>児童生徒指導上の課題</u> をノートに書き、話し合うことができる。	A・B・C	
	・振り返り		
教員確認	④	・授業を参観し、講話でわかった子どもの <u>学習面における発達</u> を確かめ、課題をノートにまとめて話し合うことができる。	A・B・C
		・振り返り	

- ③グループ活動はグループごとに示された文献と①、②の活動を振り返って、自分がなりたい教師像を考える活動です。ここでは文献を読んだりグループの人の発表を聞いたりして、自分の教師像に確信が持て、まとめることができたかどうかで評価してください。

文献名		
事前	▶ 自分は「グループ活動からの学び」で、どのようなことを得たいのか、下の③:①～④の到達目標を参考に記入のこと	
教員確認		A・B・C
③ グループ活動からの学び (文献からの学び) (目指す教師像)	①	・文献の中から教師の使命や教育的愛情について書かれたところを読み取り、ノートに書くことができる。 ・振り返り
	②	・文献についてのお互いの発表の良さを認めながら、自分の意見を発表することができる。また、講話や対談、学校見学で得た、教師の様々な仕事や協働、保護者などとの協力の姿を踏まえて、なりたい教師像をまとめることができる。 ・振り返り
	③	・文献や他の発表、講話や対談、学校見学で学んだ <u>児童生徒指導上の課題</u> を踏まえて、なりたい教師像をまとめることができる。 ・振り返り
	④	・文献や他の発表、講話や対談、学校見学で学んだ <u>子どもの学習面における発達や課題</u> を踏まえて、なりたい教師像をまとめることができる。 ・振り返り
教員確認		A・B・C

全体の振り返りと総括評価	〈教職入門全体の振り返り〉	
	〈教育実習 I への課題〉	
教員確認		A・B・C

- 総括評価は教職入門での活動と全ての学びを振り返って評価を行います。教育実習 I への課題を書いて、次年度につなぎましょう。

工学部における アクティブ・ラーニング型授業の実践例

工学部共通専門基礎科目 「創成工学実践」を中心として



工学部附属ものづくり創成工学センター
横田 和隆

- ・ 外圧と内圧
- ・ ブラック・ボックス・マジック
- ・ 学科横断PBL科目「創成工学実践」
- ・ 学生を苦しめる呪縛
- ・ 驚異の100円ショッパ
- ・ 工学的感受性
- ・ 評価
- ・ 課題と展望

■技術者教育認定制度■

日本技術者教育認定機構（JABEE）平成11年～

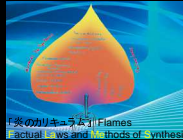
- ・ 高等教育機関で実施されている技術者を育成する教育プログラムが社会の要求水準を満たしているかを国際的な同等性を持つ認定基準に基づいて認定

- ・ 「エンジニアリング・デザイン教育」の重視

日本はエンジニアリング・デザイン教育が弱いのではないか!??

種々の科学・技術・情報を利用して社会の要求を解決するための能力、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力、種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出していく能力

認定
H18 建設学科建設工学コース
H19 機械システム工学科
建設学科建築学コース
H20 応用化学科



■新しい工学教育プログラム■

- ・ 工学教育プログラムに「創成科目※」を核として取り入れること

※一つの解しか存在しない問題に解答させる教育ではなく、一人一人が問題を発見し、知恵と情報を総動員し、新しい自分自身の解を見いだす訓練を通して「自らを創成する」ことを目的とする教育。学生は協同的な環境で学習を進め、「ものづくり」の喜びと、知的成長の充実感を体験。自らの体験を通して、選んだ専門分野への興味を一層確実にする。

- ・ プログラムの「達成度判定」を継続的にを行い、工学教育を常に自律的に改善していくこと。

8大工学部部長懇談会
工学教育プログラム委員会（JEEP）
平成12年

■自己点検評価■

学生の授業評価への取り組みに関する自己評価

- (1) 出席率、受講態度および意欲

- Q1 この授業にどのくらい出席しましたか
Q2 あなたの受講態度は、よかったですか
Q3 あなたは、この科目に意欲的に取り組みましたか

「授業への出席には熱心である様子が伺える。」

- (2) 積極的な取り組み

- Q4 この科目の内容について、自主的に調べたり、予習や復習をしたことがありますか
Q5 講義内容について、質問や発言をしましたか、あるいはしたいと思いましたが

「学生の能動的な対応が乏しいことが、確認された。」

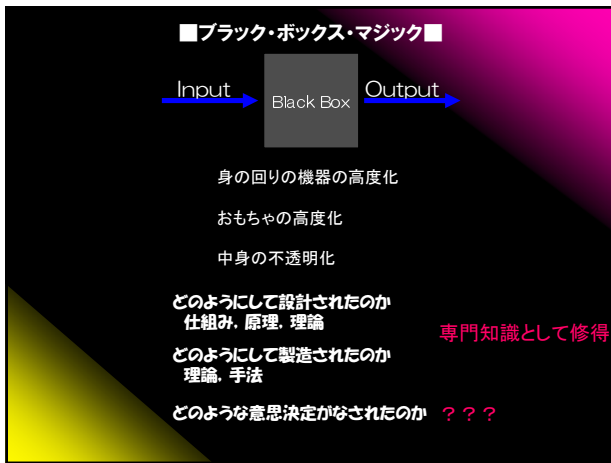
「学生による授業評価」報告書
平成11年3月 宇都宮大学工学部

■外部評価■

- ・ 「協調性」と「独創性」を教育理念に挙げているが、これらを学生に育むためには、具体的に指導方針をつくる必要がある。

- ・ 机に向かい頭だけを使うのではなく、「ものづくりの楽しさ」が分かる学生を育ててほしい。

宇都宮大学工学部 外部評価報告書
平成11年3月 宇都宮大学工学部

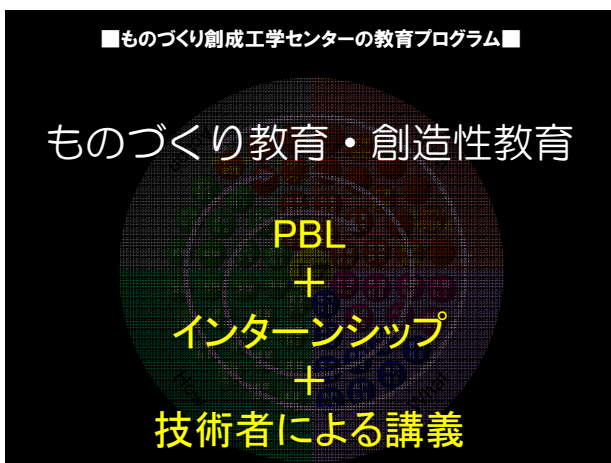


- ### ■ものづくり教育・創造性教育の充実に向けて■
- 工学の原点は「ものを創る喜びを享受する」ことにある
 - ものづくりを知らない、本物を知らない若者が育っている
 - 「授業に能動的に参加する意欲が乏しい」
 - 大学・企業現場で創造性・独創性の欠如が叫ばれている

■工学部附属ものづくり創成工学センター■

平成14年4月設立

- 創成工学教育: 創成工学教育プログラムの開発と実践**
ものづくり感性の涵養をモットーに、自主性と創造性を発現するため教育プログラムを研究開発する。
- 技術研究: 技能の技術化とものづくりシステムの創出**
21世紀に必要とされる「ものづくりシステムの創出」などの技術研究に取組む。
- 教育・研究支援: 先端の実験装置などの試作支援**
世界をリードするような研究成果の達成を支援する。
- 地域貢献**
地域社会に学び、連携し、貢献する活動を積極的に展開する。

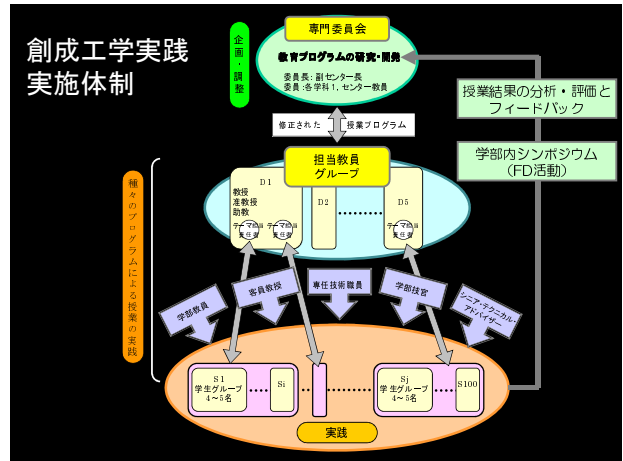
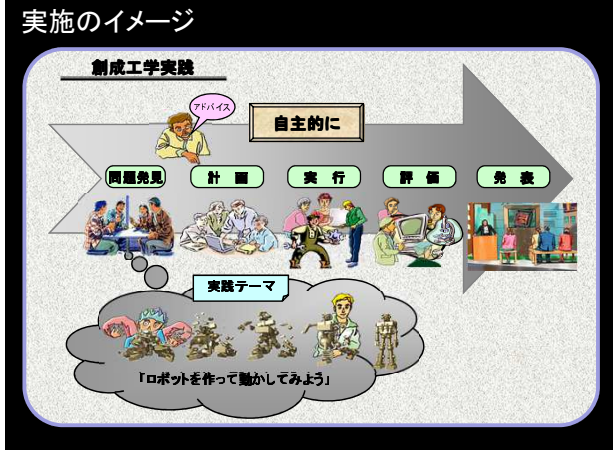


■創成工学実践■

ものづくり体験学習を通し、自主性、創造性、さらには柔軟な問題解決能力を育む授業科目。

- 工学部全学科横断 (5学科約430名)
- 共通専門基礎科目, 必修 (1年後期, 2単位)
- 所属学科の異なる学生4~5名で1グループを編成 (グループ内に同学科の学生はいない)
- センター専任教員, 工学部教員 (約40名), 技術職員, TA (約50名) で担当
- 専門課程における導入教育, 勉学に対する動機付け
- 実践主義, 実例主義
手を汚す, 頭の体操, 手の体操
- 実施テーマ: 教員側で設定, 学科横断的, 教員の専門性に拘らない

2012より
基礎教育教養科目 (総合系科目) 「ものづくり体験」として
他学部学生も受入れ開始!



■ テーマ設定の考え方 ■

- 学生自身が自分たちの進捗状況や結果の良し悪しを判断できるようにする。
- 「計画」→「製作」→「実験・評価」のサイクルが複数回生じるように配慮する。学生のモチベーションを維持し、飽きたり、活動がだれたりしないため。
- グループの共同作業が必要不可欠であるような設定を行う。
- 学生が気に入るもの、満足感が得られるものができるように。
- 必要な工作は簡単に。

■ 指導の考え方 ■

- 次にすべき作業を事細かに「指示」するのではなく、着眼点などをそれとなく示して誘導するような指導を行う。
- 発表会(中間発表会、最終発表会など)を実施する。コンペティションを併用しても良い。ただし発表会を一切行わずにコンペティションのみの実施にはしない。
- 各グループと個人の活動の様子をなるべくモニタリングし、成績評価に反映する。モニタリングの方法としては以下のような方策がある。
 - 継続的に学生の活動を観察する教員を置く。
 - 各グループに日誌を書かせ、グループの活動、個人の活動について記録を残させる。
 - 各人が何をしたのか発表会において自己申告させる。
 - 週替わりでリーダー、書記などの役割を分担させる。
- 学生自身が進捗状況を意識して、日程、スケジュールを自主的に管理するように仕向ける。
- 与えるもの、教えることについて計画する。

■ 学生のテーマ配属とグループ編成 ■

テーマ希望調査

- 実施テーマ一覧を示し「希望するテーマ」を申告

テーマ配属とグループ編成

- 学科をまたいだ混成メンバー4~5名
- グループ内に同学科の学生を含めない
- センターで強制的にグループ分け

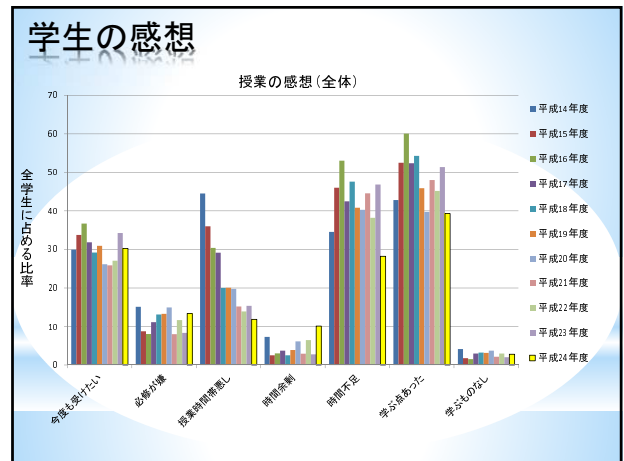
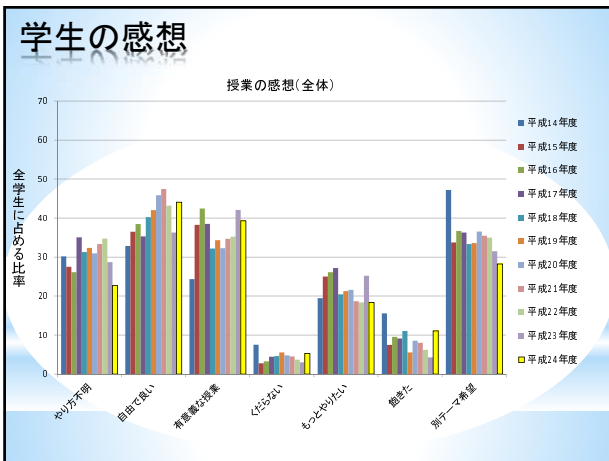
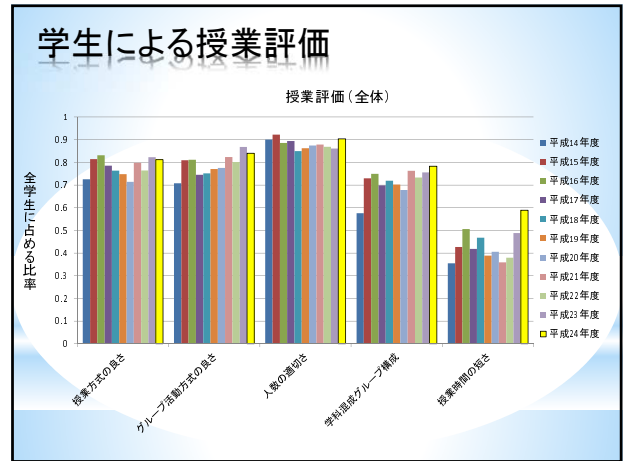
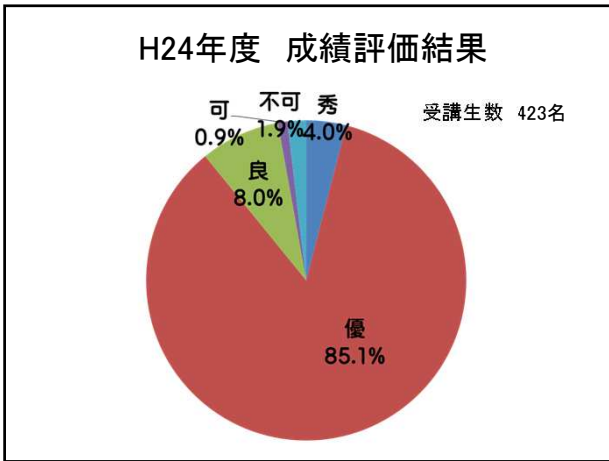
H24年度「創成工学実践」実施テーマ

テーマ番号	テーマ名(50音順)	教室	グループ数	グループ番号	学生数
1	空気を運ぶ車をつくらう	321番教室	6	1~6	31
2	砂金を載せる紙船を作る	222番教室 223番教室	12	7~18	61
3	オリジナルピタゴラス塔を製作しよう!	情報工学科 学生実験室 4-220	7	19~25	35
4	楽器創成	創成工学研修室	5	26~30	26
5	キャットフライヤーの開発	323番教室	6	31~36	31
6	共感や感動が得られる物語を持つ作品の製作	情報工学科 学生実験室 4-219	4	37~40	21
7	携帯可能な一人用シェルダーの開発	8号館建設学科棟3階 製図室 8-301	9	41~49	46
8	グルマニウムラジオを鳴らそう ～さっさと組み立て、高感度～	電気電子工学実験室I	8	50~57	41
9	個性豊かな万華鏡を作ろう・楽しく、そして華やかに!	電気電子工学実験室II	5	58~62	26
10	ゴムで動く機械の製作	322番教室	6	63~68	31
11	紙塔	情報工学科実験室4-221	7	69~75	36
12	最強の紙の橋を築けよう! —1,000mmの紙橋を—	8号館建設学科棟3階 製図室 8-305	9	76~84	46
			84		431



■ 成績評価 ■

- ・ 秀・優・良・可・不可のグレードをつけ、個人を評価する。
- ・ 判定基準のガイドライン
 - ・ 出席が2/3に満たない学生は「不可」とする。
 - ・ 授業の教育目標を達成したら「優」。特に優れていると認められる学生は「秀」とする。
 - ・ グループ内で学生の活動の程度に差異がある場合、グループ内の学生間で成績に差をつける。
 - ・ 再試験制度は創成工学実践の趣旨にそぐわないので一切認めない。



■学生の反応■

- ・ 熱心な学生は特定の学科の者ではない。その反面初めからやる気を見せない者もいる。
- ・ すぐにインターネットで調べる。ただし内容が理解できているとは限らない。また得られた情報の真偽を判断できない。
- ・ なかなか手が付かない。時間が足りなくなる。
- ・ 計画性の欠如。いきあたりばったり。寸法を決めずに材料を加工し始める。
- ・ 回り道はしたくない。無駄な努力はしたくない。ゴールを知りたい。何をしたらおしまい？ゴールの先には行きたくない。「やらなければならないこと」と「やらなくてもいいこと」。

■学生を苦しめる呪縛■

- 呪縛1： **正解がある**。そして正解を出さなければならない。
- 呪縛2： **正解を求める方法や理論がある**。自分ができないのは正解を導く方法を知らないから。
- 呪縛3： **失敗は犯したくない**。失敗をして非難されたくない。

自己流 + 失敗 = 極刑

■驚異の100円ショップ■

「100円のおもちゃはよくできている...」

- ・ 仕組み・原理の考案
- ・ アイディアの具現化・実体化
- ・ 問題点の同定と解決
- ・ 「ものをつくる」技術・技能の存在

ものづくりの**原体験**

■ものづくりによる「導入教育」の意味■ 工学的感受性の涵養

つくってみることによってわかることがある

- ・ やらなければ具体的に見えてこない
... 原体験
- ・ 身につけなければならないこと
... 動機付け、モチベーション
- ・ 「理論を知りたい」「ここには何かあるのではないか」
... 探究心、科学のこころ

■外部評価■

実施年度: 平成19年度
評価委員: 産官学から1名ずつ計3名

評価結果

事業全体

- ・ 限られた予算と人員の中で、多面的な事業を展開している。
- ・ この事業は平成22年度以降も是非継続してもらいたい。

各事業項目について

学科横断型教育実施体制の整備

- ・ 学科間の協力がうまく得られている。
- ・ 学科横断型の教育プログラムを開発・実践している。
- ・ 実務体験の豊富な客員教授を学外から招聘して実践的なことを教えている。

創造性教育プログラムの開発と実施

- ・ 1年生という早い時期からものづくりの芽生えを醸成している。
- ・ 他学科の学生とのチームを編成し、異なるバックグラウンドの学生との融合を図っている。

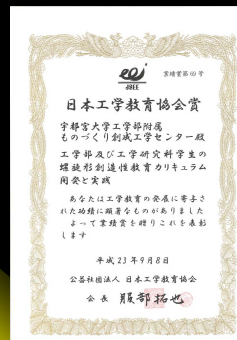
工学と実務を対応させた教育プログラム

- ・ 親しみのわく卒業生を招聘して、企業のものづくりへの取り組みを教えている。
- ・ インターンシップは企業の実態を知る上で効果的な授業となっている。
- ・ ものづくりの技能の重要性を理解させる地域連携教育が設けられている。

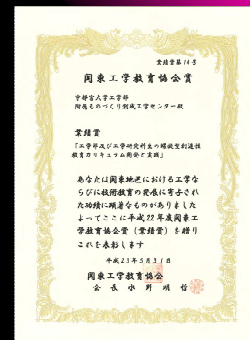
学生のものづくり活動の支援

- ・ 学生プロジェクトの支援は引き続き推進すべき。

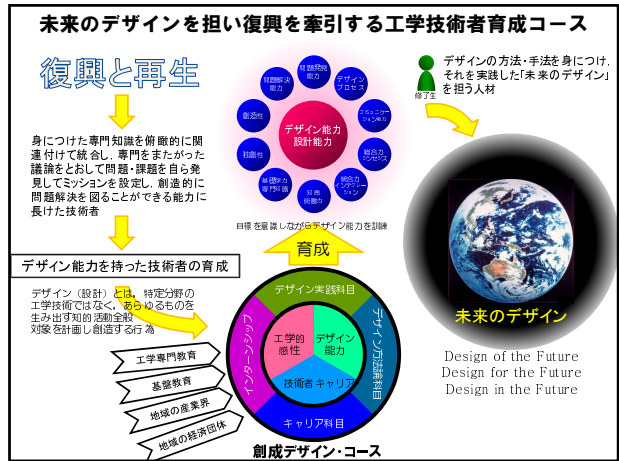
■受賞■



平成22年度
日本工学会教育協会業績賞



平成22年度
関東工学会教育協会業績賞



宇部宮大学工学部・工学研究科に対する学外からの要望

- 創造性教育、ものづくり教育の実績に対する認識
- 創造的技術者養成に貢献すること
- 学生の自発的な活動、インターンシップを高めること
- 学生に能力があるものとする
- 1916のつくり創成 工学センター外部評価

学外・工学研究科 調査アンケート

学生時代にすべきこと

- インターンシップ
- 学科を超えたチームでの活動
- 学生が主体的に出る実践的り活動

就職 企業 調査アンケート

期待する業務

- 研究開発
- 設計
- 期待する能力
- 問題解決能力、積極性、自主性、責任感、専門知識、広い知識、従来の技術課題に対する理解、実体験

産出担当者からのコメント

- 目標を掲げて対応が取れる学生を育ててほしい
- 問題点を合理的な手段で適切な結論を行動力をもってほしい
- 製造業への対応力を養ってほしい
- 「地盤」力が大切、考え抜く力を養ってほしい
- 自分の考えを整理する能力を養ってほしい
- 会社の将来を担う人材を育ててほしい
- 物を作らせるような実践的な教育をしてほしい
- 教育科目で、計画立案、実行を体験させる教育を実施してほしい

教育科目

- a) デザイン方法論科目
 - 創成デザイン方法論、創成デザイン特論など
- b) デザイン実践科目
 - デザイン実習Ⅲ、創成デザイン実習Ⅲなど
- c) キャリア科目
 - 実践企業人対談、ものづくり実践講義、経営工学特論など
- d) インターンシップ科目

課外教育活動

- a) デザインコンペティション
- b) 学生プロジェクト

教育目標

- 1) デザイン能力を養い、実践させる。
- 2) 工学の感性を身に付けさせる。
- 3) 技術者の職務を理解させ、自らのキャリアを切り開く能力を養う。

カリキュラム実施の経緯

デザインコース 対応プログラム	別プログラム実施 学部まで	実施の経緯
デザイン方法論	○	
デザイン実践	○	
キャリア科目	○	
デザイン感性	○	
技術者キャリア	○	
キャリア科目	○	
デザイン実践	○	
キャリア科目	○	
デザイン感性	○	
技術者キャリア	○	
キャリア科目	○	

カリキュラム経緯と実施の主たる担当

(メモ)

A series of horizontal dashed lines for writing notes.